

IBM

@server

iSeries

OS/400 コマンド

DSPAUTUSR (認可ユーザーの表示) ~

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

OS/400 コマンド

DSPAUTUSR (認可ユーザーの表示) ~

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、373 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、OS/400 (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： iSeries
Operating System/400 Commands
Starting with DSPAUTUSR (Display Authorized Users)
Version 5 Release 3

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

認可ユーザー表示 (DSPAUTUSR)	1	DSPCDEFNTの例	16
パラメーター	1	エラー・メッセージ	17
順序 (SEQ)	1	構成リスト表示 (DSPCFGL)	19
出力 (OUTPUT)	2	パラメーター	19
DSPAUTUSRの例	2	構成リスト (CFGL)	19
エラー・メッセージ: DSPAUTUSR	2	出力 (OUTPUT)	19
バックアップ状況の表示 (DSPBCKSTS)	3	DSPCFGLの例	19
パラメーター	3	エラー・メッセージ: DSPCFGL	20
出力 (OUTPUT)	3	クラス表示 (DSPCLS)	21
DSPBCKSTSの例	3	パラメーター	21
エラー・メッセージ: DSPBCKSTS	3	クラス (CLS)	21
バックアップ・オプション表示 (DSPBCKUP)	5	出力 (OUTPUT)	21
パラメーター	5	DSPCLSの例	22
バックアップ・オプション (BCKUOPT)	5	エラー・メッセージ: DSPCLS	22
出力 (OUTPUT)	5	クラスター情報の表示 (DSPCLUINF)	25
DSPBCKUPの例	6	パラメーター	25
エラー・メッセージ: DSPBCKUP	6	クラスター (CLUSTER)	25
バックアップ・リスト表示 (DSPBCKUPL)	7	詳細 (DETAIL)	25
パラメーター	7	出力 (OUTPUT)	26
バックアップ・リスト (BCKUPL)	7	DSPCLUINFの例	26
出力 (OUTPUT)	7	エラー・メッセージ: DSPCLUINF	26
DSPBCKUPLの例	8	表示コマンド (DSPCMD)	27
エラー・メッセージ: DSPBCKUPL	8	パラメーター	27
停止点表示 (DSPBKP)	9	コマンド (CMD)	27
パラメーター	9	出力 (OUTPUT)	28
出力 (OUTPUT)	9	DSPCMDの例	28
プログラム (PGM)	9	エラー・メッセージ: DSPCMD	28
DSPBKPの例	10	接続リスト表示 (DSPCNL)	31
エラー・メッセージ: DSPBKP	10	パラメーター	31
バインド・ディレクトリーの表示 (DSPBNDDIR)	11	接続リスト (CNL)	31
パラメーター	11	出力 (OUTPUT)	31
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	11	DSPCNLの例	31
出力 (OUTPUT)	12	エラー・メッセージ: DSPCNL	32
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	12	接続状況の表示 (DSPCNNSTS)	33
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	13	パラメーター	33
DSPBNDDIRの例	13	装置 (DEV)	33
エラー・メッセージ: DSPBNDDIR	13	出力 (OUTPUT)	33
コード化フォントの表示 (DSPCDEFNT)	15	DSPCNNSTSの例	34
パラメーター	15	エラー・メッセージ: DSPCNNSTS	34
コード化フォント (CDEFNT)	15	サービス・クラス記述表示 (DSPCOSD)	35
出力 (OUTPUT)	16	パラメーター	35
フォント文字セット (FNTCHRSET)	16	サービス・クラス記述 (COSD)	35
		出力 (OUTPUT)	35
		DSPCOSDの例	35

エラー・メッセージ： DSPCOSD	36
CHKPND制約の表示 (DSPCPCST)	37
パラメーター	37
ファイル (FILE)	37
制約名 (CST)	38
出力 (OUTPUT)	38
DSPCPCSTの例	38
エラー・メッセージ： DSPCPCST	38
CRG情報の表示 (DSPCRGINF)	39
パラメーター	39
クラスター (CLUSTER)	40
クラスター資源グループ (CRG)	40
出力 (OUTPUT)	40
DSPCRGINFの例	40
エラー・メッセージ： DSPCRGINF	40
通信サイド情報の表示 (DSPCSI)	43
パラメーター	43
サイド情報 (CSI)	43
出力 (OUTPUT)	44
DSPCSIの例	44
エラー・メッセージ： DSPCSI	44
制御装置記述の表示 (DSPCTLD)	47
パラメーター	47
制御装置記述 (CTLD)	47
出力 (OUTPUT)	47
オプション (OPTION)	48
DSPCTLDの例	48
エラー・メッセージ： DSPCTLD	48
現行ディレクトリーの表示 (DSPCURDIR)	51
パラメーター	51
出力 (OUTPUT)	51
DSPCURDIRの例	51
エラー・メッセージ： DSPCURDIR	52
デバッグ表示 (DSPDBG)	53
パラメーター	53
出力 (OUTPUT)	53
DSPDBGの例	54
エラー・メッセージ： DSPDBG	54
デバッグ監視の表示 (DSPDBGWCH)	55
パラメーター	55
DSPDBGWCHの例	55
エラー・メッセージ： DSPDBGWCH	55
データベース関係表示 (DSPDBR)	57
パラメーター	58
ファイル (FILE)	58
出力 (OUTPUT)	59
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	60

出力メンバー・オプション (OUTMBR)	60
メンバー (MBR)	61
レコード様式 (RCDFMT)	61
DSPDBRの例	61
エラー・メッセージ： DSPDBR	62
DDMファイル表示 (DSPDDMF)	65
パラメーター	65
ファイル (FILE)	65
出力 (OUTPUT)	66
DSPDDMFの例	67
エラー・メッセージ： DSPDDMF	67
装置記述の表示 (DSPDEVD)	69
パラメーター	69
装置記述 (DEVD)	69
出力 (OUTPUT)	69
オプション (OPTION)	69
DSPDEVDの例	70
エラー・メッセージ： DSPDEVD	70
ディレクトリー項目の表示 (DSPDIRE)	71
パラメーター	71
ユーザー識別コード (USRID)	72
ユーザー・プロファイル (USER)	72
出力 (OUTPUT)	73
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	73
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	74
詳細 (DETAIL)	74
出力ファイル形式 (OUTFILFMT)	75
出力するデータ (OUTDTA)	75
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	76
DSPDIREの例	76
エラー・メッセージ： DSPDIRE	77
ディスク表示 (DSPDKT)	79
パラメーター	79
ディスク装置 (DEV)	79
ディスク・ラベル (LABEL)	79
データ・タイプ (DATA)	80
出力 (OUTPUT)	80
DSPDKTの例	80
エラー・メッセージ： DSPDKT	80
DLファイル属性の表示 (DSPDLFA)	83
パラメーター	83
ファイル (FILE)	83
フィールド名 (FLD)	84
出力 (OUTPUT)	84
DSPDLFAの例	84
エラー・メッセージ： DSPDLFA	84
DLO監査レベルの表示 (DSPDLOAD)	85
パラメーター	85
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	85
フォルダー (FLR)	86

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	86
出力 (OUTPUT)	86
オブジェクトのタイプ (TYPE)	87
リストのレベル (LEVEL)	87
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	87
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	88
DSPDLOADの例	88
エラー・メッセージ: DSPDLOAD	89
DLO権限の表示 (DSPDLOAUT)	91
パラメーター	91
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	91
フォルダー (FLR)	92
出力 (OUTPUT)	92
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	92
DSPDLOAUTの例	93
エラー・メッセージ: DSPDLOAUT	93
DLO名の表示 (DSPDLONAM)	95
パラメーター	95
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	95
フォルダー (FLR)	96
文書識別コード (DOCID)	96
LADNタイム・スタンプ (LADNTSP)	97
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	97
オブジェクト・クラス (OBJCLS)	97
出力 (OUTPUT)	98
DSPDLONAMの例	98
エラー・メッセージ: DSPDLONAM	98
配布リスト表示 (DSPDSTL)	99
パラメーター	99
リスト識別コード (LSTID)	99
所有者 (OWNER)	100
出力 (OUTPUT)	100
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	101
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	101
詳細 (DETAIL)	102
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	102
DSPDSTLの例	103
エラー・メッセージ: DSPDSTL	104
配布ログ表示 (DSPDSTLOG)	105
パラメーター	106
ログ出力の期間 (PERIOD)	106
機能タイプ (FNCTYP)	108
項目タイプ (ENTTYP)	108
起点ユーザーID (ORGUSRID)	109
起点システム名 (ORGSYSNAME)	109
ジョブ名 (JOB)	110
ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)	110
出力 (OUTPUT)	111
DSPDSTLOGの例	111
エラー・メッセージ: DSPDSTLOG	111
配布サービス表示 (DSPDSTSRV)	113

パラメーター	113
メニュー・オプション (OPTION)	113
出力 (OUTPUT)	114
DSPDSTSRVの例	114
エラー・メッセージ: DSPDSTSRV	114
データの表示 (DSPDTA)	117
エラー・メッセージ: DSPDTA	117
パラメーター	117
DFUPプログラム (DFUPGM)	117
データベース・ファイル (FILE)	118
メンバー (MBR)	118
例	118
エラー・メッセージ: DSPDTA	118
データ域表示 (DSPDTAARA)	121
パラメーター	121
データ域 (DTAARA)	121
出力 (OUTPUT)	122
出力形式 (OUTFMT)	122
システム (SYSTEM)	122
DSPDTAARAの例	123
エラー・メッセージ: DSPDTAARA	123
データ・ディクショナリー表示 (DSPDTADCT)	125
パラメーター	125
データ・ディクショナリー (DTADCT)	125
定義 (DFN)	125
定義タイプ (DFNTYPE)	126
出力 (OUTPUT)	126
ファイル情報 (FILEINF)	126
レコード様式情報 (RCDFMTINF)	127
フィールド情報 (FLDINF)	127
作成日 (CRTDATE)	128
DSPDTADCTの例	129
エラー・メッセージ: DSPDTADCT	129
編集記述表示 (DSPEDTD)	131
パラメーター	131
編集記述 (EDTD)	131
出力 (OUTPUT)	131
DSPEDTDの例	132
エラー・メッセージ: DSPEDTD	132
EWCバーコード項目の表示 (DSPEWCBCDE)	133
パラメーター	133
バーコード・グループ (BCDGRP)	133
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	133
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	133
DSPEWCBCDEの例	134
エラー・メッセージ: DSPEWCBCDE	134
無線CTLメンバー表示 (DSPEWCM)	135
パラメーター	135

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	135
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	135
DSPEWCMの例	136
エラー・メッセージ: DSPEWCM	136

EWC PTC項目の表示 (DSPEWCPTCE) 137

パラメーター	137
PTCグループ (PTCGRP)	137
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	137
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	137
DSPEWCPTCEの例	138
エラー・メッセージ: DSPEWCPTCE	138

無線回線メンバーの表示 (DSPEWLM) 139

パラメーター	139
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	139
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	139
DSPEWLMの例	140
エラー・メッセージ: DSPEWLM	140

満了スケジュールの表示 (DSPEXPSCD) 141

パラメーター	141
出力 (OUTPUT)	141
DSPEXPSCDの例	141
エラー・メッセージ: DSPEXPSCD	142

ファイル表示 (DSPF) 143

パラメーター	143
ストリーム・ファイル, または (STMF)	143
データベース・ファイル (FILE)	144
ファイル・メンバー (MBR)	144
DSPFの例	144
エラー・メッセージ: DSPF	144

機能使用法の表示 (DSPFCNUSG) 147

パラメーター	147
機能ID (FCNID)	147
出力 (OUTPUT)	147
DSPFCNUSGの例	148
エラー・メッセージ: DSPFCNUSG	148

ファイル記述表示 (DSPFD) 149

パラメーター	149
ファイル (FILE)	150
情報のタイプ (TYPE)	151
出力 (OUTPUT)	152
ファイル属性 (FILEATR)	152
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	153
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	154
システム (SYSTEM)	155
DSPFDの例	155
エラー・メッセージ: DSPFD	156

ファイル・フィールド記述表示 (DSPFFD) 159

パラメーター	160
--------	-----

ファイル (FILE)	160
出力 (OUTPUT)	161
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	162
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	162
システム (SYSTEM)	163
DSPFFDの例	163
エラー・メッセージ: DSPFFD	163

フォント資源属性の表示 (DSPFNTRSCA) 167

パラメーター	167
フォント資源 (FNTRSC)	167
出力 (OUTPUT)	168
DSPFNTRSCAの例	168
エラー・メッセージ: DSPFNTRSCA	168

フォント・テーブルの表示 (DSPFNNTBL) 169

パラメーター	169
フォント・テーブル (FNNTBL)	169
出力 (OUTPUT)	170
DSPFNNTBLの例	171
エラー・メッセージ: DSPFNNTBL	171

ハードウェア資源の表示 (DSPHDWRSC) 173

パラメーター	173
タイプ (TYPE)	173
出力 (OUTPUT)	174
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	174
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	175
出力ファイル形式 (OUTFILFMT)	176
回線タイプ (LINETYPE)	176
DSPHDWRSCの例	176
エラー・メッセージ: DSPHDWRSC	177

階層ファイル・システムの表示 (DSPHFS) 179

パラメーター	179
出力 (OUTPUT)	179
DSPHFSの例	179
エラー・メッセージ: DSPHFS	180

DBCS変換辞書表示 (DSPIGCDCT) 181

パラメーター	181
DBCS変換辞書 (IGCDCT)	181
辞書項目 (ENTRY)	182
出力 (OUTPUT)	182
DSPIGCDCTの例	182
エラー・メッセージ: DSPIGCDCT	183

IPL属性の表示 (DSPIPLA) 185

パラメーター	185
出力 (OUTPUT)	185
DSPIPLAの例	185

エラー・メッセージ： DSPIPLA	185
IPX記述表示 (DSPIPXD)	187
パラメーター	187
IPX記述 (IPXD)	187
出力 (OUTPUT)	187
DSPIPXDの例	187
エラー・メッセージ： DSPIPXD	188
ジョブ表示 (DSPJOB)	189
パラメーター	190
ジョブ名 (JOB)	190
出力 (OUTPUT)	190
オプション (OPTION)	191
重複ジョブ・オプション (DUPIJOB)	192
DSPJOBの例	192
エラー・メッセージ： DSPJOB	192
ジョブ記述表示 (DSPJOB)	195
パラメーター	195
ジョブ記述 (JOB)	195
出力 (OUTPUT)	196
DSPJOBの例	196
エラー・メッセージ： DSPJOB	196
ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG)	197
パラメーター	197
ジョブ名 (JOB)	198
出力 (OUTPUT)	198
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	199
出力メンバー・オプション (OUTMEMBER)	199
DSPJOBLOGの例	200
エラー・メッセージ： DSPJOBLOG	200
ジョブ・テーブルの表示 (DSPJOB)	201
パラメーター	201
出力 (OUTPUT)	201
DSPJOBの例	201
エラー・メッセージ： DSPJOB	201
ジャーナル表示 (DSPJRN)	203
パラメーター	204
ジャーナル (JRN)	206
ジャーナルされた物理ファイル (FILE)	206
ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)	208
大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)	210
開始日および時刻 (FROMTIME)	210
大きい終了順序番号 (TOENTLRG)	210
終了日および時刻 (TOTIME)	211
ジャーナル項目の数 (NBRENT)	211
ジャーナル・コード (JRNCD)	211
ジャーナル項目タイプ (ENTTYP)	212
ジョブ名 (JOB)	213
プログラム (PGM)	213
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	213
大きいコミット・サイクルID (CCIDLRG)	214

従属項目 (DEPENT)	214
出力形式 (OUTFMT)	214
ジャーナル識別番号 (JRNID)	215
出力 (OUTPUT)	215
隠れた項目の組み込み (INCHIDENT)	215
出力ファイル形式 (OUTFILFMT)	216
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	224
出力を受け取るメンバー (OUTMEMBER)	225
項目データの長さ (ENTDTALEN)	226
ヌル値標識の長さ (NULLINDLEN)	228
項目の組み込み (INCENT)	230
開始順序番号 (FROMENT)	231
終了順序番号 (TOENT)	231
コミット・サイクル識別コード (CMTCYCID)	231
例	232
エラー・メッセージ	233
ジャーナル・レシーバー属性表示 (DSPJRNRCVA)	237
パラメーター	237
ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)	237
出力 (OUTPUT)	238
DSPJRNRCVAの例	238
エラー・メッセージ： DSPJRNRCVA	238
JAVAプログラムの表示 (DSPJVAPGM)	241
パラメーター	241
クラス・ファイルまたはJARファイル (CLSF)	241
出力 (OUTPUT)	242
例	242
エラー・メッセージ	242
キーボード・マップ表示 (DSPKBDMAP)	243
パラメーター	243
DSPKBDMAPの例	243
エラー・メッセージ： DSPKBDMAP	243
LAN アダプター・プロファイルの表示 (DSPLANADPP)	245
パラメーター	245
回線記述 (LINE)	245
アダプター (ADPTNAME)	245
アダプター・アドレス (ADPTADR)	246
出力 (OUTPUT)	246
DSPLANADPPの例	246
エラー・メッセージ： DSPLANADPP	246
LAN媒体ライブラリーの表示 (DSPLANMLB)	249
パラメーター	249
回線記述 (LIND)	249
出力 (OUTPUT)	249
DSPLANMLBの例	250
エラー・メッセージ： DSPLANMLB	250

LAN状況の表示 (DSPLANSTS) 251

パラメーター	251
回線記述 (LINE)	251
出力 (OUTPUT)	251
DSPLANSTSの例	252
エラー・メッセージ: DSPANSTS	252

ライブラリー表示 (DSPLIB) 253

パラメーター	254
ライブラリー (LIB)	254
ASP装置 (ASPDEV)	255
出力 (OUTPUT)	256
DSPLIBの例	256
エラー・メッセージ: DSPLIB	256

ライブラリー記述の表示 (DSPLIBD) 259

パラメーター	259
ライブラリー (LIB)	259
出力 (OUTPUT)	259
DSPLIBDの例	260
エラー・メッセージ: DSPLIBD	260

ライブラリー・リスト表示 (DSPLIBL) 261

パラメーター	261
出力 (OUTPUT)	261
DSPLIBLの例	261
エラー・メッセージ: DSPLIBL	262

ライセンス・キー情報の表示 (DSPLICKEY) 263

パラメーター	263
プロダクト識別コード (PRDID)	264
ライセンス条件 (LICTRM)	264
機能 (FEATURE)	264
システム製造番号 (SERIAL)	264
出力 (OUTPUT)	265
ライセンス・キー・ファイル (LICKEYFILE)	265
ライセンス・キー・メンバー (LICKEYMBR)	266
DSPLICKEYの例	266
エラー・メッセージ: DSPLICKEY	266

回線記述の表示 (DSPLIND) 267

パラメーター	267
回線記述 (LIND)	267
出力 (OUTPUT)	267
オプション (OPTION)	267
DSPLINDの例	268
エラー・メッセージ: DSPLIND	269

オブジェクト・リンクの表示 (DSPLNK) 271

パラメーター	271
オブジェクト (OBJ)	272
出力 (OUTPUT)	272
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	272
詳細 (DETAIL)	273
表示オプション (DSPOPT)	273

DSPLNKの例	273
エラー・メッセージ: DSPLNK	274

ログ表示 (DSPLOG) 275

パラメーター	275
ログ (LOG)	275
ログ出力の期間 (PERIOD)	276
出力 (OUTPUT)	277
表示するジョブ (JOB)	278
メッセージ識別コード (MSGID)	279
DSPLOGの例	279
エラー・メッセージ: DSPLOG	279

マウントFS情報の表示 (DSPMFSINF) 281

パラメーター	281
オブジェクト (OBJ)	281
出力 (OUTPUT)	282
DSPMFSINFの例	282
エラー・メッセージ: DSPMFSINF	282

メニュー属性表示 (DSPMNUA) 283

パラメーター	283
メニュー (MENU)	284
出力 (OUTPUT)	284
DSPMNUAの例	284
エラー・メッセージ: DSPMNUA	284

モジュールの表示 (DSPMOD) 287

パラメーター	287
モジュール (MODULE)	288
詳細 (DETAIL)	288
出力 (OUTPUT)	289
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	289
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	290
DSPMODの例	290
エラー・メッセージ: DSPMOD	291

モード記述表示 (DSPMODD) 293

パラメーター	293
モード記述 (MODD)	293
出力 (OUTPUT)	293
DSPMODDの例	293
エラー・メッセージ: DSPMODD	294

モジュール・ソースの表示 (DSPMODSRC) 295

パラメーター	295
DSPMODSRCの例	295
エラー・メッセージ: DSPMODSRC	295

モード状況表示 (DSPMODSTS) 297

パラメーター	297
装置 (DEV)	297
モード (MODE)	297
出力 (OUTPUT)	298
DSPMODSTSの例	298

エラー・メッセージ： DSPMODSTS.	298
メッセージ表示 (DSPMSG).	299
パラメーター	299
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	300
出力 (OUTPUT)	300
メッセージ・タイプ (MSGTYPE)	301
最初に表示するメッセージ (START)	301
重大度コード・フィルター (SEV)	302
援助レベル (ASTLVL)	302
DSPMSGの例	303
エラー・メッセージ： DSPMSG	303
メッセージ記述表示 (DSPMSGD)	305
パラメーター	305
メッセージ識別コードの範囲 (RANGE)	305
メッセージ・ファイル (MSGF)	306
詳細 (DETAIL)	307
メッセージ・テキストの形式 (FMTTXT)	307
出力 (OUTPUT)	307
DSPMSGDの例	307
エラー・メッセージ： DSPMSGD	308
通称の表示 (DSPNCK).	309
パラメーター	309
通称 (NCK)	310
通称のタイプ (TYPE)	310
所有者 (OWNER)	310
出力 (OUTPUT)	311
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	311
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	312
DSPNCKの例	312
エラー・メッセージ： DSPNCK	313
NDSコンテキストの表示 (DSPNDSCTX) 315	
パラメーター	315
出力 (OUTPUT)	315
例	315
エラー・メッセージ： DSPNDSCTX.	315
ネットワーク属性表示 (DSPNETA).	317
パラメーター	317
出力 (OUTPUT)	317
DSPNETAの例	317
エラー・メッセージ： DSPNETA.	317
ノード・グループの表示 (DSPNODGRP).	319
パラメーター	319
ノード・グループ(NODGRP)	319
出力 (OUTPUT)	320
DSPNODGRPの例	320
エラー・メッセージ： DSPNODGRP	320
NETBIOS記述の表示 (DSPNTBD)	321
パラメーター	321

NETBIOS記述 (NTBD)	321
出力 (OUTPUT)	321
DSPNTBDの例	321
エラー・メッセージ： DSPNTBD.	322
NETWARE認証項目の表示 (DSPNTWAUTE)	323
パラメーター	323
サーバー・タイプ (SVRTYPE)	323
NDSツリー (NDSTREE)	323
サーバー (SERVER)	323
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	324
出力 (OUTPUT)	324
DSPNTWAUTEの例	324
エラー・メッセージ： DSPNTWAUTE	324
NETWARE接続の表示 (DSPNTWCNN) 325	
パラメーター	325
サーバー (SERVER)	325
オプション (OPTION)	325
接続番号 (C>NNNBR)	326
出力 (OUTPUT)	326
例	326
エラー・メッセージ： DSPNTWCNN	326
NETWAREボリュームの表示 (DSPNTWVOL).	327
パラメーター	327
ボリューム (VOL)	327
サーバー (SERVER)	327
出力 (OUTPUT)	327
DSPNTWVOLの例	328
エラー・メッセージ： DSPNTWVOL	328
ネットワーク・インターフェース記述の表示 (DSPNWID)	329
パラメーター	329
ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)	329
出力 (OUTPUT)	329
オプション (OPTION)	330
DSPNWIDの例	330
エラー・メッセージ： DSPNWID.	330
NWS属性の表示 (DSPNWSA).	333
パラメーター	333
オプション (OPTION)	333
出力 (OUTPUT)	333
DSPNWSAの例	334
エラー・メッセージ： DSPNWSA	334
ネットワーク・サーバー記述の表示 (DSPNWSD)	335
パラメーター	335
ネットワーク・サーバー 記述 (NWSD)	335
出力 (OUTPUT)	335

オプション (OPTION)	336
DSPNWSの例	336
エラー・メッセージ: DSPNWS	336

NWS記憶スペースの表示

(DSPNWSSTG) 337

パラメーター	337
ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)	337
出力 (OUTPUT)	337
DSPNWSSTGの例	338
エラー・メッセージ: DSPNWSSTG	338

NWSユーザーの表示 (DSPNWSUSR) 339

パラメーター	339
サーバー (SERVER)	339
サーバー・タイプ (SVRTYPE)	339
出力 (OUTPUT)	340
DSPNWSUSRの例	340
エラー・メッセージ: DSPNWSUSR	340

NWSユーザー属性の表示

(DSPNWSUSRA) 341

パラメーター	341
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	341
プロファイル・タイプ (PRFTYPE)	341
オプション (OPTION)	342
出力 (OUTPUT)	342
DSPNWSUSRAの例	342
エラー・メッセージ: DSPNWSUSRA	342

オブジェクト権限表示 (DSPOBJAUT) 343

パラメーター	343
オブジェクト (OBJ)	344
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	345
ASP装置 (ASPDEV)	345
出力 (OUTPUT)	345
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	346
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	346
権限タイプ (AUTTYPE)	347
DSPOBJAUTの例	347
エラー・メッセージ: DSPOBJAUT	348

オブジェクト記述表示 (DSPOBJD) . . . 349

パラメーター	350
------------------	-----

オブジェクト (OBJ)	350
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	352
詳細 (DETAIL)	353
ASP装置 (ASPDEV)	353
出力 (OUTPUT)	354
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	355
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	355
DSPOBJDの例	356
エラー・メッセージ: DSPOBJD	356

OPTICONNECTリンク状況の表示

(DSPOPCLNK) 359

パラメーター	359
出力 (OUTPUT)	359
DSPOPCLNKの例	359
エラー・メッセージ: DSPOPCLNK	360

光ディスク表示 (DSPOPT) 361

パラメーター	361
ボリューム識別コード (VOL)	362
光ディスク装置 (DEV)	362
データ・タイプ (DATA)	363
出力 (OUTPUT)	363
経路 (PATH)	363
ユーザー・スペース (USRSPC)	364
ユーザー空間置き換え (REPLACE)	365
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	365
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	365
DSPOPTの例	366
エラー・メッセージ: DSPOPT	366

光ディスク・ロック表示 (DSPOPTLCK) 371

パラメーター	371
タイプ (TYPE)	371
ボリューム識別コード (VOL)	371
経路 (PATH)	372
出力 (OUTPUT)	372
DSPOPTLCKの例	372
エラー・メッセージ: DSPOPTLCK	372

付録. 特記事項 373

商標	374
資料に関するご使用条件	375
コードに関する特記事項	376

認可ユーザー表示 (DSPAUTUSR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

認可ユーザー表示(DSPAUTUSR)コマンドは、アルファベット順に認可されたシステム・ユーザーの名前を表示または印刷します。次の情報が各ユーザーに指定されています。すなわち、それらのユーザーがメンバーであるグループ・プロファイル、最も新しいパスワード変更日付、ユーザー・プロファイルのパスワードの有無、パスワード・レベル0または1のパスワードがユーザーにあるかどうか、パスワード・レベル2または3のパスワードがユーザーにあるかどうか、およびISERIES 400 SUPPORT FOR WINDOWS NETWORK NEIGHBORHOOD (ISERIES 400 NETSERVER)で使用するパスワードがユーザーにあるか、およびローカル・パスワード管理値などです。

注: このコマンドが表示するユーザー・プロファイル情報を検索している間は、別のジョブが（たとえば、ユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドによって）ユーザー・プロファイルを変更することはできません。

制約事項: システム・ユーザーのリストには、このコマンドのユーザーが少なくとも読み取り(*READ)権限を持っているユーザー・プロファイルの名前だけが含まれています。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SEQ	順序	*USRPRF, *GRPPRF	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、位置 2

[トップ](#)

順序 (SEQ)

システム・ユーザーのリストをユーザー・プロファイル名またはグループ・プロファイル名のアルファベット順にするかを指定します。

*USRPRF

リストはユーザープロファイル名のアルファベット順になります。

*GRPPRF

リストはグループ・プロファイル名のアルファベット順になります。各グループのメンバーはユーザー・プロファイル名のアルファベット順にリストされます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPAUTUSRの例

例1:許可ユーザーおよびグループ・プロファイル名の表示

```
DSPAUTUSR
```

このコマンドは、許可ユーザーおよびそのグループ・プロファイル名のリストを表示します。リストはユーザープロファイル名のアルファベット順になります。OUTPUT(*)も想定されます。コマンドがワークステーションとして投入されたか、あるいはバッチ入力ストリームの一部として投入されたかに応じて、リストは画面に表示されるか、印刷されます。

例2:出力の印刷

```
DSPAUTUSR SEQ(*GRPPRF) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドによって、許可システム・ユーザー・プロファイル名およびそのグループ・プロファイル名が印刷されることとなります。出力はグループ・プロファイル名のアルファベット順に印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPAUTUSR

*ESCAPE メッセージ

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF2237

ユーザー・リストの表示は認可されていない。

[トップ](#)

バックアップ状況の表示 (DSPBCKSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バックアップ状況表示(DSPBCKSTS)コマンドにより、ユーザーはバックアップに使用されたテープ・セットおよび各テープ・セットに保管されたものに関する情報を表示することができます。バックアップ・オプションを使用して実行されたバックアップに関する情報のみが表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPBCKSTSの例

DSPBCKSTS OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、バックアップ状況を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPBCKSTS

*ESCAPEメッセージ

CPF1E6C

バックアップ・オプションは使用中である。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

バックアップ・オプション表示 (DSPBCKUP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バックアップ・オプション表示(DSPBCKUP)コマンドにより、ユーザーは事前定義バックアップの1つにあるオプションを表示することができます。バックアップの詳細は、バックアップおよび回復の手引き (SD88-5008)にあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BCKUPOPT	バックアップ・オプション	*DAILY, *WEEKLY, *MONTHLY	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

バックアップ・オプション (BCKUPOPT)

表示するバックアップ・オプションを指定します。

これは必須パラメーターです。

*DAILY

日次バックアップ・オプションが表示されます。

*WEEKLY

週次バックアップ・オプションが表示されます。

*MONTHLY

月次バックアップ・オプションが表示されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

DSPBCKUPの例

例1:バックアップ・オプションの表示

```
DSPBCKUP BCKUPOPT(*DAILY)
```

このコマンドは、日次バックアップ・オプションを表示します。

例2:バックアップ・オプションの印刷

```
DSPBCKUP BCKUPOPT(*MONTHLY) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、月次バックアップ・オプションを印刷します。

エラー・メッセージ： DSPBCKUP

*ESCAPEメッセージ

CPF1E6C

バックアップ・オプションは使用中である。

CPF1E67

バックアップ・オプションおよびライブラリー・バックアップ・リストに損傷がある。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

バックアップ・リスト表示 (DSPBCKUPL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バックアップ・リスト表示(DSPBCKUPL)コマンドにより、ユーザーはバックアップするライブラリーおよびフォルダーを表示することができます。バックアップの詳細は、バックアップおよび回復の手引き (SD88-5008)にあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BCKUPL	バックアップ・リスト	*LIB, *FLR	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション、位置 2

[トップ](#)

バックアップ・リスト (BCKUPL)

表示するバックアップ・リストを指定します。

***LIB** ライブラリー・バックアップ・リストが表示されます。

***FLR** フォルダー・バックアップ・リストが表示されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

バックアップ・リストが表示されるか印刷されるかを指定します。

*
- 出力が表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合) , あるいはジョブのスプール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPBCKUPLの例

例1:ライブラリー・バックアップ・リストの表示

```
DSPBCKUPL BCKUPL(*LIB)
```

このコマンドは、ライブラリー・バックアップ・リストを表示します。

例2:フォルダー・バックアップ・リストの印刷

```
DSPBCKUPL BCKUPL(*FLR) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、フォルダー・バックアップ・リストを印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPBCKUPL

*ESCAPEメッセージ

CPF1EEA

ライブラリー・バックアップ・リストが認可されていない。

CPF1EEB

フォルダー・バックアップ・リストが認可されていない。

CPF1E6B

フォルダー・バックアップ・リストは使用中である。

CPF1E6D

フォルダー・バックアップ・リストに損傷があったので、新しいリストが作成された。

CPF1E67

バックアップ・オプションおよびライブラリー・バックアップ・リストに損傷がある。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

停止点表示 (DSPBKP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

停止点表示(DSPBKP)コマンドは、デバッグ・モードにある指定されたプログラム中でセットされているすべての停止点を表示します。停止点、および各停止点に関連したプログラム変数の名前が表示されます。

制約事項:

1. このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードの時だけです。デバッグ・モードを開始するためには、デバッグ開始(STRDBG)コマンドを参照してください。
2. このコマンドを使用して、バインド済みプログラムの停止点を表示することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*、*PRINT	オプション、位置 1
PGM	プログラム	単一値: *DFTPGM, *ALL その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 名前	オプション

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

トップ

プログラム (PGM)

デバッグ・モードのどのプログラムについて、停止点位置および関連のプログラム変数を表示するかを指定します。

***DFTPGM**

省略時のプログラムについてのみ、停止点位置が表示されます。

***ALL** 現在デバッグ・モードにあるすべてのプログラムについて、停止点位置が表示されます。

プログラム名

停止点ロケーションを表示させる最大20個までのプログラムの名前を指定してください。指定されたプログラムはすでにデバッグ・モードになっていなければなりません。

[トップ](#)

DSPBKPの例

DSPBKP

プログラムMYPROGが対話式デバッグ・セッション中の省略時のプログラムであるとする、このコマンドは、現在MYPROGで設定されているすべての停止点位置を表示します。各停止点に関連したプログラム変数の名前も表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPBKP

***ESCAPE** メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

バインド・ディレクトリーの表示 (DSPBNDDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインド・ディレクトリーの表示(DSPBNDDIR)コマンドは、バインド・ディレクトリーの内容を表示します。

制約事項:

- このバインド・ディレクトリーが入っているライブラリーに対して使用(*USE)権限が必要です。
- バインド・ディレクトリーに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および読み取り(*READ)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

トップ

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

表示されるバインド・ディレクトリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 表示されるバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、OUTFILEパラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

このコマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。指定されたファイルが存在していない場合には、このコマンドは指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。このファイルの一般ユーザー権限は、ファイルを作成するライブラリーに指定した作成権限と同じです。出力ファイルのレコード様式は、弊社提供のデータベース・ファイルQABNDBNDおよびレコード様式QBNDSPBDで使用されるものと同じです。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 画面の出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

画面の出力の送信先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このメンバーがすでに存在していて、*REPLACEが指定されている場合には、システムはこれを消去して、新しいレコードを追加します。このメンバーが存在しないで、メンバー名が指定されない場合には、システムは出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。このメンバー名は指定されているが、そのメンバーが存在しない場合には、システムがこれを作成します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、ファイル・メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

*ADD システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

DSPBNDDIRの例

DSPBNDDIR BNDDIR(STORE)

このコマンドは、STOREという名前のバインド・ディレクトリーを表示します。

トップ

エラー・メッセージ: DSPBNDDIR

*ESCAPEメッセージ

CPF5D01

ライブラリー&2のバインド・ディレクトリー&1は使用不能である。

CPF980F

ライブラリー&2にバインド・ディレクトリー&1が見つからない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

コード化フォントの表示 (DSPCDEFNT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コード化フォントの表示(DSPCDEFNT)コマンドは、指定されたライブラリーからコード化フォントを表示します。フォント文字セット(FCS)とコード・ページの対が、印刷装置に常駐としてマークされるか、あるいはシステムによってダウンロードされる必要があるかどうかの指示と一緒に表示されます。

フォント文字セット (FNTCHRSET)パラメーターによって、中に特定のフォント文字セットが入っているすべてのコード化フォントを見つけることができます。このパラメーターは、FCSが変更されてFCSがどのコード化フォントを参照しているかわからない時に指定します。この情報を表示するためには、CDEFNT(*FNTCHRSET)およびFNTCHRSET (フォント文字セット) を指定する必要があります。

3130印刷装置に常駐としてフォント文字セットとコード・ページにマークを付けることについては、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、印刷サービス機能(PSF)機能が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CDEFNT	コード化フォント	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コード化フォント	名前, *FNTCHRSET	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR, *DBCSFNTLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
FNTCHRSET	フォント文字セット	名前	オプション

トップ

コード化フォント (CDEFNT)

表示されるコード化フォントを指定します。

修飾子1: コード化フォント

*FNTCHRSET

フォント文字セット (FNTCHRSET)パラメーターによって指定されたフォント文字セットが入っているすべてのコード化フォントが表示されます。

名前 表示するコード化フォントの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーだけを検索します。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけを検索します。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーを検索します。

***ALL** QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーを検索します。

*DBCSFNTLIB

2バイト文字セット(DBCS)のフォント・ライブラリーQFNT61, QFNT62, QFNT63, QFNT64,およびQFNT65を検索します。

名前 指定したライブラリーを検索します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示（対話式ジョブで要求された場合）またはジョブのスパール出力で印刷（バッチ・ジョブで要求された場合）されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

フォント文字セット (FNTCHRSET)

コード化フォント・オブジェクトで検索するフォント文字セットを指定します。指定したフォント文字セットが入っているすべてのコード化フォントが表示または印刷されます。コード化フォント (CDEFNT)パラメーターに*FNTCHRSETを指定した場合には、このパラメーターの値を指定しなければなりません。

名前 検索するフォント文字セットの名前を指定します。

[トップ](#)

DSPCDEFNTの例

例1:コード化フォントの表示

```
DSPCDEFNT CDEFNT(QFNT61/X0G16B)
```

このコマンドは、ライブラリーQFNT61中のコード化フォントX0G16Bを表示します。この表示には、コード化フォント内のフォント文字セットとコード・ページの対、およびこれらが常駐としてマーク付けされているかどうかが表示されます。

例2:フォント文字セットを含むコード化フォントの表示

```
DSPCDEFNT CDEFNT(*ALL/*FNTCHRSET) FNTCHRSET(C0G16F60)
```

このコマンドは、フォント文字セットC0G16F60が入っているすべてのコード化フォントを表示（すべてのライブラリーを検索）します。これはCPU集中検索となる場合があるので、バッチ・モードで実行することをお勧めします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

構成リスト表示 (DSPCFGL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト表示(DSPCFGL)コマンドにより、構成リストが表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGL	構成リスト	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	* -, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

構成リスト (CFGL)

表示される構成リストの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPCFGLの例

DSPCFGL CFGL(CONFIG01)

このコマンドは、CONFIG01という名前の構成リストを表示します。

エラー・メッセージ： DSPCFGL

*ESCAPEメッセージ

CPF260F

構成リスト&1は見つからなかった。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2663

構成リスト&1は前に削除されている。

クラス表示 (DSPCLS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラス表示 (DSPCLS)コマンドは、クラスの属性を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLS	クラス	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: クラス	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

クラス (CLS)

属性が表示されるクラスの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: クラス

名前 クラスの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 クラスが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPCLSの例

DSPCLS CLS(CLASS1) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、クラスCLASS1の属性を印刷のためにジョブの出力スプーリング待ち行列に送ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPCLS

***ESCAPE** メッセージ

CPF1029

ライブラリー&1に対する権限がない。

CPF1039

クラス・ライブラリー&1が見つからない。

CPF1065

ライブラリー&2にクラス&1が見つからない。

CPF1067

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF1068

ライブラリー&2のクラス&1を割り振ることができない。

CPF1098

ライブラリー&2のクラス&1に対する権限がない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

クラスター情報の表示 (DSPCLUINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター情報表示(DSPCLUINF)コマンドは、クラスターに関する情報を表示または印刷するために使用されます。これはクラスター内のノードから起動されなければなりません。状況が「非活動状態」または「障害」になっているノードでこのコマンドを呼び出す場合は、表示または印刷される情報は最新でない場合があります。この場合は、表示または印刷される情報は、そのノードが最後に活動状態であったときのクラスターの状態を反映することになります。このコマンドは、クラスター・メンバーシップ・リストを記述している基本情報を表示または印刷するか、あるいはクラスターに関する構成情報を完了するかのいずれかに使用することができます。このコマンドは、クラスター資源グループ出口プログラムから呼び出すことができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前, <u>_</u>	オプション、位置 1
DETAIL	詳細	*BASIC , *FULL	オプション
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

[トップ](#)

クラスター (CLUSTER)

情報を表示または印刷する対象のクラスターを指定します。

* このシステムで現在定義されているクラスターの情報を表示または印刷することを指示します。

名前 クラスターの名前を指定してください。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

表示または印刷する情報のタイプを指定します。

***BASIC**

クラスター内の全ノードに関する基本情報を表示することを指示します。

***FULL** クラスターの完全な構成情報を表示することを指示します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのプール出力で印刷されるかを指定します。このパラメーターの詳細は、共通に使用されるパラメーターに記載されています。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPCLUINFの例

DSPCLUINF CLUSTER(MYCLUSTER) DETAIL(*FULL) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、クラスターMYCLUSTERに関する完全セットの情報を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPCLUINF

*ESCAPEメッセージ

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

表示コマンド (DSPCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド表示(DSPCMD)コマンドは、コマンド作成(CRTCMD)コマンドのパラメーターに指定された値のいくつかを表示します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コマンド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

トップ

コマンド (CMD)

情報を表示するコマンドを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: コマンド

名前 表示するコマンドの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

コマンドを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 コマンドが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- コマンド属性が表示装置に表示されます。コマンドをバッチ・モードで実行している場合には、属性は印刷されません。

*PRINT

コマンド属性が印刷されます。

[トップ](#)

DSPCMDの例

DSPCMD CMD(PAYROLL)

このコマンドは、ユーザー定義のコマンドPAYROLLに対する現行のユーザー割り当てのパラメーター値のすべてを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPCMD

*ESCAPEメッセージ

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF6210

ライブラリー&2のコマンド&1が見つからない。

CPF6250

ライブラリー&2のコマンド&1を表示または検索することができない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF8103

&9のコマンド&4に損傷がある。

CPF8122

ライブラリー&4に&8の損傷がある。

CPF8123

ライブラリー&4のオブジェクト情報に損傷がある。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9824

ライブラリー&2のコマンド&1は認可されていない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

接続リスト表示 (DSPCNL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

接続リスト表示(DSPCNL)コマンドは、接続リストおよびその項目を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CNNL	接続リスト	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	* -, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

接続リスト (CNNL)

接続リストの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPCNLの例

DSPCNL CNNL(MYCNNL)

このコマンドは、MYCNNLという名前の接続リストについての情報を表示します。情報は、このコマンドが投入されたワークステーションに表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。接続リストと関連したすべての項目が表示されず。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPCNNL

*ESCAPEメッセージ

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF266C

接続リスト&1が見つからない。

CPF266D

システム・ライブラリーにプログラム名&1が見つからない。

CPF266E

接続リスト&1に損傷がある。

[トップ](#)

接続状況の表示 (DSPC>NNSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

接続状況表示(DSPC>NNSTS)コマンドは、ネットワーク装置で使用されている接続型プロトコルおよび指定されたすべての受け入れ可能インバウンド経路指定データに関する情報を表示します。1つまたは複数の活動接続があった場合には、各活動接続ごとに接続特性が表示されます。

制約事項:

- 装置プロンプト (DEVパラメーター) に指定された装置に対する操作権限が必要です。
- このコマンドはすべてのネットワーク装置に有効ですが、接続型の状況は、リンク・タイプがX.25の装置についてのみ提供されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT -	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

装置 (DEV)

ネットワーク装置の名前を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

- * 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合), あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPC>NNSTSの例

DSPC>NNSTS DEVD(PRTR48X) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、装置PRTR48Xのための活動接続のすべての状況を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPC>NNSTS

*ESCAPEメッセージ

CPF2603

装置記述&1が見つからない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF87B0

装置&1はネットワーク装置でない。

CPF87B1

装置&1は接続状況を表示する正しい状態になっていない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

サービス・クラス記述表示 (DSPCOSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・クラス記述表示(DSPCOSD)コマンドにより、サービス・クラス記述が表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COSD	サービス・クラス記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	* -, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

サービス・クラス記述 (COSD)

表示されるサービス・クラス記述名を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPCOSDの例

```
DSPCOSD COSD(COSD1) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、サービス・クラス記述COSD1を印刷します。情報は、このコマンドが投入されたワークステーションに表示されます（ただし*PRINTが指定されている場合は除きます。この場合には、情報は、ユーザーのジョブと関連したスプール印刷装置ファイルに送られます）。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスプール出力で印刷装置で印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPCOSD

*ESCAPEメッセージ

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2670

サービス・クラス記述&1が見つからない。

CPF2671

サービス・クラス記述&1は前に削除された。

CPF2675

サービス・クラス記述&1に損傷がある。

[トップ](#)

CHKPND制約の表示 (DSPCPCST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

検査保留制約表示(DSPCPCST)コマンドは、確立された制約の違反の可能性があるレコード（検査保留）を表示するために使用することができます。

制約事項:

- 使用不可の参照制約および検査制約だけを表示することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CST	制約名	文字値	必須, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

ファイル (FILE)

参照制約に参照制約が定義されている従属ファイルを指定するか、あるいは検査制約にファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

制約名 (CST)

ファイルに定義されている制約を指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 制約の名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 対話式ジョブで要求された出力は画面上に表示されます。バッチ・ジョブで要求された出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPCPCSTの例

```
DSPCPCST FILE(ADMN/PERSONNEL) CST(1994HIRES)
          OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ADMNライブラリー中の従属ファイルPERSONNELで1994HIRESという名前の参照制約で検査保留となっているレコードのリストを印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPCPCST

なし

***ESCAPEメッセージ**

CPF32B6

ファイル&1の制約を表示することができない。

[トップ](#)

CRG情報の表示 (DSPCRGINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター資源グループ情報表示(DSPCRGINF)コマンドは、クラスター資源グループに関する情報を表示または印刷するために使用されます。これはクラスター内のノードから起動されなければなりません。状況が「非活動状態」または「障害」になっているノードでこのコマンドを呼び出す場合は、表示または印刷される情報は最新でない場合があります。この場合は、表示または印刷される情報は、そのノードが最後に活動状態であったときのクラスターの状態を反映することになります。このコマンドは、クラスター資源グループのリストまたはクラスター資源グループに関する完全な情報を表示または印刷するために使用することができます。

CRG(*LIST)が指定されていると、情報の要求はクラスター内の他のノードには配布されません。クラスター資源グループに関する情報には、このコマンドを実行中のノードから得られる値が表示されます。幾つかの条件（たとえば、クラスター資源サービスがコマンドを実行中のノードで活動状態でない）により、クラスター内のクラスター資源グループに関する矛盾する情報が生成される可能性があります。

特定のクラスター資源グループの情報を要求すると、クラスター資源グループの基本情報が常に表示されます。さらに、回復ドメインおよび弾力的な装置のリストを含む追加明細を要求することができます。クラスター資源サービスが開始された場合は、少なくとも1つの回復ドメイン・ノードが活動状態であれば、このコマンドは、クラスター資源グループに関する情報がコマンドの呼び出し元のノードに存在していない場合でも、その情報を戻します。

クラスター資源サービスがまだ開始されていない場合は、次の通りです。

1. 戻される情報が最新でない場合があります
2. コマンドを実行中のノードに存在しているクラスター資源グループの情報だけが戻されます

このコマンドは、クラスター資源グループ出口プログラムから呼び出すことができます。しかし、クラスター資源グループ出口プログラムがクラスター資源グループ作成(CRTCRG)コマンドの結果として呼び出され、そのクラスター資源グループについての情報を要求している場合は、このコマンドは失敗します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
CRG	クラスター資源グループ	文字値, *LIST	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

クラスター (CLUSTER)

情報を表示または印刷する対象のクラスター資源グループが含まれているクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスターの名前を指定してください。

[トップ](#)

クラスター資源グループ (CRG)

情報を表示または印刷するクラスター資源グループを指定します。

***LIST** 指定されたクラスター内で現在定義されているクラスター資源グループのリストを表示または印刷することを指示します。各クラスター資源グループに関する記述情報も印刷されます。この情報は、たとえコマンドを実行中のノード上に存在していなくても、クラスター内のクラスター資源グループのすべてについて戻されます。オブジェクト処理(WRKOBJ) CLコマンドは、このノード上にしか存在していないクラスター資源グループのリストを提供するために使用することができます。このコマンドを呼び出しているユーザーの権限とは無関係に、クラスター資源グループのすべてについての情報が印刷されます。

名前 クラスター資源グループの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのスプール出力で印刷されるかを指定します。このパラメーターの詳細は、共通に使用されるパラメーターに記載されています。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPCRGINFの例

DSPCRGINF CLUSTER(MYCLUSTER) CRG(*LIST) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、クラスターMYCLUSTERに定義されているすべてのクラスター資源グループに関する基本構成情報を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPCRGINF

***ESCAPEメッセージ**

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

通信サイド情報の表示 (DSPCSI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信サイド情報表示(DSPCSI)コマンドを使用して、指定したサイド情報オブジェクトを表示または印刷します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CSI	サイド情報	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サイド情報	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

サイド情報 (CSI)

表示するサイド情報オブジェクトの名前を指定します。オブジェクト名を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

サイド情報オブジェクトを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

サイド情報オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

サイド情報名

サイド情報オブジェクトが入っているオブジェクトの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

トップ

DSPCSIの例

例1:オブジェクトの検出

```
DSPCSI  CSI(SIDEOBJ)
```

このコマンドはライブラリー・リスト中でSIDE OBJという名前の最初のサイド情報オブジェクトを見つけ、サイド情報を表示します。

例2:サイド情報の印刷

```
DSPCSI  CSI(QGPL/SIDEOBJ) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPL中のオブジェクトSIDE OBJに含まれるサイド情報をジョブのプール出力で印刷します。

トップ

エラー・メッセージ： DSPCSI

*ESCAPEメッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

制御装置記述の表示 (DSPCTL D)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御装置記述の表示(DSPCTL D)により, 制御装置記述が表示されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*ALL, *BASIC, *SWTLINLST, *DEV, *RMTID, *APPN, *TMRRTY	オプション, 定位置 3

トップ

制御装置記述 (CTLD)

制御装置記述の名前を指定します。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を, 要求元のワークステーションに表示するか, あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
-

出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合), あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

オプション (OPTION)

このパラメーターによって、この制御装置の情報を選択して表示することができます。すべての情報(*ALL)または特定の情報の表示を選択することができます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 制御装置に関するすべての情報が表示されます。すべての情報は、この制御装置タイプに適用される*BASIC情報およびすべての詳細説明から構成されています。

***BASIC**
制御装置の基本特性だけが表示されます。

***SWTLINLST**
この制御装置と関連した交換回線のリストだけが表示されます。

***DEV** この制御装置と関連した装置のリストだけが表示されます。

***RMTID**
BSC交換回線のリモート識別コードと関連した情報だけが表示されます。

***APPN**
拡張分散ネットワーク機能(APPN)に関する情報だけが表示されます。

***TMRRTY**
制御装置タイマーおよび再試行オプションと関連した情報だけが表示されます。

[トップ](#)

DSPCTLDの例

DSPCTLD CTLD(CONTROL01)

このコマンドは、CONTROL01という名前の制御装置記述についての情報を表示します。情報は、このコマンドが投入されたワークステーションに表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPCTLD

*ESCAPEメッセージ

CPF2602
制御装置&1が見つからない。

CPF2625
オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2627
制御装置記述は前に削除されている。

CPF2634
オブジェクト&1は認可されていない。

CPF268B

制御装置&2には&1は正しくない。

CPF2778

制御装置記述&1に損傷がある。

[トップ](#)

現行ディレクトリーの表示 (DSPCURDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

現行ディレクトリーの表示 (DSPCURDIR)コマンドは、現行の作業ディレクトリーの名前を表示するために使用されます。

制約事項:

1. 現行ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
2. パス内の各ディレクトリーに対する読み取り、実行(*RX) 権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	* _ *PRINT	オプション、定位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPCURDIRの例

例1: 現行ディレクトリーの表示

DSPCURDIR

このコマンドは、現行作業ディレクトリーの名前を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPCURDIR

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

[トップ](#)

デバッグ表示 (DSPDBG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

デバッグ表示(DSPDBG)コマンドは、デバッグ・モードの現在の状況を表示します。表示される情報は次の通りです。

- 現在デバッグ中のプログラムを示す呼び出しスタック
- 呼び出し側の命令の命令番号、またはプログラムが停止した各停止点の命令番号
- プログラム反復レベル

デバッグ・モードになっているがまだ呼び出されていないプログラムも表示されます。

制約事項:

- このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードの時だけです。デバッグ・モードを開始するためには、デバッグ開始(STRDBG)コマンドを参照してください。
- 別のジョブをサービス中で、そのジョブがジョブ待ち行列上にあるか、あるいは保留、延期、または終了中の場合には、このコマンドを使用することはできません。
- このコマンドを使用して、スタック上のバインド済みプログラムのプロシージャーを表示することはできません。それらのプロシージャーを表示するためには、ジョブ表示(DSPJOB)コマンドを使用してください。
- このコマンドを使用して、デバッグ中のバインド済みプログラムを表示することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT -	オプション、定位置 1

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

- * 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPDBGの例

DSPDBG

対話式で入力された場合に、このコマンドは、デバッグ・モードの現在の属性を表示装置で表示します。また、デバッグ中のいずれかのプログラムが停止される停止点、現在活動状態のプログラムの反復レベル、および呼び出されていないプログラムの名前も表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPDBG

なし

[トップ](#)

デバッグ監視の表示 (DSPDBGWCH)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

デバッグ監視表示(DSPDBGWCH)コマンドは、システム・デバッグ・サポートがシステム上のすべての処理に設定したデバッグ監視のリストを表示します。これには、システムの専用保守ツール(DST)サポートでセッティングされた監視は含まれません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

DSPDBGWCHの例

DSPDBGWCH

このコマンドは、システム・デバッグ・サポートによって設定された現行のデバッグ監視を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPDBGWCH

なし

[トップ](#)

データベース関係表示 (DSPDBR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データベース関係表示(DSPDBR)コマンドは、データベース・ファイルに関する関連情報を提供します。このコマンドは、特定のファイルに從属している物理ファイルおよび論理ファイル、特定のレコード様式を使用するファイル、または特定のファイル・メンバーに從属しているファイル・メンバーを識別します。この情報は、表示するか、印刷するか、あるいはデータベース出力ファイルに入れることができます。このコマンドは、装置ファイルには適用されません。

データベース出力ファイルに情報が出力される場合に、使用されるレコード様式の名前がQWHDRDBRとなります。レコード様式QWHDRDBRのフィールドは、ライブラリーQSYSのファイルQADSPDBRにあるIBM提供様式QWHDRDBRのフィールドと同じです。データベース出力ファイルには、次の情報が入ります。

- コマンドで指定された各ファイルごとに、データベース・レコードに次の項目が入ります。
 - 指定されたファイルの名前、そのライブラリー名、および指定されたファイルのファイル・タイプ
 - ファイルに使用されているレコード様式の名前(RCDFMTに名前を指定した場合)
 - ファイル情報の情報検索日付（ファイルに変更が行われた場合には、最新の日付に最も正確な情報が入っています）
- このレコードには、次の1つも入ります。
 - アクセス・パス共用またはデータ共用によって、指定したファイルに從属するすべてのファイルの名前（そのファイルが入っているライブラリーの名前および共用タイプも含まれます）
 - 指定されたメンバーに從属しているすべてのファイル・メンバーの名前、そのライブラリー名、および共用のタイプ
 - 指定されたレコード様式に從属しているすべてのファイルの名前、およびそのライブラリー名

制約事項:

1. 指定された各ファイルを表示するには、ユーザーはそのファイルに対するオブジェクト操作権を持っていないければなりません。また、ライブラリー修飾子によって指定されたライブラリーについては、ユーザーが*USE権限を持つライブラリーのファイルだけが検索されます。
2. OUTFILEを作成するには、ユーザーは物理ファイル作成(CRTPF)コマンドに対する*USE権限とライブラリーに対する*ADD権限を持っていないければなりません。既存のOUTFILEを使用するには、ユーザーはそのファイルに対する操作(*OPR)および*ADD 権限を持っていないければなりません。
3. また、*REPLACEを指定する場合には、ユーザーはオブジェクト管理および削除権限も持ってないければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
MBR	メンバー	名前, *NONE	オプション, 定位置 2
RCDFMT	レコード様式	総称名, 名前, *NONE, *ALL	オプション

トップ

ファイル (FILE)

その関連情報が表示、印刷、または出力ファイルに入れられるファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

ファイル名として指定できる値は次の通りです。

ファイル名

ファイルのフルネームを指定してください。このファイルについてだけ情報が表示されます。

総称 *ファイル名

総称ファイル名を指定してください。指定された文字で始まる名前を持つすべてのデータベース・ファイルの情報が提供されます。

***ALL** 1つまたは複数のライブラリー中のすべてのファイルについて情報が提示されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX QRCLXXXX QUSRIJS QUSRVXRXXM
QGGL QSRVAGT QUSRINFSKR
QGGL38 QSYS2 QUSRNOTES
QMGTC QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2 QS36F QUSRPOSGS
QMPGDATA QUSER38 QUSRPOSSA
QMQRDATA QUSRADSM QUSRPYMSVR
QMQRPROC QUSRBRM QUSRDRARS
QPFRDATA QUSRDIRCL QUSRSYS
QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのプール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイルプロンプト (OUTFILEパラメーター) に指定されたデータベース出力ファイルに送られます。

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース出力ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルが存在していない場合には、このコマンドは、指定したライブラリーの中にデータベース出力ファイルを作成します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行項目が存在していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

注: 出力ファイル形式は、QSYSライブラリーのシステム・ファイルQADSPDBRのQWHDRDBRと同じでなければなりません。出力ファイル形式の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「データベース」情報の資料を参照してください。

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。そのファイルにメンバーが存在しない場合には、システムは、**出力を受け取るファイルプロンプト** (OUTFILEパラメーター) に指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。この名前のメンバーが存在していない場合には、システムが作成します。

情報の保管方法について指定できる値は次の通りです。

***REPLACE**

指定されたファイル・メンバー中の既存のレコードが出力データで置き換えられます。

***ADD** 指定されたファイル・メンバー中の既存のレコードの終わりに、出力データが追加されます。

メンバー (MBR)

その従属メンバー情報が表示、印刷、または出力ファイルに入れられるデータベース・ファイルのメンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

ファイル・メンバーについての情報が提供されません。

メンバー名

ファイル・メンバーのフルネームを指定してください。指定したファイル・メンバーの情報が提供されます。メンバー名を指定した場合には、**レコード様式プロンプト** (RCDFMTパラメーター) にレコード様式名を指定することはできません。

[トップ](#)

レコード様式 (RCDFMT)

その従属情報が表示、印刷、またはデータベース・ファイルに入れられるレコード様式の名前を指定します。このパラメーターが指定された場合には、**メンバープロンプト** (MBRパラメーター) にメンバー名を指定することはできません。

考えられる値は、次の通りです。

レコード様式名

レコード様式のフルネームを指定してください。この特定のレコード様式についての情報が提示されます。

総称*レコード様式名

総称名を指定してください。指定された文字で始まる名前を持つすべてのレコード様式について情報が提示されます。

***NONE**

依存レコード様式情報は提示されません。

***ALL** 指定されたファイル中のすべてのレコード様式についての情報が提示されます。

[トップ](#)

DSPDBRの例

以下の例では、対話環境があること、およびコマンドのユーザーには関係のあるすべてのライブラリーとオブジェクトへのアクセスが許可されていることを前提としています。

例1:データベース関係情報の表示

```
DSPDBR FILE(LIBRARY1/FILE1) RCDFMT(FORMAT1)
```

このコマンドは、FORMAT1形式を使用し、LIBRARY1のFILE1と関連付けられたすべてのファイルの名前およびデータベース関係情報のリストを表示します。環境是对話式であるため、出力はこのコマンドを実行中のワークステーションで表示されます。

例2:データベース関係情報の表示

DSPDBR FILE(LIB1/FILE1)

このコマンドは、データ共用のためにLIB1のFILE1に依存するすべてのファイルのデータベース関係情報を表示します。それは、このコマンドを実行中のワークステーションで表示されます。

例3:データベース関係情報の表示

DSPDBR FILE(LIB1/FILE1) MBR(MEMBER1)

このコマンドは、データ共用またはアクセス・パス共用のためにLIB1のFILE1のMEMBER1に依存するすべてのメンバーのデータベース関係情報を表示します。それらは、このコマンドを実行中のワークステーションで表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPDBR

*ESCAPE メッセージ

CPF3010

&2には&1のデータベース・ファイルは見つからない。

CPF3012

ライブラリー&2のファイル&1が見つからない。

CPF3014

&2の&1として指定されたファイルを表示することができない。

CPF3028

レコード様式&1がファイル&2に見つからない。

CPF3029

メンバー&1は&3のファイル&2に見つからなかった。

CPF3052

ファイル&1の記述が使用できない。

CPF3061

出力ファイル&1のレコード様式&3が見つからない。

CPF3063

&2の出力ファイル&1は物理ファイルではない。

CPF3064

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3066

&2の出力ファイル&1の作成中にエラー。

CPF3067

&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF3068

&2のファイル&1への書き出し中にエラー。

CPF3069

&2のファイル&1のクローズ中にエラー。

CPF3070

ファイル&1のメンバー&3の作成中にエラー。

CPF3072

&2のファイル&1はシステム・ファイルである。

CPF3074

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF3075

ライブラリー&1が使用できない。

CPF3076

画面上でエラーが起こった。

CPF3077

表示を取り消そうとした時にエラーが起こった。

CPF3084

ファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。

[トップ](#)

DDMファイル表示 (DSPDDMF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

分散データ管理(DDM)ファイル表示(DSPDDMF)コマンドは、指定された分散データ管理(DDM)ファイルについて、リモート・ファイル名およびリモート・システムの位置などの情報を表示または印刷するために使用されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

トップ

ファイル (FILE)

情報が表示されるDDMファイルの名前およびライブラリーを指定します。総称DDM ファイル名を指定することができます。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定したライブラリー（またはライブラリー修飾子で識別されるライブラリーのうちのユーザーにアクセス権のあるすべてのライブラリー）の中のすべてのファイルが表示されます。

ファイル名

表示したいDDMファイルの名前を指定してください。ライブラリー名として*LIBLまたは*USRLIBLを指定した場合には、指定した名前を持つ最初に見つかったファイルだけが表示されます。

総称*ファイル名

表示されるDDMファイルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。このパラメーターに総称名を指定した場合には、総称ファイル名と同じ接頭部をもつ名前のすべてのファイルが表示されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPDDMFの例

DSPDDMF

このコマンドは、「DDMファイルの表示」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPDDMF

なし

[トップ](#)

装置記述の表示 (DSPDEVD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述の表示(DSPDEVD)コマンドにより、装置記述が表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*ALL, *BASIC, *SWTLINLST, *MODE, *AUXDEV, *MLBRSC, *USRDFNOPT	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

このパラメーターによって、情報を選択して表示することができます。すべての情報(*ALL)または特定の情報の表示を選択することができます。

***ALL** 装置と関連したすべての情報が表示されます。

***BASIC**

装置の基本特性だけが表示されます。

***SWTLINLST**

このローカル・エリア・ネットワーク印刷装置の交換回線についての情報だけが表示されます。

***MODE**

モード接続機構と関連した情報だけが表示されます。

***AUXDEV**

補助装置と関連した情報だけが表示されます。

***MLBRSC**

このテープ媒体ライブラリーに関連づけられた装置資源に関する情報だけが表示されます。

***USRDFNOPT**

スプール・ファイルを処理するユーザー適用業務またはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義オプションのリストが表示されます。

[トップ](#)

DSPDEVDの例

DSPDEVD DEVD(WRKSTN01)

このコマンドは、WRKSTN01という名前の装置記述についての情報を表示します。情報は、このコマンドが投入されたワークステーションに表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPDEVD

***ESCAPEメッセージ**

CPF2603

装置記述&1が見つからない。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2628

装置記述が前に削除された。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF268C

装置&2には&1は正しくない。

CPF2777

装置記述&1に損傷がある。

[トップ](#)

ディレクトリー項目の表示 (DSPDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー項目表示(DSPDIRE)コマンドは、一部または全部のシステム配布ディレクトリー項目についてデータベース・ファイルを表示、印刷、または作成するために使用されます。次の点に基づいて、データベース・ファイル出力は表示、印刷、または作成されます。

- 表示出力の場合には、USRIDまたはUSERパラメーターが複数のディレクトリー項目に適用されると、システムは項目のリストを提供します。これらのパラメーターがディレクトリー項目を固有に識別すると、システムはその項目の明細を提供します。
- 印刷またはデータベース・ファイル出力の場合には、USRIDパラメーターが全ディレクトリーを指定していれば、出力が項目のリストであるかあるいは各項目の全明細であるかをDETAILパラメーターが判断します。USRIDまたはUSERパラメーターがユーザーIDまたはプロファイルを指定している場合には、そのユーザーの全明細が出力に送られます。

DSPDIREコマンドはディレクトリーの更新は行ないません。この機能は、ディレクトリー項目処理(WRKDIRE)コマンド、ディレクトリー項目追加(ADDDIRE)コマンド、ディレクトリー項目除去(RMVDIRE)コマンド、ディレクトリー項目変更(CHGDIRE)コマンド、およびディレクトリー項目名前変更(RNMDIRE)コマンドによる画面サポートのもとで、対話式に提供されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
USER	ユーザー・プロファイル	名前, *CURRENT	オプション、位置 2
OUTPUT	出力	* , *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	
DETAIL	詳細	*BASIC , *FULL	オプション
OUTFILFMT	出力ファイル形式	*TYPE1 , *TYPE2, *TYPE3	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
OUTDTA	出力するデータ	*LCL, *ALL	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

トップ

ユーザー識別コード (USRID)

ディレクトリー項目が表示、印刷、またはデータベース・ファイルに送られるユーザーのユーザーIDおよびアドレスを指定します。USRIDパラメーターを指定した場合には、USERパラメーターを指定することはできません。

表示出力の場合には、ユーザーIDおよびアドレスが1つの記述しかない項目を指定すれば、その項目のディレクトリー明細が表示されます。指定されたユーザーIDおよびアドレスと関連づけられている記述が複数ある場合には、該当するユーザーIDおよびアドレスのリストが表示され、そのリストから明細を表示するユーザーIDおよびアドレスを選択することができます。

印刷出力またはデータベース・ファイル出力の場合には、該当するユーザーIDおよびアドレスのすべての記述を含む全ディレクトリー明細が、印刷されるかまたはデータベース・ファイルに送られます。ユーザーIDおよびアドレスの指定の詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

***ALL** システム配布ディレクトリー中のすべての項目が表示されるか、印刷されるか、またはデータベース・ファイルに送られます。項目はユーザーIDおよびアドレスのアルファベット順に提供されます。出力が印刷リストまたは出力リストに送られる場合には、出力がユーザーID、アドレス、および記述のリストであるか、または全ディレクトリー明細であるかを、DETAILパラメーターが指定します。

指定できるユーザーIDの値は次の通りです。

ユーザーID

既存のディレクトリー項目が表示されるか、印刷されるか、またはデータベース・ファイルに送られるユーザーのユーザーIDを指定してください。

指定できるユーザー・アドレスの値は次の通りです。

ユーザー・アドレス

既存のディレクトリー項目が表示されるか、印刷されるか、またはデータベース・ファイルに送られるユーザーのユーザー・アドレスを指定してください。

トップ

ユーザー・プロフィール (USER)

ディレクトリー項目が表示、印刷、またはデータベース・ファイルに書き込まれるユーザー・プロフィールを指定します。USERパラメーターを指定した場合には、USRIDパラメーターを指定することはできません。

表示出力の場合には、関連づけられている記述が1つしかない項目をプロファイルが指定すれば、その項目のディレクトリー明細が表示されます。指定されたプロファイルと関連づけられている記述が複数ある場合には、そのプロファイルに該当するユーザーIDおよびアドレスのリストが表示され、そのリストから明細を表示するユーザーIDおよびアドレスを選択することができます。ユーザーは、このリストから、詳細を表示するユーザーIDおよびアドレスを選択することができます。

***CURRENT**

現行ジョブを実行しているユーザー・プロファイルが使用されます。

ユーザー・プロファイル名

対応するディレクトリー項目の明細が出力となるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元のワークステーションに表示するか、ジョブのスプール出力で印刷するか、あるいは出力ファイルに書き出すかを指定します。

*
_ 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、OUTFILEパラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

画面の出力が送られる先のデータベース・ファイルの修飾名を指定します。そのデータベース・ファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリーにそれを作成します。ライブラリーが指定されなかった場合には、ユーザー・プロファイルに指定されたユーザーの省略時のライブラリーにそのデータベース・ファイルが作成されます。省略時のライブラリーが指定されていない場合は、データベース出力ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

データベース・ファイルが*LIBLで修飾されていて、システムがそのファイルを見つけることができない場合には、そのデータベース・ファイルはユーザーの省略時のライブラリー（ユーザー・プロファイルに指定されている場合）に作成されます。省略時のライブラリーが指定されていない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

有効な出力ファイル・タイプとその名前については、OUTFILFMTパラメーターを参照してください。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

データベース・ファイル名

画面の出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。データベース・ファイルが*LIBLで修飾されているが、システムがそのファイルを見つけることができない場合には、そのファイルはユーザーの省略時のライブラリー（指定されている場合）に作成されます。省略時のライブラリーが指定されていない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力が送られる先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーがすでに存在している場合には、システムがこのパラメーターの2番目の要素を使用して、新しいレコードが追加される前にそのメンバーが消去されるかどうかを判別します。メンバーが存在せず、メンバー名が指定されていない場合には、システムはOUTFILEパラメーターで指定された出力ファイルの名前でメンバーを作成します。出力ファイル・メンバー名が指定されていて、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

出力を受け取るメンバーに指定できる値は次の通りです。

***FIRST**

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーを指定します。OUTMBR（メンバー名）を指定し、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

指定できるメンバーに対して実行する操作の値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

詳細 (DETAIL)

印刷またはデータベース・ファイルに送る明細の量を指定します。出力が画面に送られる場合(OUTPUT(*))または特定のユーザーIDあるいはプロファイルが指定されている場合には、このパラメーターは使用されません。

***BASIC**

出力は、ディレクトリーに入っているすべてのユーザーID、アドレス、および記述のリストです。

***FULL** 出力は、ディレクトリーに入っているユーザーについての明細のすべてです。USRID(*ALL)が指定されると、印刷リストはディレクトリーからの各固有のユーザーID およびアドレスごとに1ページが使用され、その項目のすべての明細が示されます。1つのユーザーIDおよびアドレスについて複数の記述が明細に組み込まれます。データベース・ファイルの場合には、各固有のユーザーID、アドレス、および記述について1レコードが作成され、各項目のすべての明細が組み込まれます。1つのユーザーID およびアドレスに複数の記述が存在する時には、各記述の出力は完全な1レコードであり、記述フィールドだけが異なります。

入力パラメーターにユーザーIDおよびアドレスまたはユーザー・プロファイル名が指定されると、印刷リストは1ページ分の出力にそのユーザーIDおよびアドレスの明細に組み込まれたすべての記述が示されます。出力ファイルは各記述ごとに全明細レコードを含みます。記述フィールドのみがレコード間で異なります。

[トップ](#)

出力ファイル形式 (OUTFILFMT)

出力ファイルの様式を指定します。

***TYPE1**

様式は、ライブラリーQSYS中のレコード様式名OSDIREをもつモデル出力ファイルQAOSDIROによって定義されます。この様式には、リリース2.0より後で追加された新しいディレクトリー・フィールドは入っていません。

***TYPE2**

出力ファイル様式は、ライブラリーQSYS中のモデル出力ファイルQAOSDIRBおよびQAOSDIRFによって定義されます。

DETAIL(*BASIC)が指定された場合には、出力ファイルに基本フィールドしか入れられず、モデル出力ファイルQAOSDIRBがレコード様式名OSDIRBとともに使用されます。DETAIL(*FULL)が指定された場合には、出力ファイルにすべての明細フィールドが入れられ、モデル出力ファイルQAOSDIRFがレコード様式名OSDIRFとともに使用されます。

***TYPE3**

出力ファイルに、すべての明細フィールドおよびX.400発信元/配布先(O/R)名が入れられます。ライブラリーQSYS中のモデル出力ファイルQAOSDIRXがレコード様式名OSDIRXとともに使用されます。

[トップ](#)

出力するデータ (OUTDTA)

OUTPUTパラメーターで指定された値への出力として組み込むデータのタイプを指定します。出力が画面に送られる場合(OUTPUT(*))または特定のユーザーIDあるいはプロファイルが指定されている場合には、このパラメーターは使用されません。

***LCL** ローカル定義データが含まれます。シャドー処理されたデータは含まれません。

***ALL** ディレクトリー項目のすべてのデータが含まれます。これには、ローカル定義データとシャドー処理されたデータが含まれます。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

このコマンドでパラメーター値として指定されるデータの文字識別コード (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。この文字識別コード(CHRID) は、コマンドの指定に使用される表示装置と関係しています。CHRID処理の詳細については、APPLICATION DISPLAY PROGRAMMING (SC41-5715)を参照してください。

*SYSVAL

システムが、QCHRIDシステム値からのコマンド・パラメーターについて、図形文字セットおよびコード・ページの値を決定します。

*DEV D

システムが、コマンドが入力される表示装置記述からのコマンド・パラメーターについて、図形文字セットおよびコード・ページの値を決定します。このオプションは、対話式ジョブから指定された時にだけ有効です。この値が対話式CLプログラムまたはバッチ・ジョブで指定されると、エラー・メッセージが送られます。

指定できる文字セットの値は次の通りです。

図形文字セット

コマンド・パラメーターを作成するために使用される図形文字セットの値を指定してください。有効な値の範囲は1-9999です。

指定できるコード・ページの値は次の通りです。

コード・ページ

コード・ページを指定してください。有効な値の範囲は1-9999です。

[トップ](#)

DSPDIREの例

例1: 1つの記述の画面の表示

```
DSPDIRE  USRID(HURST NEWYORK)
```

このコマンドは、ユーザーIDおよびアドレスHURST NEWYORKについての「ディレクトリー項目詳細の表示」画面を表示します (このユーザーIDが関連した記述を1つしかもっていない場合)。複数の記述が存在している場合は、ユーザーIDおよびアドレスについてのすべての項目が含まれた「ディレクトリー項目の表示」画面が表示されます。

例2: ディレクトリー情報の印刷

```
DSPDIRE  USER(JONES)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルJONESについての完全なディレクトリー詳細を印刷します。JONESのディレクトリー内に複数の記述がある場合は、印刷出力には各記述が入ります。

例3: 全明細のデータベース・ファイルへの送信

```
DSPDIRE  OUTPUT(*OUTFILE)
          OUTFILE(MYLIB/DIRLIST)  OUTMBR(*FIRST *REPLACE)
          DETAIL(*FULL)
```


このコマンドは、ディレクトリー内の項目ごとのレコードをライブラリーMYLIB内のデータベース・ファイルDIRLISTに送ります。このレコードにはユーザーごとの完全な詳細が入っています。出力ファイルの様式は、OUTFILFMT(*TYPE1)の省略時の値が原因でリリース3.0より前に使用される様式になります。このファイルが存在していない場合には、作成されます。このファイルが存在している場合は、置き換えられません。

例4:基本情報のデータベース・ファイルへの送信

```
DSPDIRE  OUTPUT(*OUTFILE)
          OUTFILE(MYLIB/DIRLIST)  DETAIL(*BASIC)
          OUTFILFMT(*TYPE2)
```

このコマンドは、ディレクトリー内の項目ごとのレコードをライブラリーMYLIB内のDIRLISTという名前のデータベース・ファイルに送ります。このデータには、基本フィールド（ユーザーID、アドレス、および記述）しか入っていません。リリース1.0または2.0データ（例2を参照）ライブラリーMYLIB内のDIRLISTという名前のデータベース・ファイルがすでに存在している場合は、エラーが起こります。そうでない場合は、ファイルがリリース3.0様式で作成されます。

トップ

エラー・メッセージ： DSPDIRE

*ESCAPEメッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D)、DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ディスク表示 (DSPDKT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク表示(DSPDKT)コマンドは、ディスク上にあるボリューム・ラベルおよびデータ・ファイル識別コード情報を表示します。ディスクに保管されたオブジェクトについての情報も表示することができます。これらの情報は印刷することも、表示装置に表示することもできます。

データ・タイププロンプト (DATAパラメーター) で*SAVRSTを指定して、ディスクに保管された各オブジェクトの説明および保管されたオブジェクトについての要約情報が含まれている詳細説明を表示することができます。

注: IBM以外の標準ラベルであるラベル付きのディスクを表示すると、予測できない結果となることがあります。ディスクを初期設定するためには、CHECK(*NO)を指定して、ディスク初期設定(INZDKT)コマンドを実行してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ディスク装置	名前	必須, 定位置 1
LABEL	ディスク・ラベル	文字値, *ALL	オプション
DATA	データ・タイプ	*LABELS, *SAVRST	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

トップ

ディスク装置 (DEV)

表示されるボリュームが取り付けられている装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

ディスク・ラベル (LABEL)

表示されているディスク上のデータ・ファイルのデータ・ファイル識別コードまたはすべての識別コードを指定します。データ・ファイル識別コードは、ディスクのボリューム・ラベル域に保管され、そのディスクに存在しているファイルの識別コードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** ディスケット装置プロンプト (DEVパラメーター) に指定されたディスク上のすべてのデータ・ファイル識別コードが表示されます。

データ・ファイル識別コード

表示されるデータ・ファイルのデータ・ファイル識別コード (最大17桁の英数字) を指定してください。基本, H, または I 形式のデータ・ファイルの場合には, この識別コードは最大 8 桁にすることができます。

[トップ](#)

データ・タイプ (DATA)

表示される情報のタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***LABELS**

ボリュームおよびデータ・ファイル識別コードが表示されます。

***SAVRST**

コマンドおよび保管された各オブジェクトについての保管または復元要約情報を表示します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を, 要求元のワークステーションに表示するか, あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は, 対話式ジョブに表示されるか, あるいは非活動ジョブのジョブのスプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

注: 保管(SAV)コマンドによって作成されたディスク上の各ファイルは, 別個のリストとして印刷されます。

[トップ](#)

DSPDKTの例

DSPDKT DEV(DKT01)

このコマンドは, 装置DKT01内のディスクのボリューム・ラベル, およびすべてのデータ・ファイル識別コードを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPDKT

***ESCAPE**メッセージ

80 iSeries: OS/400 コマンド DSPAUTUSR (認可ユーザーの表示) ~

CPD375A

保管媒体で媒体エラー。

CPF3704

要求が終了した。データ管理エラーが起こっています。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3743

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

CPF3791

&3の&2 &1の処理中にファイル&4の終わりになった。

CPF3792

情報は表示されなかった。エラーが起こった。

CPF3793

マシンの記憶域限界に達した。

CPF3796

ユーザー・プロファイル&4の記憶域限界を超えた。

CPF6017

ディスク表示が終了したが、前にエラーが起こっている。

CPF6716

装置&1がディスク装置でない。

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

トップ

DLファイル属性の表示 (DSPDLFA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ・リンク・ファイル属性の表示(DSPDLFA)コマンドを使用して、ファイルにあるデータ・リンク欄についての情報を表示することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FLD	フィールド名	名前, *ALL	オプションナル, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプションナル

[トップ](#)

ファイル (FILE)

データ・リンク属性を表示する物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***ALL** システムのすべてのライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

フィールド名 (FLD)

表示したいデータ・リンク・フィールドを指定します。

***ALL** 指定された物理ファイルにあるすべてのデータ・リンク・フィールドが表示されます。

名前 表示される単一フィールドの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

***** 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

DSPDLFAの例

```
DSPDLFA FILE(ADMN/PERSONNEL) FLD(*ALL) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ADMNライブラリー中のファイルPERSONNELのレコードのリストを印刷します。このファイルで属性FILE LINK CONTROLをもつすべてのデータ・リンク・フィールドの場合、リストにはサーバー接続を確立できるかどうか、データ・リンク・ファイル・マネージャー(DLFM)サーバーとの完了していない保留中のデータ・リンク・トランザクションがあるかどうかを示されます。

トップ

エラー・メッセージ： DSPDLFA

***ESCAPEメッセージ**

CPF32B9

データ・リンク機能を実行することができません。

トップ

DLO監査レベルの表示 (DSPDLOAUD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト監査の表示(DSPDLOAUD)コマンドによって、文書またはフォルダーの監査レベルを表示することができます。

制約事項:

1. 文書またはフォルダーの監査レベルを表示するためには、少なくとも、文書またはフォルダーに対する *USE権限、あるいは*ALLOBJまたは*AUDITの特殊権限が必要です。
2. *ALLOBJまたは*AUDITの権限がない場合には、ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *SYSOBJNAM, *ROOT, *ALL	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE, *ANY, *ROOT	オプション, 定位置 2
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション
TYPE	オブジェクトのタイプ	*FLR, *DOC, *ALL	オプション
LEVEL	リストのレベル	*CURRENT, *ALL	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

その監査値を表示する文書またはフォルダーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 指定されたフォルダーのすべてのDLOの監査レベルが表示されます。

***ROOT**

*ROOTレベル・フォルダーの監査レベルが表示されます。*ROOTレベル・フォルダーには、新しいすべての第1レベルのフォルダーの省略時の監査レベルが入っています。

***SYSOBJNAM**

SYSOBJNAMパラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名をもつ文書またはフォルダーの監査レベルが表示されます。

文書ライブラリー・オブジェクト名

文書ライブラリー・オブジェクトを指定し、その監査レベルが表示されます。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

文書ライブラリー・オブジェクトが入っているフォルダーを指定し、その監査レベルが表示されます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

文書またはフォルダーはフォルダー中に入っていません。

***ANY** システム上のすべてのDLOの監査レベルが表示されます。

***ROOT**

すべての第1レベルのフォルダーの監査レベルが表示されます。

フォルダー名

文書ライブラリー・オブジェクトが入っているフォルダーの名前を指定して、その監査レベルが表示されます。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

システム・オブジェクト名を指定します。このパラメーターが有効なのは、DLO(*SYSOBJNAM)が指定された場合だけです。10桁の文字を指定しなければなりません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

このコマンドからの出力を表示するか、印刷するか、またはデータベース・ファイルに送るかを指定します。このパラメーター詳細情報については、AS/400 CL (制御言語) 解説書の「付録A パラメーターの詳細説明」に示されています。

考えられる値は次の通りです。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、OUTFILEパラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

オブジェクトのタイプ (TYPE)

FLRパラメーターに指定されたフォルダーに入っている文書またはフォルダーを表示するかどうかを指定します。このパラメーターが有効なのは、FLR（フォルダー名）が指定されて、その他のすべての場合の省略時の値として使用される場合です。DLO(*ALL) FLR(*ANY)が指定された場合には、TYPE(*ALL)が使用されます。DLO(*ALL) FLR(*ROOT)が指定された場合には、TYPE(*FLR)が使用されます。DLO(*ALL) FLR(*NONE)が指定された場合には、TYPE(*DOC)が使用されます。コマンドに単一オブジェクトが指定された場合には、TYPEパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***FLR** 指定されたフォルダーに入っているフォルダーが表示されます。

***DOC** 指定されたフォルダーに入っている文書が表示されます。

***ALL** 指定されたフォルダーに入っている文書およびフォルダーが表示されます。

[トップ](#)

リストのレベル (LEVEL)

指定されたフォルダーでネストされたレベルの文書およびフォルダーを表示するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

現行レベルの文書およびフォルダーだけが出力に入れます。

***ALL** すべてのレベルの文書およびフォルダーだけが出力に入れます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルの名前を指定します。出力ファイルが存在しない場合には、そのコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。コマンドがファイルを作成した場合には、そのファイルと関連したテキストが**DSPDLOAD**の出力ファイルとなります。その共通認可は、そこにファイルを作成するそのライブラリーに指定された作成権限と同じです。

データベース・ファイル名は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

データベース・ファイル名

コマンドからの出力が送られるデータベース・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドからの出力が送られるデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。そのメンバーがすでに存在している場合には、システムはこのパラメーターの2番目の要素に指定された値を使用して、新しいレコードを追加する前に、そのメンバーを消去するかどうかを判別します。このメンバーが存在しないで、メンバー名が指定されていない場合には、システムは、OUTFILEパラメーターに指定された出力ファイルの名前を使用してメンバーを作成します。出力ファイル・メンバー名は指定されているが、メンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

出力を受け取るメンバーの値は次の通りです。

考えられる値は次の通りです。

***FIRST**

データベース・ファイルの最初のメンバーが使用されます。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーを指定します。OUTMBR（メンバー名）を指定し、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

メンバーに対して実行する操作の値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

DSPDLOADの例

例1: 監査レベルの表示

```
DSPDLOAD DLO(MYDOC) FLR(MYFLR)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR内の文書MYDOCの監査レベルを表示します。

例2: 監査レベルの印刷

```
DSPDLOAD DLO(*ALL) FLR(*ROOT) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、システム上の第1レベルのすべての監査レベルを印刷します。

例3:監査レベルのリスト

```
DSPDLOAD DLO(*ALL) FLR(*ANY)
          OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(MYLIB/MYFILE)
```

このコマンドは、システム上のDLOのすべての監査レベルをライブラリーMYLIB内の出力ファイルMYFILEにリストします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPDLOAD

*ESCAPEメッセージ

CPF89B0

リストの出力時にエラーが起こった。

CPF89B1

エラーが起こったので監査レベルが表示されない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

DLO権限の表示 (DSPDLOAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト権限表示(DSPDLOAUT)コマンドにより、オブジェクトが認可されたユーザーおよびそのユーザーに割り当てられている権限のリストの表示だけを行なうことができます。

指定した文書またはフォルダーについて次の情報が表示されます。

- 文書またはフォルダーの名前。
- 文書またはフォルダーの所有者。
- 1次グループの名前 (ある場合)
- 文書またはフォルダーを保護している権限リスト (存在する場合) の名前。
- 文書またはフォルダーの個人状況。
- 文書またはフォルダーに対して認可されている特定のユーザーのリスト。
- 特定権限をもたず(*PUBLIC),権限リスト上になく、またそのユーザー・グループが文書またはフォルダーに対して何の権限ももっていないユーザーに与えられている権限。

制約事項:

1. 文書またはフォルダーに関する権限情報を表示するためには、ユーザーは、その文書またはフォルダーに対して少なくとも*USE権限が必要です。
2. 文書またはライブラリー・オブジェクトに対して*ALLまたは*ALLOBJ権限がある場合には、ユーザーは全権限情報を調べます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *SYSOBJNAM, *ROOT	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

表示する文書またはフォルダーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SYSOBJNAM**

システム・オブジェクト名プロンプト（SYSOBJNAMパラメーター）で指定するシステム・オブジェクト名が表示されます。

***ROOT**

*ROOTフォルダーの共通認可の値が表示されます。

文書またはフォルダー名

表示する文書またはフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。最大12桁を指定することができます。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定されたオブジェクトが入っているフォルダーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

フォルダー名は指定されません。文書ライブラリー・オブジェクトプロンプト（DLOパラメーター）に名前を指定して、オブジェクトがフォルダーに入っている場合には、ここで*NONEを指定することはできません。

フォルダー名

オブジェクトが入っているフォルダーの名前を指定してください。オブジェクトの入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、この名前を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*
- 出力は、対話式ジョブによって要求された場合には、要求元のワークステーションに表示されます。これが対話式ジョブでない場合には、出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

フォルダーまたは文書のシステム・オブジェクト名を指定します。

オブジェクト名

表示するフォルダーまたは文書のシステム・オブジェクト名を指定してください。最大10文字を指定することができます。

[トップ](#)

DSPDLOAUTの例

```
DSPDLOAUT DLO(DOCA) FLR(MYFLR) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、このコマンドのユーザーにはフォルダーMYFLR内のDOCAに対する*ALL権限があると、フォルダーMYFLR内のDOCAについてのすべての許可ユーザーおよびその権限のすべてのリストを印刷します。このコマンドは、このコマンドのユーザーに*USE権限があると、ユーザーの権限だけを印刷します。アクセス・コードも表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPDLOAUT

*ESCAPEメッセージ

CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

CPF8A78

フォルダー&1は使用中である。

CPF8A79

フォルダー&1は論理的に損傷している。

CPF8A80

フォルダー&1の文書&2は使用中である。

CPF8A82

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

CPF8A88

フォルダー&1の文書&2でこの操作を使用することはできない。

CPF8A89

フォルダー&1の文書&2が論理的に損傷している。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9073

文書ライブラリー・オブジェクト&1の機密保護の表示または変更権限がない。

CPF9079

ユーザー・プロファイル&1の文書記述のGET要求は正常に行なわれなかった。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF908B

文書ライブラリー・オブジェクトが見つからない。

CPF909A

フォルダー&1の文書&2に損傷がある。

CPF9095

フォルダー&1に損傷がある。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

[トップ](#)

DLO名の表示 (DSPDLONAM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト名表示(DSPDLONAM)コマンドは、ファイル済み文書、フォルダー、または配布文書名の代替書式を表示または印刷するために使用されます。

制約事項:

1. ユーザーは、名前の各種形式を表示するためには、ファイル済み文書またはフォルダーに対して*USE権限をもっていなければなりません。
2. ユーザーは、配布文書の名前の各種形式を表示するためには、*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *DOCID, *LADNTSP, *SYSOBJNAM	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
DOCID	文書識別コード	文字値, *NONE	オプション
LADNTSP	LADNタイム・スタンプ	X'0000000000000001'-X'FFFFFFFFFFFFFFFF', *NONE	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前, *NONE	オプション
OBJCLS	オブジェクト・クラス	*DOC, *FLR, *DST	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

代替名が表示または印刷される文書またはフォルダーを指定します。

これは必須パラメーターです。

*DOCID

文書またはフォルダーは、DOCIDパラメーターに指定されたそのライブラリー割り当て文書名を使用して識別されます。**FLR**パラメーターは*NONEでなければなりません。

*LADNTSP

文書またはフォルダーは、LADNTSPパラメーターに指定されたそのライブラリー割り当て文書名(LADN)タイム・スタンプを使用して識別されます。**FLR**パラメーターは*NONEでなければなりません。

*SYSOBJNAM

文書またはフォルダーは、SYSOBJNAMパラメーターに指定されたそのシステム・オブジェクト名を使用して識別されます。**FLR**パラメーターは*NONEでなければなりません。

文書名 文書のユーザー割り当て名を指定してください。指定された文書が入っているフォルダーは**FLR**パラメーターに指定されます。

フォルダー名

フォルダーの名前を指定してください。指定されたフォルダーが入っているフォルダーは**FLR**パラメーターに指定されます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

DLOパラメーターに指定された文書またはフォルダーが入っているフォルダー・パスを指定します。DLOパラメーターが*DOCID, *LADNTSP,または*SYSOBJNAM である場合には、FLRパラメーターは*NONEでなければなりません。

*NONE

文書またはフォルダーがフォルダー内に入っていないか、あるいは**DOCID**, **LADNTSP**,または**SYSOBJNAM**パラメーターを使用して識別されます。

フォルダー名

DLOパラメーターに指定された文書またはフォルダーが入っているフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

文書識別コード (DOCID)

文書のライブラリー割り当ての名前を指定します。これは、文書が作成された時にシステムによって文書に割り当てられた名前です。ローカル・システム外にファイルされた文書はライブラリー割り当て文書名だけをもっています。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリー**QUERY(QRYDOCLIB)**コマンドを使用して、または文書ファイル(**FILDOC**)コマンドから戻されたメッセージによって、判別することができます。

ライブラリー割り当て文書名の長さは次の形式で24桁です。

YYYYMMDDHHMNSSHSSNSNSNSN

ここで

YYYY = 年

MM = 月

DD = 日

HH = 時

MN = 分

SS = 秒

HS = 100分の1秒

SNSNSNSN =システム名

***NONE**

オブジェクトのライブラリー割り当て文書名は指定されません。

文書ID 文書またはフォルダー・オブジェクトのライブラリー割り当て名を指定します。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリーQUERY(QRYDOCLIB)コマンドを使用して、あるいは文書ファイル(FILDOC)またはその他のコマンドから戻されたメッセージによって識別することができます。

[トップ](#)

LADNタイム・スタンプ (LADNTSP)

文書またはフォルダー・オブジェクトのライブラリー割り当て文書名(LADN)タイム・スタンプを指定します。LADNタイム・スタンプが指定されるのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*LADNTSPが指定された場合だけです。

***NONE**

オブジェクトのLADNタイム・スタンプは指定されません。

LADNタイム・スタンプ

文書ライブラリー・オブジェクトのLADNタイム・スタンプを指定します。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書またはフォルダー・オブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定します。システム・オブジェクト名が指定されるのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SYSOBJNAMが指定された場合だけです。

***NONE**

オブジェクトのシステム・オブジェクト名は指定されません。

システム・オブジェクト名

文書ライブラリー・オブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定します。

[トップ](#)

オブジェクト・クラス (OBJCLS)

見つけるオブジェクトのクラスを指定します。

***DOC** 指定されるDLOはファイル済み文書です。

***FLR** 指定されるDLOはフォルダーです。

***DST** 指定されるDLOは配布文書です。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPDLONAMの例

```
DSPDLONAM DLO(MYDOC) FLR(MYFLR) OBJCLS(*DOC)
```

このコマンドは、文書MYDOCをフォルダーMYFLR内で検索し、文書の名前の形式をすべて表示します。ジョブをバッチ・モードで実行中の場合は、情報は印刷されて表示されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPDLONAM

*ESCAPEメッセージ

CPF8AC0

&1コマンドが正しく実行されなかった。

CPF8AC1

文書の配布は認可されていない。

CPF8A75

フォルダー&1のアクセスが認可されていない。

CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

CPF8A82

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

CPF8A83

フォルダー&1の文書&2のアクセスが認可されていない。

[トップ](#)

配布リスト表示 (DSPDSTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リスト表示(DSPDSTL)コマンドは、配布ディレクトリーに入っている配布リストの出力ファイルを表示、印刷、または作成するために使用されます。このコマンドから配布リストを作成したり削除したりすることはできません。また、既存のリストを更新することもできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LSTID	リスト識別コード	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	
OWNER	所有者	名前, *ALL , *CURRENT	オプション、位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション、位置 3
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	
DETAIL	詳細	*BASIC , *FULL	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL , *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

[トップ](#)

リスト識別コード (LSTID)

表示、印刷、またはデータベース・ファイルに書き出す配布リストを指定します。

***ALL** システム配布ディレクトリー中のすべての配布リストが出力に組み込まれます。項目はリストIDのアルファベット順に提供されます。出力が印刷リストまたは出力ファイルの場合には、各リスト中の項目のリストの配布リストのリストが出力であるかどうかをDETAILパラメーターが決定します。

指定できるリスト識別コードの値は次の通りです。

リストID

配布リストのリスト識別コード(ID)を指定してください。

指定できるリスト修飾子の値は次の通りです。

リストID修飾子

配布リストのリストID修飾子を指定してください。

注: 配布リスト識別コードはIDと修飾子の2つの部分から成り、両者の間は少なくとも1つのスペースで区切られます。小文字を指定した場合には、システムが大文字に変換します。

2部分から成るリストIDの命名規則はユーザーIDおよびアドレスの規則と同じです。規則の完全な説明については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

トップ

所有者 (OWNER)

表示、印刷、またはデータベース・ファイルに書き込む配布リストの所有者を指定します。

***ALL** すべてのユーザー・プロファイルが所有する配布リストが出力用に送られます。

*CURRENT

現行ユーザーが所有する配布リストが出力用に送られます。

ユーザー・プロファイル名

出力用に送る配布リストを所有する所有者のユーザー・プロファイルを指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、ジョブのスパール出力で印刷されるか、あるいはデータベース・ファイルに書き込まれるかを指定します。

***:** 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT:

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE:

出力は、OUTFILEパラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

画面の出力を送るデータベース・ファイルの名前を指定します。出力ファイルが存在していない場合に、このコマンドは、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。ライブラリーが指定されていない場合には、データベース・ファイルはQGPLに作成されます。

ファイルが作成される場合には、テキストは'DSPDSTLによって作成されるOUTFILE'で、ファイルに対する共通認可は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じです。ライブラリーの作成権限を表示するためには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

データベース・ファイル名

画面の出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。データベース・ファイルが*LIBLで修飾されているが、システムがそのファイルを見つけることができない場合には、そのファイルはユーザーの省略時のライブラリー（指定されている場合）に作成されます。省略時のライブラリーが指定されていない場合には、そのファイルはQGPLに作成されます。

注: 新しいファイルを作成する場合には、システム・ライブラリーQSYS中の様式名OSDSTLのシステム・ファイルQAOSDSTOがモデルとして使用されます。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

画面の出力の送信先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーがすでに存在している場合には、システムはこのパラメーターの2番目の部分を使用して、新しいレコードを追加する前にメンバーを消去するかどうかを判別します。メンバーが存在せず、メンバー名も指定されていない場合には、システムは、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されているファイルの名前でメンバーを作成します。出力ファイル・メンバー名が指定されていて、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

考えられる出力を受け取るメンバーの値は次の通りです。

***FIRST**

出力ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。

メンバー名

出力を受け取る出力ファイル・メンバーの名前を指定してください。

レコードの置き換えまたは追加に指定できる値は次の通りです。

***REPLACE**

出力ファイル・メンバーの中に現在入っているデータが、新しいデータに置き換えられます。このメンバーは、ファイルのオープン時に消去されます。

***ADD** メンバーは消去されません。新しいデータがデータベース・ファイル・メンバーに追加されます。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

印刷するかまたはデータベース・ファイルに向ける明細の量を指定します。出力 (**OUTPUT**)パラメーターに*が指定されているか、あるいはリスト識別コード (**LSTID**)パラメーターに特定のリスト識別コードが指定されている時には、このパラメーターは使用されません。LSTIDパラメーターに*ALLが指定されている場合には、このパラメーターは、すべての配布リストのリスト、またはすべての配布リストのすべての項目のリストのいずれを出力として使用するかを決定するために使用されます。

***BASIC**

リストまたはデータベース・ファイル内の出力は、ディレクトリーに入っているすべての配布リストのリストだけを含みます。

***FULL** リストまたはデータベース・ファイル内の出力は、ディレクトリーに入っているすべての配布リストのすべての項目を含みます。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セット識別コード(GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態で記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1-32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1-32767

使用するコード・ページを指定してください。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セット識別コード(GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態で記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

トップ

DSPDSTLの例

例1: リストの表示

```
DSPDSTL  LSTID(*ALL)  OUTPUT(*)
```

このコマンドは、ディレクトリー内の配布リストすべてのリストを表示します。パラメーターなしでDSPDSTLを指定すると、同じ処置になります。

例2: リストの印刷

```
DSPDSTL  LSTID(DEPT48K DISTLIST)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、配布リストDEPT48K DISTLIST中のすべての項目のリストを印刷します。詳細パラメーターは特定のリストを印刷するときには使用されません。

例3: 出力のデータベース・ファイルへの送信

```
DSPDSTL  OUTPUT(*OUTFILE)
          OUTFILE(ALLLISTS)  OUTMBR(*FIRST *REPLACE)
          DETAIL(*BASIC)
```

このコマンドは、ディレクトリーに入っている配布リストごとに1レコードをデータベース・ファイルALLLISTSに書き込みます。このソース・ファイルがライブラリー・リストに見つからない場合には、ライブラリーが指定されていないのでQGPLライブラリーに作成されます。

例4: 配布リストリスト所有者の出力のデータベース・ファイルへの送信

```
DSPDSTL  OWNER(ABSMITH)  OUTFILE(DISTLIST/ABSMITH)
          OUTMBR(*FIRST *REPLACE)  DETAIL(*BASIC)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルABSMITHが所有している配布リストごとに1レコードを、ライブラリーDISTLIST内のデータベース・ファイルABSMITHに書き込みます。このソース・ファイルがライブラリーDISTLIST内に見つからない場合には、作成されます。

エラー・メッセージ： DSPDSTL

*ESCAPEメッセージ

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9052

リストID &1 &2を見つけることができない。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

配布ログ表示 (DSPDSTLOG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布ログ表示(DSPDSTLOG)コマンドは、システム・ネットワーク体系配布サービス(SNADS)ログに対する便利なインターフェースを提供します。SNADSログ (QSNADSジャーナル) には、システムで実行されたSNADS操作を追跡する項目が入っています。これらの操作には、配布の送信、受信、および経路指定、そして構成変更があります。

このコマンドは、必要な情報を簡単にアクセスできる広範囲の選択基準を提供します。この選択基準には、期間、機能タイプ (ルーターや送信/受信プログラムなど)、項目タイプ (正常、エラー、および構成など) やジョブ名があります。任意の数の選択パラメーターを入力することができ、結果の出力は、入力されたすべてのパラメーターに基づいて累積されます。

指定した入力パラメーターによって、表示出力と印刷出力の両方を作成することができます。ユーザーが表示出力を要求すると、選択基準と一致するすべての項目の要約が表示されます。要約表示には、機能タイプ、項目タイプ、ログिंगの日付時刻、ジョブ名、および開始ユーザーIDなどの基本情報が入ります。要約表示から、任意の項目を選択して、そのログ項目の詳細を表示することができます。詳細表示によって、特定のログ項目のより明確な情報を得ることができます。ユーザーが印刷出力を要求すると、選択した各ログ項目の詳細な印刷出力を作成することができます。

ユーザーは適切な選択基準を指定して、次のタイプの情報を調べることができます。

- すべてのテーブルまたは特定のテーブルに対して行われた構成変更、その時刻、および実行した担当者
- エラー項目、あるいは経路指定または送信 (あるいはその両方) が実行された配布と関連した構成変更
- すべての機能または特定機能のエラー項目 (経路指定エラーなど) のリスト
- 選択された時間間隔中に受信、経路指定、または送信されたすべての配布
- 特定の送信元または受信先ジョブの活動

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. このコマンドを使用して、12 X 80サイズのワークステーション(*DS2)またはコンソール(*DS1)で情報を表示することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PERIOD	ログ出力の期間	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *BEGIN	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *END	
FNCTYP	機能タイプ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 8 回の繰り返し): *RCV, *RTR, *SND, *CFG, *OPR, *ORG, *ARV, *SYS	オプション
ENTTYP	項目タイプ	単一値: <u>*ALLDST</u> , *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *NRM, *ERR, *RTG, *DSQ, *SYS	オプション
ORGUSRID	起点ユーザーID	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値, <u>*ALL</u> , *BLANK	
	要素 2: アドレス	文字値, <u>*ALL</u> , *BLANK	
ORGSYSNAME	起点システム名	要素リスト	オプション
	要素 1: システム名	文字値, <u>*ALL</u>	
	要素 2: システム・グループ	文字値, <u>*ALL</u> , *BLANK	
JOB	ジョブ名	単一値: <u>*ALL</u> その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
RCVRNG	ジャーナル・レシーバーの範囲	単一値: <u>*CURRENT</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: 終了ジャーナル・レシーバー	単一値: <u>*CURRENT</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 終了ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

トップ

ログ出力の期間 (PERIOD)

ログ項目が表示される期間を指定します。このパラメーターにはそれぞれ2つの値からなる2つのリストが含まれており、次の値をコーディングすることができます。

開始時刻：開始時刻の指定には次のいずれかが使用されます。

***AVAIL**

開始日から終了日までのログ項目が表示されます。

開始時刻

指定した開始日における、ログ項目を表示したい開始時刻を指定してください。時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング（HHMMまたはHHMMSS）を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のストリングを指定します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

開始日付：開始日付の指定には、次のいずれかを使用します。

***CURRENT**

現在日に使用可能なログ項目、および指定された開始時刻と終了時刻（指定されている場合）の間に使用できるログ項目が表示されます。

***BEGIN**

ログの始めからの項目が表示されます。*BEGINを指定した場合には、開始時刻は無視されます

開始-日付

ログ項目が表示される開始日を指定してください。（システム日付の形式を使用しなければなりません。）

終了時刻：終了時刻の指定には次のいずれかが使用されます。

***AVAIL**

開始日から終了日までのログ項目が表示されます。

終了時刻

指定した終了日における、ログ項目の表示の終了時刻を指定してください。時刻の指定方法の詳細については、このパラメーターの説明の中の開始時刻の項を参照してください。

終了日付:終了日付の指定には、次のいずれかを使用します。

***CURRENT**

現在日に使用可能なログ項目、および指定された開始時刻と終了時刻（指定されている場合）の間に使用できるログ項目が表示されます。

***END** ログの終りまでの項目が表示されます。*ENDを指定した場合には、終了時刻は無視されます。

終了日 表示したいログ項目の終了日を指定してください。（システム日付の形式を使用しなければなりません。）

トップ

機能タイプ (FNCTYP)

QSNADSジャーナルに対する項目が作成された時に実行されていたSNADS機能を指定します。省略時の値の*ALLが指定されていない場合には、最大8つの機能を指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は、次の通りです。

- *ALL** ログ項目を作成したすべてのSNADS機能が指定されます。
- *RCV** SNADS受信機能を指定します。
- *RTR** SNADSルーターを指定します。
- *SND** SNADS送信側機能を指定します。
- *ORG** SNADS発信元機能を指定します。
- *ARV** SNADS到着機能を指定します。
- *CFG** SNADS構成機能が指定されます。このパラメーターに*CFGを指定した場合には、**ユーザー識別コードプロンプト (ORGUSRIDパラメーター)** および**システム・グループプロンプト (ORGSYSNAMEパラメーター)** を指定することはできません。
- *OPR** SNADS操作機能を指定します。
- *SYS** SNADSシステム機能が指定されます。

[トップ](#)

項目タイプ (ENTTYP)

表示されるログ項目のタイプを指定します。値*ALLまたは*ALLDSTが指定されていない場合には、最大5つの項目タイプを指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は、次の通りです。

- *ALLDST**
*SYSを除くすべてのログ項目タイプが表示されます。
- *ALL** すべてのログ項目タイプが表示されます。
- *NRM** 正常な (すなわち、エラーのない) ログ項目が表示されます。
- *ERR** エラー・ログ項目が表示されます。
- *RTG** 経路指定テーブルのログ項目または2次システム名のログ項目が表示されます。
- *DSQ** 配布待ち行列のログ項目が表示されます。
- *SYS** QSNADSジャーナル項目が表示されます。

[トップ](#)

起点ユーザーID (ORGUSRID)

ログされた配布を開始したユーザーIDおよびアドレスを指定します。このパラメーターによって、指定したIDまたはアドレスをもつユーザーによって開始された配布にもとづいてログされた項目だけを表示または印刷することができます。ユーザーID およびアドレスは、ジョブのコード化文字セット識別コード (CCSID)を使用して、文字セットおよびコード・ページ'697 500'に変換されます。

指定できるユーザーIDの値は次の通りです。

***ALL** 開始元のユーザーIDに関係なく、すべてのログ項目が表示されます。

***BLANK**

開始元のユーザーIDがブランクとなっているログ項目 (SNADS状況配布の場合のような) だけが表示されます。

ユーザーID

表示したいログ項目に対応する開始元ユーザーIDを指定してください。

指定できるアドレスの値は次の通りです。

***ALL** 開始元のアドレスに関係なく、すべてのログ項目が表示されます。

***BLANK**

開始元のアドレスがブランクとなっているログ項目 (SNADS状況配布の場合のような) だけが表示されます。

アドレス

表示したいログ項目に対応する開始元のアドレスを指定してください。

[トップ](#)

起点システム名 (ORGSYSNAME)

ログされた配布の開始元システムの名前およびグループ名を指定します。このパラメーターによって、指定したシステムまたはグループによって開始された配布にもとづいてログされた項目だけを表示または印刷することができます。

AS/400,システム/38,およびシステム/36は、システム・グループを指定しません。これらのシステムからの配布の開始元システム・グループ名は常にブランクとなります。

名前およびグループは、ジョブのコード化文字セット識別コード (CCSID)を使用して、文字セットおよびコード・ページ'697 500'に変換されます。

指定できるシステム名の値は次の通りです。

***ALL** 開始元システムに関係なく、すべてのログ項目が表示されます。

システム名

表示したいログ項目に対応する開始元システムの名前を指定してください。

指定できるグループ名の値は次の通りです。

***ALL** 開始元のシステム・グループ名に関係なく、すべてのログ項目が表示されます。

***BLANK**

開始元アドレスがブランクとなっているログ項目だけが表示されます。

システム・グループ名

表示したいログ項目に対応する開始元のシステム・グループ名を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

ログ項目を作成したSNADSジョブの名前を指定します。このパラメーターによって、指定したジョブによってログされた項目だけを表示または印刷することができます。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 項目をログしたジョブに関係なく、すべての項目が表示されます。

ジョブ名 (ユーザー名 (ジョブ番号))

項目を作成する特定のSNADSジョブ名を指定します。

[トップ](#)

ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)

SNADSログを含むジャーナル・レシーバーを指定します。これによって、活動状態にないジャーナル・レシーバーに入っているSNADSログからの項目を表示することができます。

考えられる値は、次の通りです。

*CURRENT

現行のSNADSログが表示されます。

開始レシーバー名

開始レシーバー名 (ライブラリー名/開始レシーバー名) を指定してください。ジャーナル・レシーバーに保管されている、開始レシーバー名から終了レシーバー名までのSNADSログが表示されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジャーナル・レシーバーを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの名前を指定してください。

終了レシーバー名

終了レシーバー名 (ライブラリー名/終了レシーバー名) を指定してください。ジャーナル・レシーバーに保管されている、開始レシーバー名から終了レシーバー名までのSNADSログが表示されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジャーナル・レシーバーを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPDSTLOGの例

例1: 配布ログの印刷

```
DSPDSTLOG OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、配布ログ情報をジョブの出力スパール待ち行列に送って印刷します。OUTPUT(*)が指定されていて、コマンドがワークステーションから入力された場合には、配布ログに関する情報はそのワークステーションに表示されます。

例2: SNADS配布ログの取得

```
DSPDSTLOG ENTTYPE(*SYS)
```

このコマンドは、対話式ジョブの場合にはSNADS配布ログ項目をワークステーション表示装置に送って表示し、バッチ・ジョブの場合にはジョブのスパール出力で印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPDSTLOG

*ESCAPE メッセージ

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

[トップ](#)

配布サービス表示 (DSPDSTSRV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布サービス表示(DSPDSTSRV)コマンドは、ローカル・システム用に定義された配布待ち行列、経路指定テーブル、または2次システム名テーブルを表示または印刷します。システム・ネットワーク体系サービス(SNADS)ネットワークの詳細は、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)に入っています。

注: このコマンドによって、SNADSネットワークを変更することはできません。ネットワークに対する変更は、配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドを使用して実行することができます。

制約事項: システム名または配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、内部的なシステム変換のために、ユーザーが入力したものと異なる文字を表示または印刷する可能性があります。

ワークステーションで使用される言語によって、システム名または配布待ち行列の内部値は、DSPDSTSRVコマンドで表示される文字と異なる場合があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	メニュー・オプション	*SELECT , 1, 2, 3	オプションル、定位置 1
OUTPUT	出力	* , *PRINT	オプションル

トップ

メニュー・オプション (OPTION)

初期メニューをバイパスして直接2次画面に進むオプションを、配布サービス表示メニューで指定します。配布待ち行列、経路指定テーブル、または2次システム名テーブルのリストは、配布サービス表示メニューを表示しなくても指定することができます。

考えられる値は、次の通りです。

***SELECT**

メニューはバイパスされません。配布サービス表示メニューからオプションが選択されます。

- 1 配布待ち行列機能が選択されます。この機能は、ユーザーのシステムに隣接するシステムのすべての配布待ち行列を識別します。
- 2 経路指定テーブル機能が選択されました。この機能は、配布待ち行列を経路指定できるSNADSネットワーク内の宛先システムに対して、明示の項目または省略時の項目を記述します。

- 3 2次システム名テーブルの機能が選択されます。この機能は、システムを識別するために使用されるすべての名前をリストします。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

- * 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPDSTSRVの例

DSPDSTSRV OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、現行のSNADS構成状況を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPDSTSRV

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8805

システム名／グループの特殊値が許されていないか、あるいは正しく使用されていない。

CPF8806

システム名またはシステム・グループに値&1が正しくない。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8808

SNADSがこれ以上の待ち行列スペースを割り振ることができない。

CPF8809

SNADS内部待ち行列でエラーが検出された。

CPF8813

項目が存在していない。

CPF8814

待ち行列&1が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

[トップ](#)

データの表示 (DSPDTA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御言語(CL)コマンドDSPDTAはデータ・ファイルを表示します。ファイル中のデータを変更することはできません。

エラー・メッセージ: DSPDTA

*ESCAPEメッセージ

IDU0120

重要なテーブルが存在していない。コマンドは打ち切られました。

IDU0141

重要なテーブルが矛盾している。コマンドは打ち切られました。

IDU0167

&1.&2の使用は認可されていない。

IDU1205

プログラム&1.&2が見つからなかった。

IDU9001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DFUPGM	DFUプログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DFUプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前, *SAME	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

DFUプログラム (DFUPGM)

データの対話式表示を制御するDFUプログラムの修飾名を指定します。

***LIBL** DFUはライブラリー・リストを使用して、指定されたプログラムを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーを使用するためには、*CURLIBを入力してください。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。ライブラリー名を指定しない場合には、*LIBLが使用されます。

[トップ](#)

データベース・ファイル (FILE)

表示したいデータベース・ファイルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

DFUはプログラムを定義するために使用されたファイルを使用します。

ファイル名

DFUに処理させたいデータ・ファイルの修飾名を入力します。

***LIBL** DFUはライブラリー・リストを使用して、指定されたプログラムを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーを使用するためには、*CURLIBを入力してください。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。ライブラリー名を指定しない場合には、*LIBLが使用されます。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

ファイル中の表示したいメンバーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***FIRST**

DFUはファイルの最初のメンバーを表示します。

メンバー名

DFUに表示させたいメンバーの名前を入力します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPDTA

***ESCAPE**メッセージ

IDU0120

重要なテーブルが存在していない。コマンドは打ち切られました。

IDU0141

重要なテーブルが矛盾している。コマンドは打ち切られました。

IDU0167

&1.&2の使用は認可されていない。

IDU1205

プログラム&1.&2が見つからなかった。

IDU9001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

データ域表示 (DSPDTAARA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ域表示 (DSPDTAARA)コマンドは、指定されたデータ域の属性および値を表示します。表示される属性は次の通りです。すなわちデータ域のタイプおよび長さ、データ域があるライブラリー（ローカル・データ域、グループ・データ域、またはプログラム初期設定パラメーター・データ域に関連したライブラリーはありません）、およびデータ域を記述するテキストです。**制約事項:**

1. このコマンドを使用するには、データ域に対する使用(*USE)権限、およびライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。ローカル・データ域、グループ・データ域、またはプログラム初期設定パラメーター・データ域に必要な特定の権限はありません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTAARA	データ域	単一値: *LDA, *GDA, *PDA その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データ域	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2
OUTFMT	出力形式	*CHAR, *HEX	オプション
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT	オプション

[トップ](#)

データ域 (DTAARA)

属性および値が表示されるデータ域の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***LDA** ローカル・データ域が表示されます。ローカル・データ域(*LDA)は、長さ1024バイトの文字データ域です。このデータ域は自動的にユーザーのジョブに関連付けられ、別のジョブからアクセスすることはできません。

***GDA** このジョブがグループ・ジョブの場合には、グループ・データ域が表示されます。このデータ域は自動的にグループと関連付けられ、そのグループの外部のジョブからアクセスすることはできません。この文字データ域の長さは512バイトです。

***PDA** プログラム初期設定パラメーター・データ域が表示されます。この値は、事前開始ジョブの場合にだけ有効です。このデータ域の長さは2000バイトです。

修飾子1: データ域

名前 データ域の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 データ域があるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

***** 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

出力形式 (OUTFMT)

データ域の値が表示される形式を指定します。表示できない文字の16進数値を表示するためには、文字データ域の文字表現と16進数表現の両方を表示することができます。

***CHAR**

出力は文字形式で示されます。

***HEX** 出力は、16進数形式と文字形式の両方で示されます。この値は、文字データ域の場合にだけ有効です。

[トップ](#)

システム (SYSTEM)

提供される情報がローカル・システム(*LCL)上のデータ域にあるか、リモート・システム(*RMT)上にあるかを指定します。

***LCL** 表示されるデータは、ローカル・システムのデータ域に関するものです。

***RMT** 表示されるデータは、正常に出されたデータ域作成 (CRTDTAARA)コマンドのRMTDTAARAパラ

メーターに名前が指定されたりリモート・データ域からのものです。このデータを表示するためには、リモート・データ域の名前ではなく、CRTDTAARAコマンドで作成されたデータ域の名前を指定してください。

[トップ](#)

DSPDTAARAの例

例1: 16進数および文字形式での出力の表示

```
DSPDTAARA DTAARA(HEXDATA) OUTPUT(*) OUTFMT(*HEX)
```

ユーザーが適切な権限を持っている場合には、データ域HEXDATAの値および属性が表示されます。文字表記と16進数表記の両方が表示されます。

例2: 文字形式での出力の表示

```
DSPDTAARA DTAARA(TIME) OUTPUT(*)
```

ユーザーが適切な権限を持っている場合には、データ域TIMEの値および属性が表示されます。データ域を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPDTAARA

*ESCAPE メッセージ

CPF1015

&2にデータ域&1が見つからない。

CPF1016

&2のデータ域&1に対する権限がない。

CPF1021

データ域&2のライブラリー&1が見つからない。

CPF1022

ライブラリー&1データ域&2に対する権限がない。

CPF104A

SYSTEM(*RMT)をライブラリー&2のデータ域&1で使用することはできない。

CPF1046

ジョブがグループ・ジョブでないので、DTAARA(*GDA)は正しくない。

CPF1048

ライブラリー&2のデータ域&1のOUTFMT(*HEX)が正しくない。

CPF1063

ライブラリー&2のデータ域&1を割り振ることができない。

CPF1067

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF1072

ジョブが事前開始ジョブでないので、DTAARA(*PDA)は正しくない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

データ・ディクショナリー表示 (DSPDTADCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ・ディクショナリー表示(DSPDTADCT)コマンドにより、ユーザーはフィールド定義、レコード様式定義、あるいはデータ・ディクショナリー内のファイル定義の内容を表示または印刷することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTADCT	データ・ディクショナリー	名前	必須, 定位置 1
DFN	定義	総称名, 名前, *ALL	オプション
DFNTYPE	定義タイプ	*FILE , *RCDFMT, *FLD	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
FILEINF	ファイル情報	*BASIC , *DETAIL, *EXTENDED, *ALL, *NONE	オプション
RCDFMTINF	レコード様式情報	*BASIC , *EXTENDED, *ALL, *NONE	オプション
FLDINF	フィールド情報	*BASIC , *DETAIL, *EXTENDED, *ALL, *NONE	オプション
CRTDATE	作成日	日付, *FIRST	オプション

[トップ](#)

データ・ディクショナリー (DTADCT)

表示または印刷する定義が含まれているデータ・ディクショナリーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

定義 (DFN)

表示または印刷する定義の名前を指定します。

***ALL** 定義タイププロンプト (DFNTYPEパラメーター) に指定されたタイプの定義がすべて表示または印刷されます。

定義名 表示または印刷する定義名を指定します。

総称 * 定義名

表示または印刷する定義の総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称オブジェクト名が指定された場合には、総称名と同じ接頭部を持つ名前のすべての定義が表示または印刷されます。

定義タイプ (DFNTYPE)

処理する定義のタイプを指定します。

***FILE** ファイル定義が表示または印刷されます。この値は、**ファイル情報**プロンプト (FILEINFパラメーター) に*NONEが指定されている場合には無効です。

***FLD** フィールド定義が表示または印刷されます。この値は、**フィールド情報**プロンプト (FLDINFパラメーター) に*NONEが指定されている場合には無効です。

*RCDFMT

レコード様式定義が表示または印刷されます。この値は、**レコード様式情報**プロンプト (RCDFMTINFパラメーター) に*NONEが指定されている場合には無効です。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

ファイル情報 (FILEINF)

ファイル定義情報に表示または印刷する詳細レベルを指定します。

*BASIC

次の基本情報が表示または印刷されます。

- 定義名
- 定義タイプ
- 定義が入っているディクショナリー
- 定義が作成された日付
- 定義を作成した担当者のユーザー識別コード
- 最後に変更された日付
- 最終変更を行なった担当者のユーザー識別コード
- 定義のテキスト
- このファイル定義によって使用されるレコード様式定義の数

*DETAIL

基本情報およびキー・フィールド情報が表示または印刷されます。

***EXTENDED**

詳細情報およびファイル定義に関する詳細注釈が表示または印刷されます。

***ALL** 拡張情報およびこの定義を使用するファイルのリストが表示または印刷されます。

***NONE**

定義タイププロンプト (DFNTYPEパラメーター) に*RCDFMTまたは*FLDが指定されている場合には、ファイル定義について表示または印刷される詳細情報はありません。

トップ

レコード様式情報 (RCDFMTINF)

レコード様式情報の内容を印刷または表示する詳細レベルを指定します。

***BASIC**

次の基本情報が表示または印刷されます。

- 定義名
- 定義タイプ
- 定義が入っているディクショナリー
- 定義が作成された日付
- 定義を作成した担当者のユーザー識別コード
- 最後に変更された日付
- 最終変更を行なった担当者のユーザー識別コード
- 定義のテキスト
- このレコード様式定義によって使用されるフィールド定義の数
- 様式の長さ

***EXTENDED**

レコード様式定義についての基本情報、および詳細注釈が表示または印刷されます。

***ALL** 拡張情報、レコード識別コード、およびこのレコード様式定義を使用するファイル定義およびファイルのリストが表示または印刷されます。

***NONE**

*NONEが指定された場合には、**定義タイププロンプト** (DFNTYPEパラメーター) に*FILEが指定されている場合のファイル定義内のレコード様式定義について表示または印刷される詳細情報はありません。**定義タイププロンプト** (DFNTYPEパラメーター) に*RCDFMTが指定されている場合には、*NONEは無効です。**定義タイププロンプト** (DFNTYPEパラメーター) に*FLDが指定されている場合には、レコード様式定義について表示または印刷される詳細情報はありません。

トップ

フィールド情報 (FLDINF)

フィールド記述を印刷または表示する詳細レベルを指定します。

***BASIC**

次の基本情報が表示または印刷されます。

- 定義名

- 定義タイプ
- 定義が入っているディクショナリー
- 定義のテキスト
- データ・タイプ
- フィールド長
- バッファ長
- バッファ位置
- フィールドの使用状態
- 欄見出し

***DETAIL**

基本情報および以下が表示または印刷されます。

- 定義が作成された日付
- 定義を作成した担当者のユーザー識別コード
- 最後に変更された日付
- 最終変更を行なった担当者のユーザー識別コード
- 別名
- 編集情報

***EXTENDED**

詳細情報およびフィールド定義に関する詳細注釈が表示されます。

***ALL** すべての拡張情報およびこの定義を使用する定義とファイルのリストが、表示または印刷されます。

***NONE**

定義タイププロンプト (DFNTYPEパラメーター) に*FILEまたは*RCDFMTを指定した場合には、レコード様式定義中のフィールド定義について、詳細説明は印刷または表示されません。定義タイププロンプト (DFNTYPE パラメーター) に*FLDを指定した場合には、*NONEは無効です。

トップ

作成日 (CRTDATE)

定義が作成された日付を指定します。

***FIRST**

この名前で作成された最初の定義が表示または印刷されます。同じ日付で同じ名前の複数の定義が作成されていて、定義プロンプト (DFNパラメーター) にその名前が指定されている場合には、その日付の最初の定義だけが表示または印刷されます。総称名または*ALLが指定されている場合には、作成日プロンプト (CRTDATEパラメーター) は無視され、定義プロンプト (DFNパラメーター) と一致するすべての定義が表示または印刷されます。

日付 表示または印刷するファイル定義の作成日を指定します。

トップ

DSPDTADCTの例

```
DSPDTADCT  DTADCT(MINE)  DFN(*ALL)  DFNTYPE(*FILE)
           OUTPUT(*PRINT) FILEINF(*BASIC) RCDfmtINF(*BASIC)
           FLDINF(*EXTENDED)
```

このコマンドは、データ・ディクショナリーMINEにすべてのファイル定義を印刷します。ファイル定義の基本情報が印刷されます。各ファイル定義のフォーマット定義の基本情報と、ファイル定義のRECORDフォーマット定義中にあるフィールド定義の拡張情報が印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPDTADCT

*ESCAPEメッセージ

CPF2DAA

印刷装置&1が見つからない。

CPF2DAC

印刷装置&4の使用が認可されていない。

CPF2DAD

印刷装置&4は現在使用することができない。

CPF2D76

名前の途中に*を入れることはできない。

CPF2E9B

定義&1が見つからない。

CPF2F02

ディクショナリー&1の使用は認可されていない。

CPF2F08

辞書&1が見つからない。

CPF3012

ライブラリー&2のファイル&1が見つからない。

CPF3014

&2の&1として指定されたファイルを表示することができない。

CPF3024

SYSTEM(&3)の場合にファイル&1を使用することはできない。

CPF3064

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3067

&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF3068

&2のファイル&1への書き出し中にエラー。

CPF3069

&2のファイル&1のクローズ中にエラー。

CPF3074

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF3076

画面上でエラーが起こった。

CPF3077

表示を取り消そうとした時にエラーが起こった。

CPF4253

装置&6の出力待ち行列が認可されていない。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9852

ページ・サイズが&2のファイル&1には小さすぎる。

[トップ](#)

編集記述表示 (DSPEDTD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

編集記述表示(DSPEDTD)コマンドは、指定されたユーザー定義の編集記述に関する情報を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EDTD	編集記述	5, 6, 7, 8, 9	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT -	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

編集記述 (EDTD)

表示するユーザー定義の編集記述を識別する 1 桁の数字コード (5, 6, 7, 8, または 9) を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

* 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPEDTDの例

DSPEDTD EDTD(6)

このコマンドは、印刷装置または画面のどちらかでユーザー定義の編集記述6を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DСПEDTD

*ESCAPEメッセージ

CPF2617

編集記述が見つからなかった。

CPF2624

&2の編集記述&1は、前に削除されている。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

[トップ](#)

EWCバーコード項目の表示 (DSPEWCBCDE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置バーコード項目表示(DSPEWCBCDE)コマンドは、指定されたバーコード・グループのバーコード・パラメーターを表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BCDGRP	バーコード・グループ	名前	必須, 定位置 1
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 2
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWCSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	

[トップ](#)

バーコード・グループ (BCDGRP)

表示するバーコード・グループの名前を指定します。

[トップ](#)

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

表示するバーコード項目が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このソース・ファイル・メンバーには、拡張無線制御装置構成データが入っています。

[トップ](#)

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

ソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWC SRC

ソース・ファイル名QEWC SRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

DSPEWCBCDEの例

```
DSPEWCBCDE BCDGRP(BCD01) INZMBR(EWC01) INZFILE(*LIBL/QEWC SRC)
```

このコマンドは、ライブラリー・リストのソース・ファイルQEWC SRCのソース・ファイル・メンバーEWC01のバーコード・グループBCD01のバーコード・パラメーターを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPEWCBCDE

なし

[トップ](#)

無線CTLメンバー表示 (DSPEWCM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置メンバー表示(DSPEWCM)コマンドは、指定されたソース・ファイル・メンバーの拡張無線制御装置パラメーターを表示します。特定のポータブル・トランザクション・コンピューター(PTC)およびバーコード構成パラメーターは、拡張無線制御装置PTC項目表示(DSPEWCPTCE)および拡張無線制御装置バーコード項目表示(DSPEWCBCDE)コマンドを使用して表示されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 1
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWCSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

トップ

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

表示するソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このメンバーには、無線制御装置構成データが入っています。

トップ

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

ソース・ファイル・メンバーのソース物理ファイルの名前を指定します。ソース物理ファイルが存在しない場合には、このコマンドは正常に実行されません。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWC SRC

ソース・ファイル名QEWC SRCが使用されます。

ソース・ファイル名

変更するソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

DSPEWCMの例

```
DSPEWCM INZMBR(EWC01) INZFILE(QGPL/QEWC SRC)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLのソース・ファイルQEWC SRCのソース・ファイル・メンバーEWC01の拡張無線制御装置パラメーターを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPEWCM

なし

[トップ](#)

EWC PTC項目の表示 (DSPEWCPTCE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置PTC項目表示(DSPEWCPTCE)コマンドは、指定されたPTCグループのポータブル・トランザクション・コンピューター(PTC) パラメーターを表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PTCGRP	PTCグループ	名前	必須, 定位置 1
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 2
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWCSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	

[トップ](#)

PTCグループ (PTCGRP)

表示するPTCグループの名前を指定します。

[トップ](#)

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

PTC項目が追加されたソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。ソース・ファイル・メンバーには、拡張無線制御装置構成データが入っています。

[トップ](#)

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

ソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWC SRC

ソース・ファイル名QEWC SRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

DSPEWCPTCEの例

```
DSPEWCPTCE PTCGRP(PTC01) INZMBR(EWC01) INZFILE(*LIBL/QEWC SRC)
```

このコマンドは、ライブラリー・リストのソース・ファイルQEWC SRC のソース・ファイル・メンバーEWC01のPTCグループPTC01のPTC パラメーターを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPEWCPTCE

なし

[トップ](#)

無線回線メンバーの表示 (DSPEWLM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線回線メンバー表示(DSPEWLM)コマンドは、指定されたソース・ファイル・メンバーの拡張無線回線パラメーターを表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 1
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWLSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

[トップ](#)

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

変更するソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このメンバーには、拡張無線制御装置構成データが入っています。

[トップ](#)

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

表示するソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。ソース物理ファイルが存在しない場合には、このコマンドは正常に実行されません。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWSRC

ソース・ファイル名QEWSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

表示するソース・メンバーが入っている既存のソース物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

DSPEWLMの例

DSPEWLM INZMBR(EWL01)

このコマンドは、ライブラリー・リストのソース・ファイルQEWSRCのソース・ファイル・メンバーEWL01の拡張無線回線パラメーターを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPEWLM

なし

[トップ](#)

満了スケジュールの表示 (DSPEXPSCD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

満了スケジュール表示(DSPEXPSCD)コマンドは、ユーザー・プロファイルのリスト、それらの満了日、および取られる満了日処置（プロファイルの使用不能化または削除）を表示します。満了日処置が削除の場合には、所有オブジェクト・オプション(*NODLT, *DLT, *CHGOWN)および基本グループ・オプション(*NOCHG, *CHGPGP)が表示されます。所有オブジェクト・オプションが*CHOWNの場合には、新しい所有者が表示されます。基本グループ・オプションが*CHGPGPの場合には、新しい基本グループおよび新しい基本グループ権限が表示されます。この情報は、満了スケジュール項目表示(CHGEXPSCDE)コマンドから収集されたものです。CHGEXPSCDEコマンドの前に満了スケジュール表示(DSPEXPSCD)コマンドを実行した場合には、空の報告書が作成されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、*ALLOBJ特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
_ 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPEXPSCDの例

DSPEXPSCD OUTPUT(*)

このコマンドは、すべての満了スケジュール項目を表示します。

エラー・メッセージ： DSPEXPSCD

*ESCAPE メッセージ

CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

ファイル表示 (DSPF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル表示(DSPF)コマンドにより、ストリーム・ファイルまたはデータベース・ファイルを表示できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
STMF	ストリーム・ファイル、または	パス名	オプション、位置 1
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション、位置 2
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	ファイル・メンバー	名前, *FIRST	オプション、位置 3

トップ

ストリーム・ファイル、または (STMF)

表示するファイルの名前を指定します。

ストリーム・ファイル名

表示するオブジェクトの名前と一致するオブジェクトのパス名またはパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名かあるいはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字に対応します。指定した文字と一致するすべてのファイルまたはサブディレクトリーのリストが表示されます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。指定したファイル名がディレクトリーである場合には、ファイルおよびサブディレクトリーのリストが表示されます。このリストから、ディレクトリー中のファイルを編集または表示することができます。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

データベース・ファイル (FILE)

表示するデータベース・ファイルの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ファイル・メンバー (MBR)

表示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*FIRST

データベース・ファイル中の最初のメンバーが表示されます。

メンバー名

表示するメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

DSPFの例

例1: ストリーム・ファイルの表示

```
DSPF STMF('/MYDIR/MYFILE.TXT')
```

このコマンドは、ルート・ディレクトリーの下のディレクトリーMYDIRに入っているMYFILE.TXTを表示します。

例2: データベース・ファイル・メンバーの表示

```
DSPF FILE(MYLIB/MYFILE) MBR(MYMBR1)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBに入っているファイルMYFILEのメンバーMYMBR1を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPF

*ESCAPE メッセージ

CPFB601

表示装置ファイルQDZRUEDTが脱落しているか、あるいは損傷があります。

CPFB604

行コマンドの処理時にエラー。

CPFB605

ファイルのオープン時に予期しないエラー。

CPFB609

ワークスペースを割り振ることができません。

CPFB610

コマンドが正しくない。

CPFB611

&3の&1個のオカレンスに変更された。&2は変更されていません。

CPFB612

検索または置き換えストリングが指定されていません。

CPFB613

印刷装置ファイルのオープン中のエラー。

CPFB614

ファイル名が指定されていません

CPFB615

ターゲット行が指定されていない。

CPFB617

CCSIDが正しくない。

CPFB618

CCSID &1およびジョブのCCSID間の変換はサポートされていない。

CPFB619

ファイルは空です。

CPFB620

&2

CPFB621

ファイルの表示または編集, あるいはその両方ができない。

[トップ](#)

機能使用法の表示 (DSPFCNUSG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

機能使用表示(DSPFCNUSG)コマンドは、関数識別コードのリストを表示します。これは、特定機能に関する詳細使用情報（機能についての特定の使用情報をもつユーザー・プロファイルのリストを含む）を表示するためにも使用することもできます。

出力を印刷する場合は、各機能識別コードに関する詳細使用情報が出力に含まれます。

制約事項: 特定機能についての使用情報を表示するには、機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

機能使用表示コマンドからの出力を印刷するには、機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FCNID	機能ID	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション, 位置 1
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

[トップ](#)

機能ID (FCNID)

使用情報を表示する機能IDの名前を指定してください。

***ALL** すべての機能識別コードが表示されます。

総称名 表示する機能識別コードの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべての機能識別コードが表示されます。

名前 表示する機能識別コードの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPFCNUSGの例

DSPFCNUSG FCNID(QIBM_SERVICE_TRACE) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、QIBM_SERVICE_TRACE機能の使用の画面を印刷装置に送ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPFCNUSG

***ESCAPE** メッセージ

CPF228A

機能&1が登録されていない。

CPF229B

この操作は機能&1では使用できない。

CPF3CDA

登録機能リポジトリを使用することができない。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

[トップ](#)

ファイル記述表示 (DSPFD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル記述表示(DSPFD)コマンドは、1つまたは複数のデータベースまたは装置ファイル（あるいはその両方）のファイル記述から検索した1つまたは複数の種類の情報を表示します。指定された名前を持っているファイルで、指定のライブラリー修飾子で指定されたライブラリー中にあるユーザーがアクセス権を持っている各ファイルの情報が提供されます。この情報は表示、印刷、またはデータベース出力ファイル(OUTFILE)に出力することができます。DSPFDコマンドによって使用されるファイルの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報を参照してください。

制約事項:

1. ユーザーが指定したファイルに対するオブジェクト操作権を持っていないと、これらのファイルを表示することはできません。
2. ライブラリー修飾子によって識別されたライブラリーについては、ユーザーが読み取り権限を持っているライブラリー中の指定のファイルだけが検索されます。
3. TYPE(*ALL)、TYPE(*MBR)、またはTYPE(*MBRLIST)を指定し、このファイルが物理ファイルである場合には、ユーザーは、そのメンバーについての情報を受け取るために、ファイルに対するデータ権限（読み取り、書き出し、更新、または削除）を少なくとも1つ持っていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須、定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
TYPE	情報のタイプ	単一値: *ALL , *BASATR その他の値 (最大 10 回の繰り返し): *ATR, *ACCPH, *MBRLIST, *SELECT, *SEQ, *RCDFMT, *MBR, *SPOOL, *JOIN, *TRG, *CST, *NODGRP	オプション、定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション、定位置 3
FILEATR	ファイル属性	単一値: *ALL その他の値 (最大 12 回の繰り返し): *DSPF, *PRTF, *DKTF, *TAPF, *CMNF, *BSCF, *MXDF, *PF, *LF, *SAVF, *DDMF, *ICFF	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	
SYSTEM	システム	*LCL , *RMT, *ALL	オプション

トップ

ファイル (FILE)

ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

ファイル名として指定できる値は次の通りです。

ファイル名

ファイルのフルネームを指定してください。このファイルの情報だけが表示されます。

総称 *ファイル名

総称名を指定してください。指定された文字で始まる名前のすべてのファイルの情報が提供されます。

***ALL** 1つまたは複数のライブラリー中のすべてのファイルについて情報が提示されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXMX
QGPL	QSRVAGT	QUSRINFSKR	
QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMQMATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMQMPROC	QUSRBRM	QUSRRDARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

情報のタイプ (TYPE)

提供されるファイル情報のタイプを指定します。*ALLは、情報が表示または印刷される場合にだけ有効です。*BASATRは、情報がデータベース出力ファイルに記憶される場合にだけ有効です。他のパラメーターについては、情報が表示または印刷される場合に1つまたは複数の値を指定することができます。情報がデータベース出力ファイルに記憶される場合には、1つしか値を指定することができません。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定されたファイルに適用できるすべてのタイプの情報が表示または印刷されます。

注: OUTFILEパラメーターにファイル名が指定された場合には、*ALLを指定することはできません。

***BASATR**

すべてのファイルに共通のファイル・レベルの属性情報が表示されます。

***ATR** 指定されたファイルについての意味のある属性情報が提示されます。

***ACCPH**

物理ファイルおよび論理ファイルのアクセス・パスが提示されます。キー付アクセス・パスの場合には、複合キー記述も示されます。

***MBRLIST**

指定されたファイルのすべてのファイル・メンバーのアルファベット順リストおよび簡単な説明が提供されます。

*SELECT

論理ファイルの選択／除外属性が提示されます。

*SEQ 物理ファイルおよび論理ファイルの照合順序が提示されます。

*RCDFMT

指定されたファイルのレコード様式名およびレコード様式レベル情報が提供されます。

*MBR 物理ファイルおよび論理ファイルの中のファイル・メンバーに関する情報が提供されます。

*SPOOL

指定されたディスクまたは印刷装置ファイルのスプーリング属性が提示されます。

*JOIN 結合論理ファイルについて、結合元ファイル、結合先ファイル、および結合に含まれているフィールドが提示されます。

*TRG 物理ファイルの場合にだけ、トリガー・プログラムの数、トリガー・プログラム名とライブラリー、およびトリガーを持つ各ファイルのトリガー事象、トリガー時刻、およびトリガー更新条件が提供されます。正しい出力ファイル様式はシステム・ファイルQAFDTRGからのQWHFDTRGです。

*CST 物理ファイルの場合にだけ、ファイルと関連した制約関係についての情報が提供されます。正しい出力ファイル様式はシステム・ファイルQAFDCSTからのQWHFDCSTです。

*NODGRP

分散物理ファイルの場合にだけ、ファイルの作成時にノード・グループ(*NODGRP) からコピーされたデータ区分およびリレーショナル・データベース情報が提供されます。正しい出力ファイル様式はシステム・ファイルQAFDNGPからのQWHFDNGPです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

*
- 出力は表示されるか (対話式ジョブで要求された場合)、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブで要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

ファイル属性 (FILEATR)

属性が表示されるファイルのタイプを指定します。リモート・ファイルの場合には、指定できるパラメーターは*PF、*LF,または*ALLだけです。

考えられる値は、次の通りです。

*ALL すべてのファイルの属性が提示されます。ただし、出力プロンプト (OUTPUTパラメーター) に*OUTFILEを指定し、情報のタイププロンプト (TYPEパラメーター) に*ATRを指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。

- *DSPF** 表示装置ファイルの属性が提示されます。
- *PRTF** 印刷装置ファイルの属性が提示されます。
- *DKTF** ディスケット・ファイルの属性が提示されます。
- *TAPF** テープ・ファイルの属性が提示されます。
- *CMNF** 通信ファイルの属性が提示されます。
- *BSCF** BSCファイルの属性が提示されます。
- *MXDF** 混合ファイルの属性が提示されます。
- *PF** 物理ファイルの属性が提示されます。
- *LF** 論理ファイルの属性が提示されます。
- *ICFF** ICFファイルの属性が提示されます。
- *SAVF** 保管ファイルの属性が提示されます。
- *DDMF** 分散データ管理機能(DDM)ファイルの属性が提供されます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリー内にデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新しいファイルが作成される場合には、システムは、情報のタイププロンプト (TYPEパラメーター) およびファイル属性プロンプト (FILATRパラメーター) で指定された値に基づいて、次の様式名の1つを持つQSYS中の次の出力ファイルの1つをモデルとして使用します。OUTFILE形式の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報を参照してください

コマンド・パラメーター タイプ	ファイル属性	作成される出力ファイル 出力ファイル	様式
*BASATR	注1	QAFDBASI	QWHFDBAS
*ATR	*BSCF	QAFDBSC	QWHFDBSC
*ATR	*CMNF	QAFDCMN	QWHFDCMN
*ATR	*DSPF	QAFDDSP	QWHFDDSP
*ATR	*PRTF	QAFDPRT	QWHFDPRT
*ATR	*DKTF	QAFDDKT	QWHFDDKT
*ATR	*TAPF	QAFDTAP	QWHFDTAP
*ATR	*PF	QAFDPHY	QWHFDPHY
*ATR	*LF	QAFDLGL	QWHFDLGL
*ATR	*ICFF	QAFDICF	QWHFDICF
*ATR	*SAVF	QAFDSAV	QWHFDSAV
*ATR	*DDMF	QAFDDDM	QWHFDDDM
*ACCPH	注2	QAFDACP	QWHFDACP
*SELECT	注3	QAFDSELO	QWHFDSELO
*SEQ	注2	QAFDCSEQ	QWHFDSEQ
*MBR	注2	QAFDMBR	QWHFDMBR
*SPOOL	注4	QAFDSPOL	QWHFDSPL
*RCDFMT	注1	QAFDRFMT	QWHFDFMT
*MBRLIST	注2	QAFDMBRL	QWHFDML
*JOIN	注5	QAFDJOIN	QWHFDJN

注: FILEATRパラメーターを指定しなければならないのは、TYPE(*ATR)を使用する時だけです。該当要求と一致するファイル・タイプを要求する限り、省略時の値FILEATR(*ALL)は他のTYPE値のどれでも有効です。

- FILEATRパラメーターには1つまたは複数の項目を指定することができます。
- 物理および論理ファイルの場合のみ。
- 論理ファイルの場合のみ。
- 装置ファイルの場合のみ。
- 結合論理ファイルの場合のみ。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

システム (SYSTEM)

戻される情報がローカル・システムのファイルについてのものであるか、あるいはリモート・システムのファイルについてのものであるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LCL** ローカル・ファイルについての情報だけが戻されます。

***RMT** リモート・ファイルについての情報だけが戻されます。

***ALL** ローカルおよびリモート・ファイルの両方についての情報が戻されます。

[トップ](#)

DSPFDの例

例1:ファイルの定義の表示

```
DSPFD FILE(*ALL/FILE1)
```

このコマンドは、ローカル・システムのユーザーに許可されたすべてのライブラリー内で定義された通りにFILE1の定義を表示します。情報は、このコマンドを実行中のワークステーションで表示されます。

例2:ローカルDDMファイルの属性の表示

```
DSPFD FILE(LIBRARY1/FILE1)
```

このコマンドは、LIBRARY1に定義された通りにFILE1の定義を表示します。FILE1が分散データ管理機能 (DDM)ファイルである場合には、ローカルDDMファイルの属性のみがこのコマンドを実行中のワークステーションで表示されます。

例3:すべてのファイルの定義の表示

```
DSPFD FILE(*ALL/*ALL) TYPE(*ALL) SYSTEM(*ALL)
```

このコマンドは、ローカル・システムとすべてのリモート・システムの両方でユーザーに許可されたすべてのライブラリー内のすべてのファイルの定義を表示します。DDMファイルの場合に、画面には最初にローカルDDMファイルに関する情報と、使用可能であれば、そのCRTDDMFコマンドのRMTFILEパラメーターに名前が指定されたりリモート・ファイルに関する情報が表示されます。情報は、このコマンドを実行中のワークステーションで表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPFD

*ESCAPE メッセージ

CPF3011

ライブラリー&2のファイル&1のTYPEが見つからない。

CPF3012

ライブラリー&2のファイル&1が見つからない。

CPF3014

&2の&1として指定されたファイルを表示することができない。

CPF3020

&2の&1のファイルにFILEATRが指定されていない。

CPF3021

SYSTEM(*RMT)でファイル&1を使用することはできない。

CPF3022

&2のファイル&1にSYSTEM(*RMT)を使用することはできない。

CPF3030

&2のファイル&1のメンバー&4に&3個のレコードが追加された。

CPF3061

出力ファイル&1のレコード様式&3が見つからない。

CPF3064

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3067

&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF3068

&2のファイル&1への書き出し中にエラー。

CPF3069

&2のファイル&1のクローズ中にエラー。

CPF3070

ファイル&1のメンバー&3の作成中にエラー。

CPF3072

&2のファイル&1はシステム・ファイルである。

CPF3074

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF3075

ライブラリー&1が使用できない。

CPF3076

画面上でエラーが起こった。

CPF3077

表示を取り消そうとした時にエラーが起こった。

CPF3084

ファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。

CPF326B

ライブラリー&2のファイル&1に損傷がある。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9852

ページ・サイズが&2のファイル&1には小さすぎる。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ファイル・フィールド記述表示 (DSPFFD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル・フィールド記述表示(DSPFFD)コマンドは、特定のライブラリーまたはユーザーがアクセス権限を持つすべてのライブラリー中の1つまたは複数のファイルのフィールド・レベル情報を表示、印刷、またはデータベース・ファイルに出力します。

情報をデータベース・ファイルに出力すると、そのデータベース・ファイルはQWHDRFFDという名前のレコード様式を持ちます。レコード様式QWHDRFFDのフィールドは、ライブラリーQSYSのファイルQADSPFFDにあるIBM提供様式QWHDRFFDのフィールドと同じです。データベース・ファイルには、次の情報が入ります。

- コマンドで指定された各ファイルごとに、データベース・レコードに次の項目が入ります。
 - ファイルの名前、ファイルが入っているライブラリーの名前、ファイル・タイプ、およびファイル・メンバー
 - ファイル作成日およびファイル中のレコード様式の数
 - ファイルによって使用されるレコード様式の名前、様式レベル識別コード、様式テキスト記述、様式レコード長、および様式中のフィールドの数
 - 情報検索の日付および時刻
- このレコードには、レコード様式中の各フィールドについて、次の情報も（適用される場合）入ります。
 - フィールド名および外部フィールド名
 - フィールドのタイプおよび長さ
 - 他のフィールドを参照しているフィールドについては、参照ファイル、レコード様式、およびフィールドの名前（参照フィールドの属性が変更された場合には、属性タイプが入ります）
 - フィールドと関連した編集コード、編集語、および欄見出し
 - そのフィールドに対して妥当性検査を実行するかどうかを示すシグナル
 - 妥当性検査メッセージ識別コード、メッセージ・ファイル、およびライブラリー
 - フィールドの使用状況

OUTFILEを作成するには、ユーザーは物理ファイル作成(CRTPF)コマンドに対するオブジェクト操作権とライブラリーに対する追加権を持っていないければなりません。既存のOUTFILEを使用するには、ユーザーはファイルに対するオブジェクト操作権および追加権を持っていないければなりません。また、OUTMBRパラメーターで*REPLACEを指定する場合には、ユーザーはオブジェクト管理権および削除権も持っていません。

制約事項:

1. 指定された各ファイルのオブジェクト操作権を持っていないければ、ユーザーはそのファイルを表示することはできません。
2. また、ライブラリー修飾子によって指定されたライブラリーについては、ユーザーが読み取り権限を持っているライブラリーだけが検索されます。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT, *ALL	オプション

ファイル (FILE)

ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

ファイル名として指定できる値は次の通りです。

ファイル名

ファイルのフルネームを指定してください。指定したファイルの情報だけが戻されます。

総称 * ファイル名

総称名を指定してください。指定された文字で始まる名前のすべてのファイルの情報が提供されます。

***ALL** 1つまたは複数のライブラリーの中のすべてのファイルの情報が表示されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX QRCLXXXX QUSRIJS QUSRVXRXXM
QGGL QSRVAGT QUSRINFSKR
QGGL38 QSYS2 QUSRNOTES
QMGTC QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2 QS36F QUSRPOSGS
QMPGDATA QUSER38 QUSRPOSSA
QMOMDATA QUSRADSM QUSRPYMSVR
QMOMPROC QUSRBRM QUSRRDARS
QPFRDATA QUSRDIRCL QUSRSYS
QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイルプロンプト（OUTFILEパラメーター）に指定されたデータベース出力ファイルに送られます。

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース出力ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルが存在していない場合には、このコマンドは、指定したライブラリーの中にデータベース出力ファイルを作成します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行項目が存在していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

注: 出力ファイル形式は、システム・ファイルQADSPFFDのQWHDRFFDと同じでなければなりません。出力ファイル形式の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「データベース」情報の資料を参照してください。

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*FIRST

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。そのファイルにメンバーが存在しない場合には、システムは、**出力を受け取るファイル**プロンプト (OUTFILEパラメーター) に指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。この名前のメンバーが存在していない場合には、システムが作成します。

情報の保管方法について指定できる値は次の通りです。

*REPLACE

指定されたファイル・メンバー中の既存のレコードが出力データで置き換えられます。

***ADD** 指定されたファイル・メンバー中の既存のレコードの終わりに、出力データが追加されます。

システム (SYSTEM)

戻される情報がローカル・システムのファイルについてのものであるか、あるいはリモート・システムのファイルについてのものであるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LCL** ローカル・ファイルについての情報だけが戻されます。

***RMT** リモート・ファイルについての情報だけが戻されます。

***ALL** ローカルおよびリモート・ファイルの両方についての情報が戻されます。

[トップ](#)

DSPFFDの例

例1:ローカル・システム上のファイルに関する情報の表示

```
DSPFFD FILE(LIB1/FILE2)
```

このコマンドは、ローカル・システム上のLIB1のファイルFILE2に関するフィールド・レベル情報を表示します。情報は、このコマンドが入力されたワークステーションで表示されます。

例2:ローカルおよびリモート・システム上のファイルに関する情報の表示

```
DSPFFD FILE(*ALL/*ALL) SYSTEM(*ALL)
```

このコマンドは、ローカル・システムおよびすべてのリモート・システム上の、ユーザーに許可されたすべてのライブラリーのすべてのファイルのフィールド・レベル情報を表示します。分散データ管理機能ファイルの場合には、画面にはCRTDDMFコマンドのRMFILEパラメーターに名前が指定されたリモート・ファイルに関する情報のみが表示されます。情報は、このコマンドが入力されたワークステーションで表示されます。

例3:データベース・ファイルへの出力の送信

```
DSPFFD FILE(QGPL/FLDREF) OUTPUT(*OUTFILE)
        OUTFILE(QGPL/FLDREFX)
```

このコマンドは、ローカル・システム上のQGPLライブラリーのファイルFLDREFに関するフィールド・レベル情報を、汎用ライブラリーQGPLのFLDREFXという名前のデータベース・ファイルに書き込みます。次に、QGPLライブラリーのこのFLDREFXファイルをプログラムによって処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPFFD

***ESCAPE** メッセージ

CPF3012

ライブラリー&2のファイル&1が見つからない。

CPF3014

&2の&1として指定されたファイルを表示することができない。

CPF3024

SYSTEM(&3)の場合にファイル&1を使用することはできない。

CPF3052

ファイル&1の記述が使用できない。

CPF3061

出力ファイル&1のレコード様式&3が見つからない。

CPF3063

&2の出力ファイル&1は物理ファイルではない。

CPF3064

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3066

&2の出力ファイル&1の作成中にエラー。

CPF3067

&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF3068

&2のファイル&1への書き出し中にエラー。

CPF3069

&2のファイル&1のクローズ中にエラー。

CPF3070

ファイル&1のメンバー&3の作成中にエラー。

CPF3072

&2のファイル&1はシステム・ファイルである。

CPF3074

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF3075

ライブラリー&1が使用できない。

CPF3076

画面上でエラーが起こった。

CPF3077

表示を取り消そうとした時にエラーが起こった。

CPF3084

ファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。

CPF326B

ライブラリー&2のファイル&1に損傷がある。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9852

ページ・サイズが&2のファイル&1には小さすぎる。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

フォント資源属性の表示 (DSPFNTRSCA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント資源属性表示(DSPFNTRSCA)コマンドは、指定されたフォント資源について次のものを表示します。

- オブジェクトの属性
- フォント文字セットの画素密度
- フォント資源の記述テキスト

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FNTRSC	フォント資源	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フォント資源	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	* - *PRINT	オプション

[トップ](#)

フォント資源 (FNTRSC)

属性が表示されるフォント資源の修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

フォント資源を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

フォント資源が入っているライブラリーの名前を指定してください。

フォント資源名

属性が表示されるフォント資源の名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPFNTRSCAの例

DSPFNTRSCA FNTRSC(SHALIMAR/X0A0557C)

このコマンドは、ライブラリーSHALIMARのフォント資源X0A0557Cと関連した属性を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPFNTRSCA

*ESCAPEメッセージ

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

[トップ](#)

フォント・テーブルの表示 (DSPFNNTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント・テーブルの表示(DSPFNNTBL)コマンドは、フォント・テーブルを表示します。フォント・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、印刷サービス機能(PSF)機能が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FNNTBL	フォント・テーブル	単一値: *PHFCS, *HPFCS, *PHCP, *HPCP, *SYSPHFCS, *SYSHPFCS, *SYSPHCP, *SYSHPCP その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フォント・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT 、	オプション, 定位置 2

トップ

フォント・テーブル (FNNTBL)

表示するフォント・テーブルを指定します。

単一値

*PHFCS

印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのテーブルが表示されます。

*PHCP

印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが表示されます。

*HPFCS

ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのテーブルが表示されます。

*HPCP

ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが表示されます。

*SYSPHFC

システム印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのテーブルが表示されます。システム・フォント文字セット・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

*SYSPHCP

システム印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが表示されます。システム・コード・ページ・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

*SYSHPFCS

システム・ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのテーブルが表示されます。システム・フォント文字セット・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

*SYSHPCP

システム・ホスト常駐から印刷装置常駐へのコード・ページ・マッピング・テーブルが表示されます。システム・コード・ページ・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

修飾子1: フォント・テーブル

名前 表示される印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルの名前を指定します。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルを表示する場合には、フォント・テーブルの名前を指定しなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

フォント・テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フォント・テーブルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は表示（対話式ジョブで要求された場合）またはジョブのスプール出力で印刷（バッチ・ジョブで要求された場合）されます。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPFNNTBLの例

DSPFNNTBL FNTTBL(*PHFCS)
OUTPUT(*)

このコマンドは、印刷装置常駐からホスト常駐へのフォント文字セット・テーブルを表示します。このテーブルはQPHFCSと名前が付けられ、ライブラリーQUSRSYS中になければなりません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPFNNTBL

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

ハードウェア資源の表示 (DSPHDWRSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

各種タイプのシステム資源管理(SRM)情報を表示したり、印刷したり、あるいは出力ファイルに保管するためには、ハードウェア資源表示(DSPHDWRSC)コマンドを使用します。

制約事項: このコマンドを実行する前に、LANアダプター処理(WRKLANADPT)コマンドを実行しなければなりません。そうでない場合には、表示する情報はありません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*AHW, *CMN, *CRP, *CSA, *LAN, *LWS, *PRC, *STG	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション, 定位置 4
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
OUTFILFMT	出力ファイル形式	*TYPE1, *TYPE2	オプション, 定位置 5
LINETYPE	回線タイプ	*ALL, *DDI, *TRN	オプション, 定位置 6

トップ

タイプ (TYPE)

表示したり、印刷したり、または出力ファイルに書き出す情報のタイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***AHW** すべてのハードウェア資源レコードの結合された内容を表示、印刷、または出力ファイルに向けます。これには、すべての*CMN, *CRP, *CSA, *LWS, *PRC, および*STG レコードが含まれます。

***CMN** 通信資源情報を表示したり、印刷したり、あるいは出力ファイルに書き出します。この情報は、資源名、資源タイプ、製造番号、位置、状況、アドレス、構成記述、および資源記述から成ります。

- ***CRP** 暗号資源情報を表示、印刷、または出力ファイルに書き出します。この情報は、資源名、資源タイプ、製造番号、位置、状況、アドレス、構成記述、および資源記述から成ります。
- ***CSA** 結合されたアダプター資源についての情報を表示または印刷し、あるいは出力ファイルに送ります。この情報は、資源の名前、型式、状況、位置、資源の記述、およびアダプターが接続されているシステムから構成されます。
- ***LAN** トークンリングまたは分散データ・インターフェース・アダプター資源情報を表示または印刷するか、あるいは出力ファイルに向けます。この情報は、LAN制御装置アダプター・アドレス、アダプター名、回線タイプ、およびアダプター記述から構成されています。
- ***LWS** ローカル・ワークステーション資源情報を表示したり、印刷したり、あるいは出力ファイルに書き出します。この情報は、資源名、資源タイプ、製造番号、位置、状況、アドレス、構成記述、および資源記述から成ります。
- ***PRC** プロセッサ資源情報を表示したり、印刷したり、あるいは出力ファイルに書き出します。この情報は、資源名、資源タイプ、製造番号、位置、状況、および資源記述から構成されています。
- ***STG** 記憶装置資源情報を表示したり、印刷したり、あるいは出力ファイルに書き出します。この情報は、資源名、資源タイプ、製造番号、位置、状況、アドレス、構成記述、および資源記述から成ります。

これは必須パラメーターです。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

- * - 対話式ジョブによって要求された出力が画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

要求したデータが、出力データベース・ファイルに記憶されます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

要求したシステム資源管理(SRM)データを記憶するために使用される出力ファイルの名前およびライブラリーを指定します。1つの出力ファイルにつき、次の資源情報タイプの1つだけを記憶することができます：

*CMN, *CRP, *CSA, *LWS, *PRC, *STG, または*LAN。出力ファイルが存在していない場合に、このコマンドは、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルを作成した場合には、システムは、**タイププロンプト** (TYPEパラメーター) に指定されている値に応じて、次の1つの形式名をもつ次のファイル名の1つを、モデルとして使用します。

TYPEパラメーター 値	作成される出力ファイル 出力ファイル	形式
*CMN	QARZDCMN	QRZDCMN
*CRP	QARZDCRP	QRZDCRP
*CSA	QARZDCSA	QRZDCSA
*LWS	QARZDLWS	QRZDLWS
*PRC	QARZDPRC	QRZDPRC
*STG	QARZDSTG	QRZDSTG
*LAN	QARZDTRA	QRZDTRA

このパラメーターを使用できるのは、出力プロンプト（OUTPUTパラメーター）に*OUTFILEが指定されている場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

出力ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

ファイル名

要求した情報を記憶するファイル名を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***FIRST**

要求したSRMデータは最初のメンバーに記憶されます。

メンバー名

要求したSRMデータを記憶するために使用するメンバー名を指定してください。有効な値は1 - 10文字の範囲です。

使用できる任意指定の値は次の通りです。

***REPLACE**

メンバーが存在している場合には、古い情報が消去されて、新しい情報が追加されます。

***ADD** メンバーが存在している場合には、既存の情報の終りに新しい情報が追加されます。

トップ

出力ファイル形式 (OUTFILFMT)

出力ファイルの形式設定に使用される物理ファイルのモデルを指定します。

注: TYPE(*LAN)が指定されていた場合には、このパラメーターは使用されません。

考えられる値は、次の通りです。

*TYPE1

出力ファイルの形式は、物理ファイル・モデルQARZDCMN, QARZDCRP, QARZDCSA, QARZDLWS, QARZDPRC,およびQARZDSTGの形式と同じです。

*TYPE2

出力ファイルの形式は、物理ファイル・モデルQARZALLFおよびその関連レコード様式モデルQRZALLの形式と同じです。この値は、V3R6M0より前のリリースのDSPLCLHDWコマンドによって使用される物理ファイルQARZHWOFFと機能的には等価です。

[トップ](#)

回線タイプ (LINETYPE)

情報を表示、印刷、または出力ファイルに出力するためのローカル・エリア・ネットワーク(LAN)タイプ。

TYPE(*LAN)が指定された場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 分散データ・インターフェースおよびトークンリング・ネットワーク・アダプターの両方の資源情報が表示、印刷、または出力ファイルに出力されます。

***DDI** すべての分散データ・インターフェース・アダプター資源情報が表示、印刷、または出力ファイルに出力されます。

***TRN** すべてのトークンリング・ネットワーク・アダプター資源情報が表示、印刷、または出力ファイルに出力されます。

[トップ](#)

DSPHDWRSCの例

```
DSPHDWRSC TYPE(*STG)
          OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(STG) OUTFILFMT(*TYPE2)
```

このコマンドは、記憶域資源のSRM情報を出力ファイルSTGに入れますが、これは物理ファイル・モデルQARZALLFと同じようにフォーマット設定されます。出力ファイルSTGがライブラリー・リストにあると、その最初のメンバーのレコードは新しいレコードで置き換えられます。出力ファイルSTGがライブラリー・リストにない場合には、最初のメンバーSTGで現行ライブラリー中に作成されます。このメンバーには、新しいレコードが入ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPHDWRSC

*ESCAPE メッセージ

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

階層ファイル・システムの表示 (DSPHFS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

階層ファイル・システム表示(DSPHFS)コマンドは、登録済みファイル・システムのリストを表示します。このリストの情報には、ファイル・システムの名前とレベル、および登録時にファイル・システムによって提供される50文字の記述があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのspool出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

* 出力は表示されます。

_

***PRINT**

出力はジョブのspool出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPHFSの例

例1:履歴ファイル・システム情報の表示

```
DSPHFS OUTPUT(*)
```

このコマンドは、出力を画面に送信します。

例2:履歴ファイル・システム情報の印刷

```
DSPHFS OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、出力を印刷装置ファイルに送信します。

エラー・メッセージ： DSPHFS

*ESCAPEメッセージ

CPF1F66

必要な記憶域がユーザー・プロファイル&1の最大限度を超えている。

CPF1F81

API特有のエラーが起こった。

DBCS変換辞書表示 (DSPIGCDCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DBCS変換辞書表示(DSPIGCDCT)コマンドによって、指定された2バイト文字セット(DBCS)変換辞書の英数字項目およびこれらに関連したDBCSの語句が表示または印刷されます。システムはDBCS変換の実行時に、DBCS変換辞書を参照します。

注: 中国語および韓国語の2バイト文字セットの場合には、DBCS変換機能の使用はお奨めできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IGCDCT	DBCS変換辞書	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DBCS変換辞書	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ENTRY	辞書項目	X'40'-X'FE', *ALL	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

DBCS変換辞書 (IGCDCT)

表示または印刷される2バイト文字セット(DBCS)変換辞書および辞書が保管されているライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、ライブラリー・リストの検索時に最初に見つかった辞書が表示されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

辞書を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

辞書が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

辞書項目 (ENTRY)

関連した2バイト文字セット(DBCS)の語句と一緒に表示または印刷される英数字項目を指定します。

***ALL** システムは、すべての辞書項目および関連したDBCS語を表示または印刷します。

総称*ストリング

1つまたは複数の文字の文字ストリングとそれに続くアスタリスク(*)を指定してください。システムは、指定されたストリングおよび関連したDBCS語で始まるすべての辞書項目を表示または印刷します。アスタリスクを付けない場合には、システムは特定の項目を表示または印刷します。

ストリングは、12文字より長くすることはできません。

特定ストリング

文字ストリングを指定してください。システムは、指定された英数字項目およびそれに関連したDBCSの語句を表示または印刷します。ストリングは、12文字より長くすることはできません。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

DSPIGCDCTの例

例1:項目の表示

```
DSPIGCDCT  IGCDC(DBCSLIB/QUSRIGCDCT) OUTPUT(*)
```

このコマンドは、ライブラリーDBCSLIBに保管されているQUSRIGCDCTという名前のDBCS変換辞書のすべての項目をワークステーションに表示します。

例2:項目の印刷

```
DSPIGCDCT  IGCDC(DBCSLIB/QUSRIGCDCT) ENTRY('?')  
           OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ライブラリーDBCSLIB中に保管されているQUSRIGCDCTという名前のDBCS変換辞書から項目?およびその関連ワードを印刷します。

トップ

エラー・メッセージ： DSPIGCDCT

*ESCAPEメッセージ

CPF8138

&9のDBCS変換辞書&4に&8の損傷がある。

CPF8433

&2のファイル&1の用紙の長さが5行より小さい。

CPF8451

入力値&1が正しくない。

CPF8455

ワークステーションがDBCS装置でない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

[トップ](#)

IPL属性の表示 (DSPIPLA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IPL属性の表示 (DSPIPLA)コマンドによって、次回の初期プログラム・ロード(IPL)時に使用される属性の設定値を表示することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	* *, *PRINT	オプション

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPIPLAの例

```
DSPIPLA OUTPUT(*)
```

このコマンドは、IPL属性情報を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPIPLA

*ESCAPE メッセージ

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

IPX記述表示 (DSPIPXD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IPX記述表示(DSPIPXD)コマンドはIPX記述を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IPXD	IPX記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	* -, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

IPX記述 (IPXD)

表示されるIPX記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのスパール出力で印刷されるかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPIPXDの例

DSPIPXD IPXD(IPXDESC)

このコマンドは、IPXDESCという名前のIPX記述についての情報を表示します。情報は、コマンドが入力されたワークステーションに表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから投入された場合には、コマンドからの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPIPXD

*ESCAPEメッセージ

CPD8FCF

IPX記述&1が見つからない。

CPF26C5

IPX記述&1は前に削除された。

[トップ](#)

ジョブ表示 (DSPJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ表示 (DSPJOB)コマンドは、指定されたジョブについて次のいずれかの情報を表示します。

- ジョブ状況属性
- ジョブ定義属性
- ジョブ実行属性
- スプール・ファイル情報
- ジョブ・ログ情報
- 呼び出しスタック情報
- ジョブ・ロック情報
- ライブラリー・リスト情報
- オープン・ファイル情報
- ファイル一時変更情報
- コミットメント制御状況
- 通信状況
- 活動化グループ情報
- 相互除外情報
- スレッド情報
- 媒体ライブラリー属性情報

ジョブがジョブ待ち行列上にあっても、出力待ち行列にあっても、あるいはシステムで活動状態であっても、情報を表示することができます。しかし、ジョブは、すべての入力が完全に読み込まれるまで、システムにあるとは見なされないことに注意してください。すべての入力が読み込まれて、はじめて項目がジョブ待ち行列に置かれます。

制約事項:

1. コマンド発行側は、表示しているジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルのもとで実行しなければなりません。あるいはコマンド発行側は、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限を持つユーザー・プロファイルのもとで実行しなければなりません。

ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。ジョブ・ユーザー識別の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「実行管理機能」情報にあります。

2. このコマンドの実行時にジョブが保留中である場合には、ジョブに関する活動化グループ情報を表示できません。
3. OPTION(*FILOVR)またはOPTION(*ALL)が指定されている場合には、このコマンドは複数のスレッドを使用できるジョブでは失敗します。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*SELECT , *STSA, *DFNA, *RUNA, *SPLF, *JOBLOG, *PGMSTK, *JOBLOCK, *LIBL, *OPNF, *FILOVR, *CMTCTL, *CMNSTS, *ACTGRP, *MUTEX, *THREAD, *MLBA, *ALL	オプション
DUPJOBPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT , *MSG	オプション

ジョブ名 (JOB)

情報が表示されるジョブの名前を指定します。

単一値

*
_ 情報が表示されるジョブは、この表示コマンドが実行されたジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 表示されるジョブの名前を指定してください。ジョブ修飾子を指定しない場合には、現在システムにあるすべてのジョブから単純ジョブ名が検索されます。指定された名前と重複するものが見つかった場合には、すべての重複を示す修飾ジョブ名の入ったメッセージのリストが表示されます。

修飾子2: ユーザー

名前 ジョブの実行に使用されるユーザー・プロファイルを識別する名前を指定してください。

修飾子3: 番号

000000-999999

システムによって割り当てられたジョブ番号を指定してください。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

オプション (OPTION)

表示される情報を指定します。

***SELECT**

メニューが表示され、すべてのオプションおよび機能キーを使用することができます。

***STSA**

ジョブの識別特性および状況が表示されます。

***DFNA**

ジョブに関連するジョブ記述中の定義属性が表示されます。

***RUNA**

ジョブの実行属性が表示されます。

***SPLF** ジョブによって所有されるスパール・ファイルが表示されます。このコマンドを出したスレッドのライブラリー名スペースの出力待ち行列上にあるスパール出力ファイルのみが表示されます。

***JOBLOG**

ジョブによって処理されたコマンドおよびそのコマンドの実行から戻されたメッセージが表示されます。

***PGMSTK**

呼び出しスタック中のすべてのプログラムのすべての情報が表示されます。

***JOBLOCK**

保留ロックおよび待機中のロックを含め、ジョブによって保留されたすべての外部オブジェクト・ロックが表示されます。

***LIBL** ジョブ名 (JOB)パラメーターに指定されたジョブが、コマンドの実行されたジョブである場合には、スレッドのライブラリー・リストが表示されます。その他のジョブの場合には、初期スレッドのライブラリー・リストが表示されます。

***OPNF**

ジョブでオープン状態のファイル、およびシステム・ファイルとユーザー・ファイルの状況が表示されます。

***FILOVR**

ジョブの活動中の呼び出しレベルにおけるファイル一時変更が表示されます。

***CMTCTL**

ジョブのコミットメント制御状況が表示されます。

***CMNSTS**

ジョブの通信状況が表示されます。

***ACTGRP**

ジョブと対応する活動化グループが表示されます。

***MUTEX**

ジョブの初期スレッドと関連した相互除外情報が表示されます。

***THREAD**

ジョブのスレッドについての情報が表示されます。

***MLBA**

ジョブの媒体ライブラリー属性に関する情報が表示されます。

***ALL** すべてのオプションが表示されます。

[トップ](#)

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

***MSG** 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

[トップ](#)

DSPJOBの例

例1:スプール出力の印刷

```
DSPJOB JOB(SMITH/PAYROLL) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、SMITHという名前のユーザーによって投入されたPAYROLLという名前のジョブに関する情報を、印刷のためにジョブの出力スプーリング待ち行列に送ります。

例2:ジョブのスプール出力の表示

```
DSPJOB OPTION(*SPLF)
```

このコマンドは、現行ジョブのスプール出力を表示します。

例3:ジョブのすべての情報の表示

```
DSPJOB OPTION(*ALL)
```

このコマンドは、現行ジョブに関するすべての情報を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPJOB

***ESCAPE** メッセージ**CPF0941**

ジョブ&3/&2/&1はもはやシステムにない。

CPF1069

重複名の終わり。

CPF1070

ジョブ&3/&2/&1が見つからない。

CPF1071

ジョブ&3/&2/&1に対する権限がない。

CPF2443

ジョブが終了したため、ジョブ・ログは表示またはリストされなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3336

ジョブ&5/&4/&3はすでにシステムにはない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ジョブ記述表示 (DSPJOBBD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ記述表示 (DSPJOBBD)コマンドは、指定されたジョブ記述の内容を表示します。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - ジョブ記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および読み取り(*READ)権限と、そのジョブ記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBBD	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

トップ

ジョブ記述 (JOBBD)

表示するジョブ記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ記述

名前 表示するジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーを指定します。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPJOBBDの例

DSPJOBBD JOBD(MYLIB/SPECIAL)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBに保管されているSPECIALという名前のジョブ記述を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPJOBBD

*ESCAPE メッセージ

CPF1618

ライブラリー&2のジョブ記述&1に損傷がある。

CPF1623

ジョブ記述&1は表示されなかった。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・ログ表示(DSPJOBLOG)コマンドは、ジョブ・ログが書き出されていない時に、まだ活動状態のジョブに対して、コマンドおよび関連したメッセージを示します。また、このコマンドは、処理を開始していなかったジョブ待ち行列上のジョブに対するコマンドも示します。

このコマンドは、ジョブの進行をモニターするために使用されます。

注: この機能には、ジョブ表示(DSPJOB)およびジョブ処理(WRKJOB)コマンドを通じてアクセスすることもできます。

制約事項:

- ジョブ・ログを表示するには、ユーザーがジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限を持っているか、あるいはジョブがDSPJOBLOGコマンドを実行しているユーザーと同じユーザー名を持っていることが必要です。
- 全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っているジョブのジョブ・ログを表示するには、ユーザーが*ALLOBJ特殊権限を持っているか、あるいはISERIESナビゲーターの適用業務管理サポートによりOS/400の「全オブジェクト・ジョブ・ログ」機能が許可されていなければなりません。
QIBM_ACCESS_ALLOBJ_JOBLOGの機能IDを持つ機能使用法情報の変更(CHGFCNUSG)コマンドも、*ALLOBJ特殊権限を持つジョブのジョブ・ログを表示できるユーザーのリストを変更するために使用することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *APIDFN, *OUTFILE	オプション, 位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

ジョブ名 (JOB)

ジョブ・ログが示されるジョブの名前を指定します。

単一値

*
- ジョブ・ログが示されるジョブは、このコマンドが出されたジョブです。

その他の値

修飾ジョブ名

ジョブ・ログが示されるジョブを指定します。ジョブの修飾名を指定しない場合は、システムに現在あるすべてのジョブで単純ジョブ名が検索されます。指定された名前の重複が見つかった場合は、すべての重複名の修飾ジョブ名を含むメッセージのリストが示されます。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、ジョブのスプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルへ送るかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブで要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブで要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、OUTFILEパラメーターに指定されたデータベース・ファイルに送られます。このオプションを使用できるのは、JOBパラメーターが特殊値のアスタリスク(*)を指定している場合だけです。このオプションだけを使用すると、1次出力ファイルを作成することができます。

*APIDFN

出力は、前にQMHCTLJL APIを実行することによって準備されたデータベース・ファイルに送られます。*APIDFNは、JOB(*)も指定した場合にだけ指定することができます。OUTFILEおよびOUTMBRパラメーターは使用されません。

このAを使用すると、1次と2次の両方の出力ファイルを作成することができます。APIに指定したメッセージ・フィルターは、メッセージをデータベースに書き出す前にメッセージに適用されます。出力ファイルのデータベース形式(QMHPFT)は、弊社提供データベース・ファイルQAMHJLPRに指定された形式と同じです。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリー内にデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

DSPJOBLOGの例

DSPJOBLOG JOB(ANDERSON/PAYROLL) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、ユーザーANDERSONのためのジョブPAYROLLのジョブ・ログを作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPJOBLOG

*ESCAPEメッセージ

CPF0941

ジョブ&3/&2/&1はもはやシステムにない。

CPF1069

重複名の終わり。

CPF1070

ジョブ&3/&2/&1が見つからない。

CPF24DB

*APIDFNオプションの場合には、最初にQMHCTLJL APIを実行しなければならない。

CPF24D7

ジョブ・ログ作成用にライブラリー&2のファイル&1を使用することができない。

CPF24D8

ジョブ・ログ作成用にライブラリー&2のDDMファイル&1を使用することはできません。

CPF24E0

ジョブ・ログをライブラリー&2中のファイル&1に書き出している時に障害が起こった。

CPF2441

ジョブ・ログの表示は許可されていません。

CPF2443

ジョブが終了したため、ジョブ・ログは表示またはリストされなかった。

CPF2523

ジョブ・ログ情報がない。

CPF2532

ジョブ・メッセージ待ち行列に損傷がある。ジョブ・ログは終了しました。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ジョブ・テーブルの表示 (DSPJOBTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・テーブルの表示 (DSPJOBTL)コマンドは、このシステム上のすべてのジョブを追跡するためにオペレーティング・システムによって使用される内部システム・オブジェクトであるジョブ・テーブルに関する情報を表示します。この情報には、テーブルのサイズおよびテーブル内の種々のタイプの項目数が含まれます。これらのテーブル内の項目数は、各種のIPLステップとOS/400コマンドや、ジョブを処理するアプリケーション・プログラム・インターフェース(API)のパフォーマンスに影響する可能性があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*、*PRINT	オプション

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

DSPJOBTLの例

DSPJOBTL OUTPUT(*)

このコマンドは、ジョブ・テーブルに関する情報を表示します。

トップ

エラー・メッセージ: DSPJOBTL

*ESCAPE メッセージ

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ジャーナル表示 (DSPJRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドにより、ジャーナル項目（1つまたは複数のレシーバーの中に入っている）を外部表示に適した形式に変換することができます。このコマンドの出力は、ジョブのプール印刷装置出力で表示または印刷するか、あるいはデータベース出力ファイルに送ることができます。データベース出力ファイルが存在している場合には、指示されたファイル・メンバー中の現行データにレコードが置き換わるか、追加されます。データベース・ファイルが存在していない場合には、システムは指定されたデータベース・ファイルおよびメンバーを作成します。システムによって作成されたデータベース・ファイルは標準形式になっています。出力ファイルの指定された最大レコード長より長い項目がある場合には、警告メッセージが送信され、レコードは切り捨てられます。

ジャーナル・レシーバー中の選択された項目の内容を出力用に変換することができます。また、表示される項目を選択的に限定することもできます。選択基準または限定基準を満たすジャーナル項目がない場合には、そのことを知らせるエスケープ・メッセージが送られます。

変換された項目の順序番号の中にギャップが存在する場合があります。これは、一部のジャーナル項目が内部的なシステム情報を表すために起こります。これらの内部項目は、INCHIDENT(*YES)を指定することによって表示することができます。

指定されるレシーバーの連鎖の中でジャーナル順序番号がリセットされるジャーナル項目を表示することは可能です。

制約事項:

- データベース出力ファイルとして指定されたファイルを同じジャーナルに対してジャーナル処理することはできません。データベース出力ファイルのレコード様式の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「データベース」情報を参照してください。
- 指定されたレシーバーの範囲内で順序番号がリセットされる場合には、FROMENTLRG, FROMENT, TOENTLRG,またはTOENT（指定されている場合）の最初のオカレンスが使用されます。
- 指定されたレシーバー範囲内の1つまたは複数のジャーナル・レシーバーが、このデータを省略しているレシーバー・サイズ・オプション(RCVSIZOPT)または固定長データ・オプション(FIXLENDTA)が有効なジャーナルに接続されている場合には、選択基準の指定にJOB, PGM, およびUSRPRFパラメーターを使用することはできません。
- FILE, JRNCDE, ENTTYP, JOB, PGM, USRPRF, CCIDLRG, CMTCYCID,およびDEPENTパラメーターを使用して、ジャーナル項目の範囲内の使用可能なすべての項目のサブセットを指定することができます。
 - これらのパラメーターを使用して値を指定しない場合には、使用可能なすべてのジャーナル項目は出力用に変換されます。
 - これらのパラメーターの複数を指定する場合には、JRNCDEパラメーターに*IGNFILSLTが指定されている場合を除いて、ジャーナル項目はこれらのパラメーターに指定されたすべての値を満足させるものでなければなりません。

- JRNCDEパラメーターにジャーナル・コードが指定されていて、*IGNFILSLTがそのジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、指定したジャーナル・コードを持つジャーナル項目が選択されます（これらの項目がFILEパラメーターに指定されているものを除いたすべての選択基準に適合する場合）。
- オブジェクトの最大数(32767オブジェクト) を超えるオブジェクトが識別されている場合には、エラーが起こって項目は受け入れられません。*ALLFILEが指定されている場合には、この制限は無視されます。
- ジャーナル・キャッシュが使用されている場合には、キャッシュ内の項目を表示することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRN	ジャーナル	単一値: *INTSYSJRN その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FILE	ジャーナルされた物理ファイル	単一値: * ALLFILE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, * FIRST , *ALL	
RCVRNG	ジャーナル・レシーバーの範囲	単一値: * CURRENT , *CURCHAIN その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 開始ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 終了ジャーナル・レシーバー	単一値: * CURRENT その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 終了ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMENTLRG	大きい開始順序番号	文字値, * FIRST	オプション
FROMTIME	開始日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付	
	要素 2: 開始時刻	時刻	
TOENTLRG	大きい終了順序番号	文字値, * LAST	オプション
TOTIME	終了日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 終了日付	日付	
	要素 2: 終了時刻	時刻	
NBRENT	ジャーナル項目の数	整数, * ALL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
JRNCD E	ジャーナル・コード	単一値: *ALL , *CTL その他の値 (最大 17 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジャーナル・コード 値	A, B, C, D, E, F, J, L, M, O, P, Q, R, S, T, U	
	要素 2: ジャーナル・コード の選択	*ALLSLT , *IGNFILSLT	
ENTTYP	ジャーナル項目タイプ	単一値: *ALL , *RCD その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
JOB	ジョブ名	単一値: *ALL その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
PGM	プログラム	名前, *ALL	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, *ALL	オプション
CCIDLRG	大きいコミット・サイクルID	文字値, *ALL	オプション
DEPENT	従属項目	*ALL , *NONE	オプション
OUTFMT	出力形式	*CHAR , *HEX	オプション
JRNID	ジャーナル識別番号	文字値	オプション
OUTPUT	出力	* , *PRINT, *OUTFILE	オプション
INCHIDENT	隠れた項目の組み込み	*YES , *NO	オプション
OUTFILFMT	出力ファイル形式	*TYPE1 , *TYPE2, *TYPE3, *TYPE4, *TYPE5	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るフ ァイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメン バー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換え または追加	*REPLACE , *ADD	
ENTDTALEN	項目データの長さ	単一値: *OUTFILFMT , *CALC その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: フィールドのデータ 形式	整数, *VARLEN	
	要素 2: 可変長フィールドの 長さ	整数, *CALC	
	要素 3: 割り振られた長さ	整数, *FLDLEN	
NULLINDLEN	ヌル値標識の長さ	単一値: *OUTFILFMT , *CALC その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: フィールドのデータ 形式	1-8000, *VARLEN	
	要素 2: 可変長フィールドの 長さ	1-8000, *CALC	
	要素 3: 割り振られた長さ	1-8000, *FLDLEN	
INCENT	項目の組み込み	*ALL , *CONFIRMED	オプション
FROMENT	開始順序番号	1-9999999999, *FIRST	オプション
TOENT	終了順序番号	1-9999999999, *LAST	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CMTCYCID	コミット・サイクル識別コード	1-999999999, <u>*ALL</u>	オプション

トップ

ジャーナル (JRN)

変換および出力のために検索されるジャーナル項目が入っているジャーナルを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

*INTSYSJRN

JRNIDパラメーターで指定したジャーナルに関連したシステムの内部ジャーナルが使用されます。システムの内部ジャーナルはライブラリーには保管されません。

注: JRN(*INTSYSJRN)を指定する場合には、JRNIDに値を指定する必要があります。

注: JRN(*INTSYSJRN)を指定するためには、*ALLOBJ特殊権限が必要です。

修飾子 1: ジャーナル

ジャーナル名

ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ジャーナルされた物理ファイル (FILE)

ジャーナル項目が出力用に変換される最大300の修飾済みファイル名を指定します。このパラメーターは、ジャーナル項目が出力用に変換されるファイル・メンバーの名前も指定します。

指定されたファイル・メンバー名に基づいて、どのジャーナル項目を出力用に変換するかを判別するために、次が実行されます。

- ジャーナルがローカル・ジャーナルである場合、あるいは指定されたファイル・メンバーが現在システムに存在している場合には、ジャーナル識別コードは指定されたファイル・メンバーから判別されます。そのジャーナル識別コードについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて出力用に変換されます。

- ジャーナルがリモート・ジャーナルである場合、あるいは指定されたファイル・メンバーが現在システムに存在していない場合には、指定されたファイル・メンバーと対応している使用可能なジャーナル識別コードをすべて判別するために、指定されたレシーバーの範囲が検索されます。それらのジャーナル識別コードについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて出力用に変換されます。

たとえば、ファイル・メンバーが指定された名前で作成されて、ジャーナル処理されてから、削除された場合には、指定されたファイル・メンバーと対応したジャーナル識別コードが複数あることがあります。この場合、別のファイル・メンバーが同じ名前で作成されて、ジャーナル処理もされてから、削除されています。これらの処置のすべてが指定されたレシーバー範囲内で行われる必要があります。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には、ジャーナル識別コードはそのオブジェクトと対応した固有の識別コードです。このオブジェクトが名前変更、移動、または復元された場合であっても、ジャーナル識別コードは一定になっています。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。
2. このパラメーターにデータベース・ファイルを指定した時に、次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が出力用に変換されるのは、それらが他のパラメーターに指定された値を満たしている場合だけです。
 - ジャーナル・コードD (データベース・ファイル・レベル情報項目)。
 - ジャーナル・コードF (ファイル・メンバー・レベル情報項目)。
 - ジャーナル・コードR (レコード・レベルの情報項目)
 - ジャーナル・コードU (ユーザー生成の項目)
 - その他のジャーナル・コード (*IGNFILSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合)。
*ALLSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、そのコードを持つジャーナル項目は出力用に変換されません。

単一値

***ALLFILE**

受け取られるジャーナル項目の検索は、指定したファイル名に限定されません。

要素 1: ファイル

修飾子 1: ファイル

***ALL** ジャーナル処理された変更が現在ジャーナル・レシーバーに入っている、指定されたライブラリー (このライブラリー名が指定されている必要がある) 内のすべての物理ファイルのジャーナル項目が出力用に変換されます。*ALLが指定されていて、ユーザーがファイルのすべてに対して必要な権限を持っていない場合には、エラーが起これ、コマンドは終了します。

ファイル名

ジャーナル項目が出力用に変換される物理データベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

要素 2: メンバー

***FIRST**

ファイルにある最初のメンバーのジャーナル項目が出力用に変換されます。

***ALL** 現在ファイルに存在しているメンバーのジャーナル項目が出力用に変換されます。

名前 項目が出力用に変換されるファイル・メンバーの名前を指定してください。指定された物理ファイルがシステム上に存在しない場合には、*ALLまたは特定のファイル・メンバー名を指定してください。

ファイル名の値に*ALLを指定した場合には、このメンバー名がライブラリー中のすべての適用可能なファイルに対して使用されます。たとえば、*ALLが最初の要素上の特定のライブラリーによって修飾されていて、2番目の要素に*FIRSTが指定されている場合には、指定したライブラリーの中のすべての適用可能ファイルの最初のメンバーのジャーナル項目が出力用に変換されます。

トップ

ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)

出力用に変換しているジャーナル項目が入っている開始（最初）と終了（最後）のジャーナル・レシーバー（レシーバーの範囲）を指定します。システムは開始のジャーナル・レシーバー（最初の値で指定される）で開始し、終了レシーバー（最後の値で指定される）を処理するまで、そのレシーバー連鎖の終わりまで処理を続けます。

いかなる時でも2重レシーバーが使用された場合には、レシーバーを連鎖する時には、レシーバーの最初の方が使用されます。ジャーナル属性処理(WRKJRNA)コマンドを使用することにより、レシーバー連鎖におけるレシーバーの順序を表示することができます。変換を開始する前にレシーバー連鎖の中に問題（レシーバーが見つからないか損傷しているなど）が見つかった場合には、システムは2重レシーバーの2番目の方を使用します。2重レシーバーの2番目の方が損傷しているか見つからない場合には、コマンドは終了します。

注: この範囲内のレシーバーの最大数(2045)を超えた場合には、エラーが起これ、ジャーナル項目は変換されません。

単一値

***CURRENT**

ジャーナル項目の変換を開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

***CURCHAIN**

ジャーナル項目の変換の開始時点で接続されているジャーナル・レシーバーを含んでいるジャーナル・レシーバー連鎖が使用されます。このレシーバー連鎖は連鎖の切れ目を越えません。この連鎖

内に中断がある場合には、レシーバー範囲はその連鎖中の最新の中断から、ジャーナル項目の変換を開始した時に接続されたレシーバーまでとなります。

要素 1：開始ジャーナル・レシーバー

修飾子 1：開始ジャーナル・レシーバー

名前 項目が出力用に変換される最初のジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子 2：開始日付

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

要素 2：終了ジャーナル・レシーバー

単一値

***CURRENT**

ジャーナル項目の変換を開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

修飾子 1：終了ジャーナル・レシーバー

名前 項目が出力用に変換される最後のジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子 2：ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

トップ

大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)

外部表示用の変換対象とみなされる最初のジャーナル項目を指定します。

注: 開始順序番号 (FROMENT) パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG) パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*FIRST

指定したジャーナル・レシーバーの範囲の最初のジャーナル項目は、外部表示用の変換対象とみなされる最初の項目です。

開始順序番号

外部表示用の変換対象とみなされる最初のジャーナル項目の割り当て順序番号を指定します。可能な範囲は 1 から 18,446,744,073,709,551,600 です。

[トップ](#)

開始日および時刻 (FROMTIME)

外部表現用に変換される最初のジャーナル項目の日付および時刻を指定します。

要素 1: 開始日付

日付 開始日を指定してください。指定した開始日および時刻またはその後の最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、外部表現用に変換される項目の範囲の開始点となります。

要素 2: 開始時刻

開始時刻

開始時刻を指定してください。指定した開始日および時刻またはその後の最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、外部表現用に変換される項目の範囲の開始点となります。

時刻は、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します (ここで、**HH** =時間、**MM** =分、および**SS** =秒です)。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

[トップ](#)

大きい終了順序番号 (TOENTLRG)

外部表示用に変換される最後のジャーナル項目を指定します。

注: 終了順序番号 (TOENT) パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG) パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***LAST** 指定したジャーナル・レシーバーの範囲の最後のジャーナル項目が、外部表現用に変換される最終項目です。

終了順序番号

外部表示用に変換される最終ジャーナル項目の特定の順序番号を指定します。可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

[トップ](#)

終了日および時刻 (TOTIME)

外部表現用に変換される最後のジャーナル項目の作成日と時刻を指定します。

要素 1：終了日付

終了日 終了日を指定してください。指定した終了日の指定した終了時刻またはその前の最初のジャーナル項目の終了日および時刻が、外部表現用に変換される項目の範囲の終了点となります。

要素 2：終了時刻

終了時刻

終了時刻を指定してください。指定した終了日の指定した終了時刻またはその前の最初のジャーナル項目の終了日および時刻が、外部表現用に変換される項目の範囲の終了点となります。

時刻は、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します（ここで、**HH** =時間、**MM** =分、および**SS** =秒です）。

[トップ](#)

ジャーナル項目の数 (NBRENT)

出力用に変換されるジャーナル項目の合計数を指定します。

***ALL** 選択値を満足させて、指定したジャーナル・レシーバーの範囲内にあるすべてのジャーナル項目が変換されます。

最大項目数

変換されるジャーナル項目の最大数を指定してください。NBRENTパラメーターに指定された値が満たされる前にTOENTLRG、TOENT、またはTOTIMEパラメーターに指定されたジャーナル項目に達した場合には、コマンドは正常に終了します。

[トップ](#)

ジャーナル・コード (JRNCDE)

ジャーナル項目が出力用に変換されるジャーナル・コードを指定します。

単一値

- *ALL** 変換対象とみなされるジャーナル項目は、特定のジャーナル・コードを持つ項目に制限されません。
- *CTL** ジャーナル機能を制御するために作成されたジャーナル項目だけが、外部表現用に変換されます。ジャーナル・コードは'J'および'F'です。

要素 1: ジャーナル・コード値

ジャーナル・コード

ジャーナル項目が変換されるジャーナル・コードを指定してください。

このパラメーターに有効なジャーナル・コードのリストを表示するには、JRNCDEプロンプトからF4（プロンプト）キーを押してください。指定できるジャーナル項目のリストの説明は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ジャーナル管理」情報にあります。

要素 2: ジャーナル・コードの選択

***ALLSLT**

指定されたジャーナル・コードのジャーナル項目が出力のために変換されるのは、他のすべての選択パラメーターが満たされている場合だけです。

***IGNFILSLT**

すべての選択パラメーター(FILEパラメーターを除く)を満たす場合に限り、指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が出力用に変換されます。

注: ジャーナル・コードD, FまたはRの場合は、この値は正しくありません。

[トップ](#)

ジャーナル項目タイプ (ENTTYP)

ジャーナル項目の変換を、指定した項目タイプのジャーナル項目に限定するかどうかを指定します。

単一値

***ALL** ジャーナル項目の変換は特定の項目タイプに限定されません。

***RCD** レコード・レベル操作の項目タイプを持つ項目だけが変換されます。有効な項目タイプはBR, DL, DR, IL, PT, PX, UB, UP,およびURです。

その他の値

項目タイプ

外部表現用に変換されるジャーナル項目の数を制限する項目タイプを指定してください。最大300の有効な項目タイプを指定できます。項目タイプの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ジャーナル管理」情報にあります。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

外部表現用に変換されるジャーナル項目が指定したジョブのジャーナル項目に限定されることを指定します。指定したジョブのジャーナル項目だけが、外部表現用に変換されます。

単一値

***ALL** 外部表現用のジャーナル項目の変換は、指定したジョブの項目に限定されません。

その他の値

ジョブ識別コード

ジョブ名、ユーザー名、および使用するジョブのジョブ番号を指定してください。ジョブ名だけまたはジョブ名とユーザー名を使用するように指定することもできます。

ジョブ名

ジョブのジョブ名を指定してください。

ユーザー名

ジョブのユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

プログラム (PGM)

外部表示用に変換されるジャーナル項目が、指定したプログラムによって作成されたジャーナル項目に限定されることを指定します。

***ALL** ジャーナル項目の変換は、特定のプログラムによって作成された項目に限定されません。

プログラム名

ジャーナル項目が外部表示用に変換されるプログラム名を指定します。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

外部表現用に変換するジャーナル項目を、指定したユーザー・プロファイル名で作成したジャーナル項目に限定するように指定します。ユーザー名は、ジャーナル項目が置かれたジョブを実行したユーザー・プロファイルを示します。

***ALL** ジャーナル項目の変換は、指定したユーザー・プロファイルの項目に限定されません。

ユーザー名

ジャーナル項目を外部表現用に変換するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

大きいコミット・サイクルID (CCIDLRG)

関連したコミット・サイクル識別コードに基づいて変換を考慮するジャーナル項目を指定します。コミット・サイクルは、同じコミット・サイクル識別コードを共用するすべてのジャーナル項目から構成されません。

注: コミット・サイクル識別コードフィールド(CMTCYCID)か大きいコミット・サイクルIDフィールド(CCIDLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

***ALL** 変換されたジャーナル項目は、指定したコミット・サイクル識別コードに限定されません。

コミット・サイクル識別コード

変換を考慮するジャーナル項目のコミット・サイクル識別コードを指定してください。可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

[トップ](#)

従属項目 (DEPENT)

出力用に交換されるジャーナル項目にジャーナル項目の記録処置を以下のようにして入れるかどうかを指定します。

- トリガー・プログラムの結果として行われる
- 参照制約の一部であるレコード上
- ジャーナル処理済み変更適用(APYJRNCHG)またはジャーナル処理済み変更除去(RMVJRNCHG)の操作中に無視

***ALL** トリガー・プログラム、参照制約、およびジャーナル処理済み変更の適用または除去の操作によって無視される項目に関連したジャーナル項目が変換されます。

*NONE

トリガー・プログラム、参照制約、およびジャーナル処理済み変更の適用または除去の操作によって無視される項目に関連したジャーナル項目が変換されません。

[トップ](#)

出力形式 (OUTFMT)

ジャーナル項目情報の項目固有のデータ部分を文字形式または16進数形式で表示するかどうかを指定します。出力 (**OUTPUT**)パラメーターに*OUTFILEが指定されている場合には、このキーワードは無視されません。

*CHAR

ジャーナル項目の項目特定データ部分が文字形式で表されます。

***HEX** ジャーナル項目の項目特定データ部分が16進数形式で表されます。

[トップ](#)

ジャーナル識別番号 (JRNID)

表示される内部システム・ジャーナル(*INTSYSJRN)の5桁のジャーナル識別コード(ID)を指定します。ジャーナルIDはシステムによって割り当てられます。最初の2桁はジャーナルのタイプを表し、最後の3桁は補助記憶域プール(ASP)識別コードです。

注: このパラメーターを指定できるのは、JRN(*INTSYSJRN)を指定した場合だけです。

以下はジャーナル・タイプのリストです。

ジャーナル・タイプ

- 10 システム管理のアクセス・パス保護(SMAPP)
- 20 ディレクトリー
- 30 スプール

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が、要求元のワークステーションで表示されるか、ジョブのスプール印刷装置出力で印刷されるか、あるいは出力を受け取るファイル(OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られるかを指定します。

コマンドの出力が要求元ワークステーションに送られる時に、ジャーナル項目に関する基本情報が表示されます。基本画面からオプションを選択することにより、表示する任意のジャーナル項目の情報を詳細に表示することができます。

出力がジョブのスプール印刷装置出力と一緒に印刷される場合には、表示されるすべての情報が印刷されます。QSYSのファイルQPDPJRNが印刷出力に使用されます。

*
- 出力は表示される(対話式ジョブによって要求された場合)か、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます(バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

隠れた項目の組み込み (INCHIDENT)

隠されたジャーナル項目を戻すかどうかを指定します。隠された項目はシステムによって生成され使用されます。隠された項目が戻された場合には、すべてのジャーナル項目を表示して、不明のシーケンス番号がないようにすることができます。

*NO 隠されたジャーナル項目は出力用に変換されません。

***YES** 隠されたジャーナル項目が出力用に変換されます。

トップ

出力ファイル形式 (OUTFILFMT)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定された出力ファイルに書き出されるジャーナル項目の形式を指定します。このパラメーターを指定できるのは、OUTPUTパラメーターに値*OUTFILEが指定されている場合だけです。

注: ジャーナルの レシーバー・サイズ・オプションフィールド(RCVSIZOPT)が*MAXOPT3として指定されていた場合には、順序番号とコミット・サイクル識別コード、および適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号フィールドが18,446,744,073,709,551,600の最大値に達する可能性があります。

*TYPE1, *TYPE2, *TYPE3,および*TYPE4形式のこれら2つのフィールドの長さは、10桁の数を保留するように定義されます。*TYPE5形式にだけは、この最大値を十分に保留できる大きさのフィールドがあります。*TYPE1, *TYPE2, *TYPE3,または*TYPE4形式の出力ファイルの構築時に、10桁より大きい順序番号またはコミット・サイクル識別コードが見つかった場合には、そのレコードについてフィールドは-1に設定されます。出力ファイルの書き込みの終了時に、出力ファイルのそれらの特定のフィールドには不完全な情報が含まれていることを示す警報として、通知メッセージ(CPI7013)がジョブ・ログに対して出されます。

***TYPE1**

変換された項目は、指定可能な最小情報を含むように形式設定されます。各ジャーナル項目の情報フィールドおよび情報の形式は、以下のテーブルに示されています。

表 1. 図: テーブル 1 - OUTFILFMT(*TYPE1)ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号 (2)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
日付	: 6	: 19	: 24
時刻	: 6	: 25	: 30
ジョブ名	: 10	: 31	: 40
ユーザー名	: 10	: 41	: 50
ジョブ番号	: 6	: 51	: 56
プログラム名	: 10	: 57	: 66
オブジェクト名	: 10	: 67	: 76
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 77	: 86
メンバー名	: 10	: 87	: 96
カウント/RRN (3)	: 10	: 97	: 106
フラグ	: 1	: 107	: 107
コミット・サイクル ID (4)	: 10	: 108	: 117
未完了データ	: 1	: 118	: 118
最小化された項目	: 1	: 119	: 119
特定データ	:	:	:
予約済み	: 6	: 120	: 125
項目特定データ	: 100 (1)	: 126	: 225

注:

(1)これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJRNのフィールド長です。ただし、このフィールドには、ENTDTALENパラメーターを使用して、最大32641バイトまでの長さを指定することができます。

(2)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(3)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(4)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクル識別コードが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

*TYPE2

変換されるジャーナル項目にOUTFILFMT(*TYPE1)が指定された時に戻される情報、表示されたジャーナル項目を生成したジョブのユーザー・プロファイルの名前、および出力レコードが生成されたシステムの名前が含まれます。各ジャーナル項目の情報の形式は、以下のテーブルに示されています。

表 2. 図: テーブル 2 - OUTFILFMT(*TYPE2)ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号 (2)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
日付	: 6	: 19	: 24
時刻	: 6	: 25	: 30
ジョブ名	: 10	: 31	: 40
ユーザー名	: 10	: 41	: 50
ジョブ番号	: 6	: 51	: 56
プログラム名	: 10	: 57	: 66
オブジェクト名	: 10	: 67	: 76
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 77	: 86
メンバー名	: 10	: 87	: 96
カウント/RRN (3)	: 10	: 97	: 106
フラグ	: 1	: 107	: 107
コミット・サイクル ID (4)	: 10	: 108	: 117
ユーザー・プロファイル	: 10	: 118	: 127
システム名	: 8	: 128	: 135
未完了データ	: 1	: 136	: 136
最小化された項目	: 1	: 137	: 137
特定データ	:	:	:
予約済み	: 18	: 138	: 155
項目特定データ	: 100 (1)	: 156	: 255

注:

(1)これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJR2のフィールド長です。ただし、このフィールドには、ENTDTALENパラメーターを使用して、最大32611バイトまでの長さを指定することができます。

(2)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(3)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(4)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクル識別コードが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

*TYPE3

変換されたジャーナル項目には、OUTFILFMT(*TYPE2)が指定されている時に戻されるすべての情報、およびヌル値標識が含まれます。変換された各ジャーナル項目の情報の形式は、以下のテーブルに示されています。

表 3. 図: テーブル 3 - OUTFILFMT(*TYPE3)ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号 (5)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
タイム・スタンプ(1)	: 26	: 19	: 44
ジョブ名	: 10	: 45	: 54
ユーザー名	: 10	: 55	: 64
ジョブ番号	: 6	: 65	: 70
プログラム名	: 10	: 71	: 80
オブジェクト名	: 10	: 81	: 90
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 91	: 100
メンバー名	: 10	: 101	: 110
カウント/RRN (6)	: 10	: 111	: 120
フラグ	: 1	: 121	: 121
コミット・サイクル ID (7)	: 10	: 122	: 131
ユーザー・プロファイル	: 10	: 132	: 141
システム名	: 8	: 142	: 149
未完了データ	: 1	: 150	: 150
最小化された項目	: 1	: 151	: 151
特定データ	:	:	:
予約済み	: 18	: 152	: 169
ヌル値標識	: 52 (2,3)	: 170	: 221
項目特定データ	: 102 (3,4)	: 222	: 323

注:

- (1) ジャーナル項目の日付と時刻は、*TYPE1および*TYPE2の日付と時刻を分離したフィールドではなく、26バイトのSAAタイム・スタンプ形式となります。
- (2) これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJR4の50文字可変長フィールドです。ただし、このフィールドには、NULLINDLENパラメーターを使用して、最大8000文字までの長さを指定することができます。
- (3) フィールドが可変長フィールドである場合には、最初の2バイトが可変長フィールドとそれに続く実際のデータの長さです。
- (4) これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJR4の100文字可変長フィールドです。ただし、これが固定長フィールドで、ヌル値標識フィールドも固定長フィールドである場合には、ENTDTALENパラメーターを使用して、最大32596文字までの長さを指定することができます。
- (5) ジャーナルのRCVSILOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
- (6) ジャーナルのRCVSILOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
- (7) ジャーナルのRCVSILOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクル識別コードが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

***TYPE4**

変換される項目に、OUTFILFMT(*TYPE3)が指定された時に戻される情報、ジャーナル識別コード、物理ファイル・トリガー標識、および参照制約標識が含まれます。変換された各ジャーナル項目の情報の形式は、以下のテーブルに示されています。

表 4. 図: テーブル 4 - OUTFILMT(*TYPE4)ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号(5)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
タイム・スタンプ(1)	: 26	: 19	: 44
ジョブ名	: 10	: 45	: 54
ユーザー名	: 10	: 55	: 64
ジョブ番号	: 6	: 65	: 70
プログラム名	: 10	: 71	: 80
オブジェクト名	: 10	: 81	: 90
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 91	: 100
メンバー名	: 10	: 101	: 110
カウント/RRN (6)	: 10	: 111	: 120
フラグ	: 1	: 121	: 121
コミット・サイクル ID (7)	: 10	: 122	: 131
ユーザー・プロファイル	: 10	: 132	: 141
システム名	: 8	: 142	: 149
ジャーナル識別コード	: 10	: 150	: 159
参照 制約	: 1 :	: 160 :	: 160 :
トリガー	: 1	: 161	: 161
未完了データ	: 1	: 162	: 162
APYJRNCHG/RMVJRNCHG の間は無視	: 1 :	: 163 :	: 163 :
最小化された項目 特定データ	: 1 :	: 164 :	: 164 :
予約済み	: 5	: 165	: 169
ヌル値標識	: 52	: 170 (2,3):	221
項目特定データ	: 102	: 222 (3,4):	323

注:

(1) ジャーナル項目の日付と時刻は、*TYPE1および*TYPE2の日付と時刻を分離したフィールドではなく、26バイトのSAAタイム・スタンプ形式となります。

(2) これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJR4の50文字可変長フィールドです。ただし、このフィールドには、NULLINDLEN/パラメータを使用して、最大8000文字までの長さを指定することができます。

(3) フィールドが可変長フィールドである場合には、最初の2バイトが可変長フィールドとそれに続く実際のデータの長さです。

表 4. 図: テーブル 4 - OUTFILFMT(*TYPE4)ジャーナル項目形式 (続き)

(4)これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJR4の100文字可変長フィールドです。ただし、これが固定長フィールドで、ヌル値標識フィールドも固定長フィールドである場合には、ENTDTALENパラメーターを使用して、最大32596文字までの長さを指定することができます。

(5)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(6)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(7)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクル識別コードが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

*TYPE5

変換された項目には、プログラム・ライブラリー名、プログラム・ライブラリーASP装置名、プログラム・ライブラリーASP番号、システム・シーケンス番号、論理作業単位、トランザクションID、スレッドID、リモート・アドレス、アドレス・ファミリー、リモート・ポート、アーム番号、レシーバー・ライブラリー名、レシーバー・ライブラリーASP装置名、およびレシーバー・ライブラリーASP装置番号のほかに、OUTFILFMT(*TYPE4)が指定された時に戻される情報が含まれます。変換された各ジャーナル項目の情報の形式は、以下のテーブルに示されています。

表 5. 図: テーブル 5 - OUTFILFMT(*TYPE5)ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号	: 20	: 6	: 25
ジャーナル・コード	: 1	: 26	: 26
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 27	: 28
タイム・スタンプ(1)	: 26	: 29	: 54
ジョブ名	: 10	: 55	: 64
ユーザー名	: 10	: 65	: 74
ジョブ番号	: 6	: 75	: 80
プログラム名	: 10	: 81	: 90
プログラム・ライブラリー名	: 10	: 91	: 100
プログラム・ライブラリー ASP	: 10	: 101	: 110
装置名	:	:	:
プログラム・ライブラリー ASP	: 5	: 111	: 115
番号	:	:	:
オブジェクト名	: 10	: 116	: 125
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 126	: 135
メンバー名	: 10	: 136	: 145
カウント/RRN	: 20	: 146	: 165
フラグ	: 1	: 166	: 166
コミット・サイクルID	: 20	: 167	: 186
ユーザー・プロファイル	: 10	: 187	: 196
システム名	: 8	: 197	: 204
ジャーナル識別コード	: 10	: 205	: 214
参照 制約	: 1 :	: 215 :	: 215 :
トリガー	: 1	: 216	: 216
未完了データ	: 1	: 217	: 217
APYJRNCHG/RMVJRNCHG の間は無視	: 1 :	: 218 :	: 218 :
最小化された項目 特定データ	: 1 :	: 219 :	: 219 :
オブジェクト標識	: 1	: 220	: 220
システム順序番号	: 20	: 221	: 240
レシーバー名	: 10	: 241	: 250
レシーバー・ライブラリー名	: 10	: 251	: 260
レシーバー・ライブラリー ASP	: 10	: 261	: 270
装置名	:	:	:
レシーバー・ライブラリー ASP	: 5	: 271	: 275
番号	:	:	:

表 5. 図: テーブル 5 - OUTFILFMT(*TYPE5)ジャーナル項目形式 (続き)

アーム番号	: 5	: 276	: 280
スレッドID	: 8	: 281	: 288
形式設定された スレッドID	: 16	: 289	: 304
アドレス・ファミリー	: 1	: 305	: 305
リモート・ポート	: 5	: 306	: 310
リモート・アドレス	: 46	: 311	: 356
作業論理単位	: 39	: 357	: 395
トランザクションID	: 140	: 396	: 535
予約済み	: 20	: 536	: 555
ヌル値標識	: 52 (2,3)	: 556	: 607
項目特定データ	: 102 (3,4)	: 608	: 709

注:

(1) ジャーナル項目の日付と時刻は、*TYPE1および*TYPE2の日付と時刻を分離したフィールドではなく、26バイトのSAAタイム・スタンプ形式となります。

(2) これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJR5の50文字可変長フィールドです。ただし、このフィールドには、NULLINDLENパラメーターを使用して、最大8000文字までの長さを指定することができます。

(3) フィールドが可変長フィールドである場合には、最初の2バイトが可変長フィールドとそれに続く実際のデータの長さです。

(4) これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJR5の100文字可変長フィールドです。ただし、これが固定長フィールドで、ヌル値標識フィールドも固定長フィールドである場合には、ENTDTALENパラメーターを使用して、最大32210文字までの長さを指定することができます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。出力ファイルがすでに存在している場合には、システムはそれを使用しようとします。レコードはファイル・メンバー中の現行データと置き換わるか、それに追加されます。レコードがデータベース・ファイルに書き出されない(指定された選択値のために)で、OUTMBRパラメーターに*REPLACEが指定されている場合には、レコードは既存のデータベース・ファイルから消去されます。このファイルが存在しない場合には、このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。

- 新規ファイルが作成されて、OUTFILFMTパラメーターに*TYPE1が指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内のQJORDJEの様式名を持つQADSPJRNを使用します。
- 新規ファイルが作成されて、OUTFILFMTパラメーターに*TYPE2が指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内のQJORDJE2の様式名を持つQADSPJR2を使用します。
- 新規ファイルが作成されて、OUTFILFMTパラメーターに*TYPE3が指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内のQJORDJE3の様式名を持つQADSPJR3を使用します。
- 新規ファイルが作成されて、OUTFILFMTパラメーターに*TYPE4が指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内のQJORDJE4の様式名を持つQADSPJR4を使用します。

- 新規ファイルが作成されて、OUTFILFMTパラメーターに*TYPE5が指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内のQJORDJE5の様式名を持つQADSPJR5を使用します。

修飾子 1: 出力を受け取るファイル

ファイル名

ファイルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力を受け取るメンバー (OUTMBR)

画面の出力の送信先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーがすでに存在している場合には、システムがこのパラメーターの2番目の要素を使用して、新しいレコードが追加される前にそのメンバーが消去されるかどうかを判別します。メンバーが存在せず、メンバー名も指定されていない場合には、システムは、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されているファイルの名前でメンバーを作成します。出力ファイル・メンバー名は指定されているが、メンバーが存在していない場合には、システムはこれを作成します。

要素 1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素 2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

項目データの長さ (ENTDTALEN)

出力ファイルがシステムによって作成される時に、ジャーナル項目の項目特定データ部分の最大フィールド長を指定します。このフィールドには、ジャーナル項目の可変部分の一部が入っています（ジャーナル項目の更新用レコードの変更後イメージなど）。出力ファイルが存在している場合には、このパラメーターは無視されます。

このパラメーターでは、単一値または3つの要素の単一リストを指定することができます。

注: このパラメーターが有効であるのは、OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合だけです。

単一値

*OUTFILFMT

出力ファイルの項目特定データ・フィールドのフィールド長は、**出力ファイル形式 (OUTFILFMT)** パラメーターに指定された値によって決定されます。このフィールドの属性は、システムによって提供された、対応するモデル出力ファイルの項目特定データ・フィールドの属性と同じです。

出力ファイル形式 (OUTFILFMT)パラメーターに*TYPE1または*TYPE2が指定された場合には、出力データベース・ファイルの項目特定データ・フィールドは100文字の長さの固定長フィールドになります。

出力ファイル形式 (OUTFILFMT)パラメーターに*TYPE1および*TYPE2が指定されなかった場合には、出力ファイルの項目特定データ・フィールドは、最大フィールド長が100文字で、割り振り長さが100文字の可変長フィールドになります。可変長フィールドの長さ部分を組み込むために、バッファーは最大フィールド長より2バイト長くなっています。

*CALC

システムは、指定されたレシーバーの範囲内にあるすべてのジャーナル項目間の最長の項目特定データを収容するための項目特定データ・フィールドの長さを計算します。項目特定のデータ・フィールドは、固定長文字フィールドです。フィールドの最小長は130桁です。システムが計算した長さによって、レコード様式の長さが最大レコード長を超えた場合には、メッセージが送られ、項目特定データ・フィールドが切り捨てられます。

システムによって計算された長さが原因で、レコード様式の長さが32766バイトを超えた場合には、診断メッセージが出され、項目特定データ・フィールドが切り捨てられます。**出力ファイル形式 (OUTFILFMT)**パラメーターに*TYPE1および*TYPE2が指定されず、ヌル値標識フィールドが可変長フィールドある場合には、レコード様式の長さは32740バイトを超えることができません。

要素 1: フィールドのデータ形式

*VARLEN

項目特定データ・フィールドは可変長フィールドです。この値を指定できるのは、OUTFILFMT(*TYPE1)および OUTFILFMT(*TYPE2)が指定されていない場合だけです。この値を指定した場合には、最大フィールド長および項目特定データ・フィールドに割り振られる長さに値を指定することができます。

フィールド長

出力ファイルの項目特定データ部分のフィールド長を指定してください。**出力ファイル形式 (OUTFILFMT)**パラメーターに*TYPE1が指定されている場合には、有効な値の範囲は1-32641です。OUTFILFMTパラメーターに*TYPE2が指定されている場合には、有効な値の範囲は1-32611です。OUTFILFMTパラメーターに*TYPE3または*TYPE4が指定されていて、ヌル値標識フィールドが固定長フィールドである場合には、有効な値の範囲は1-32596です。OUTFILFMTパラメーターに*TYPE5が指定されていて、ヌル値標識が固定長フィールドである場合には、有効な値の範囲は

1-32210です。*TYPE3または*TYPE4 が指定されていて、ヌル値標識フィールドが可変長フィールドである場合には、有効な値の範囲は1-32570です。*TYPE5が指定されていて、ヌル値標識フィールドが可変長フィールドである場合には、有効な値の範囲は1 から32184です。

注: 項目データの長さ (ENTDTALEN)パラメーターおよびヌル値標識の長さ (NULLINDLEN)パラメーターに指定された値の合計は、データベース・ファイルの最大レコード長を超えることはできません (可変長フィールドを持つファイルの場合は32740で、固定長フィールドを持つファイルの場合は32766です)。

要素 2: 可変長フィールドの長さ

*CALC

システムは、指定されたレシーバーの範囲内にあるすべてのジャーナル項目間の最長の項目特定データを収容するための項目特定データ・フィールドの最大長を計算します。このフィールドの最小長は130バイトです。対応するバッファー長は132バイトです。すなわち、データ用の130バイトおよび可変長フィールドの長さ部分の2バイトです。

フィールド長

最大フィールド長の桁数を指定してください。ヌル値標識フィールドが固定長フィールドである場合には、有効な値の範囲は1-32570です。ヌル値標識フィールドが可変長フィールドである場合には、有効な値の範囲は1-32185です。

要素 3: 割り振られた長さ

*FLDLEN

割り振られた長さはフィールドの最大長と同じです。

割り振られた長さ

割り振られた長さを指定してください。最大フィールド長に*CALCを指定し、システム計算による最大フィールド長がユーザー指定の割り振られた長さより小さい場合には、割り振られた長さは最大フィールド長に設定されます。特定の最大フィールド長を指定した場合には、割り振られた長さが最大フィールド長を超えることはできません。

以下のテーブルは、ENTDTALENパラメーターの値の範囲をリストしたものです。

表 6. 図: テーブル 6 - ENTDTALENパラメーターの値の範囲

出力 ファイル 形式	: 項目 : 特有の : データ : 形式	: ヌル値 : 標識 : 形式	: 項目の : データ長	: 最大 : レコード : 長
=====				
*TYPE1	: 固定	: 適用	: 1-32641	: 32766
	:	: されない:	:	:
	:	:	:	:

*TYPE2	: 固定	: 適用	: 1-32611	: 32766
	:	: されない:	:	:
	:	:	:	:

*TYPE3	: 固定	: 固定	: 1-32596	: 32766

*TYPE3	: 固定	: 可変	: 1-32570	: 32740

*TYPE3	: 可変	: 固定	: 1-32570	: 32740

*TYPE3	: 可変	: 可変	: 1-32568	: 32738

*TYPE4	: 固定	: 固定	: 1-32596	: 32766

*TYPE4	: 固定	: 可変	: 1-32570	: 32740

*TYPE4	: 可変	: 固定	: 1-32570	: 32740

*TYPE4	: 可変	: 可変	: 1-32568	: 32738

*TYPE5	: 固定	: 固定	: 1-32210	: 32766

*TYPE5	: 固定	: 可変	: 1-32184	: 32740

*TYPE5	: 可変	: 固定	: 1-32184	: 32740

*TYPE5	: 可変	: 可変	: 1-32182	: 32738
=====				

注:
 ファイルに可変長フィールドが含まれている場合には、
 最大レコード長には可変長フィールド当たり2バイト
 が含まれません。

トップ

ヌル値標識の長さ (NULLINDLEN)

システムによって出力ファイルが作成される時に、ヌル値標識フィールドの長さを指定します。このパラメーターを指定できるのは、OUTFILFMT(*TYPE1)およびOUTFILFMT(*TYPE2)が指定されていない場合だけです。

以下のように、ヌル値標識がレコード・レベル操作のジャーナル項目に表示されます。

1. 対応する物理ファイルにはヌル値可能フィールドがあります。
2. レコード・イメージは、項目特定データで最小化されています。

レコード・イメージが項目特定データで最小化されていない場合には、物理ファイル中の各フィールドごとに1つのヌル値標識が入っています。各標識の長さは1桁で、次のいずれかとすることができます。

- 'F0'X =対応するフィールドはヌル値ではありません。
- 'F1'X =対応するフィールドはヌル値です。

単一値

***OUTFILFMT**

ヌル値標識フィールドは、システム提供のモデル出力ファイルQADSPJR3、QADSPJR4、またはQADSPJR5の対応するフィールドと同じ属性を持ちます。これは、それぞれ50桁の最大長および割り振られた長さを持つ可変長文字フィールドです。可変長フィールドの長さ部分を組み込むために、バッファは最大フィールド長より2バイト長くなっています。

***CALC**

システムは、指定されたレシーバーの範囲内にある最大数のヌル値標識を持つジャーナル項目を収容するためのフィールドの長さを計算します。この場合には、ヌル値標識フィールドは固定長文字フィールドです。出力ファイルが作成される時にフィールドが存在しているかどうかを確認するために、このフィールドの最小長は1桁です。システムが計算した長さによって、レコード様式の長さが32766を超えた場合には、診断メッセージが送られ、ヌル値標識フィールドが切り捨てられます。項目特定データ・フィールドが可変長フィールドの場合には、レコード様式の長さは32740バイトを超えることはできません。

要素 1：フィールドのデータ形式

***VARLEN**

可変長フィールドを指定するためには、最初の要素に*VARLENを、最後の2つの要素に長さの値を指定してください（そうでない場合には、システムは省略時の値を使用します）。ヌル値標識フィールドは可変長フィールドです。この値を指定した場合には、フィールドの最大長および割り振られた長さに値を指定することができます。

フィールド長

フィールド長を指定してください。有効な値の範囲は1-8000桁です。出力ファイルの作成時にフィールドが確実に存在しているようにするために、システムはゼロでない値を必要とします。この場合には、ヌル値標識フィールドは固定長フィールドとなります。

要素 2：可変長フィールドの長さ

***CALC**

システムは、指定されたレシーバーの範囲内にある最大数のヌル値標識を持つジャーナル項目を収容するためのヌル値標識フィールドの長さを計算します。作成した出力ファイルにフィールドが確実に存在するには、フィールドの最小長は1バイトです。対応するバッファ長は3バイトです。すなわち、データ用の1バイトおよび可変長フィールドの長さ部分用の2バイトです。

フィールド長

最大フィールド長を指定してください。有効な値の範囲は1-8000桁です。

要素 3：割り振られた長さ

***FLDLEN**

割り振られた長さは、最大フィールド長と同じです。

割り振られた長さ

割り振られた長さを指定してください。有効な値の範囲は1-8000桁です。最大フィールド長に*CALCが指定され、システムによって計算された最大長がユーザーが指定した割り振られた長さより小さい場合には、割り振られた長さは最大フィールド長にセットされます。最大フィールド長が指定されている場合には、割り振られた長さは最大フィールド長を超えることはできません。

以下のテーブルは、NULLINDLENパラメーターの値の範囲をリストしたものです。

表 7. 図: テーブル 7 - NULLINDLENパラメーターの値の範囲

出力 ファイル 形式	: 項目 : 特有の : データ : 形式	: ヌル値 : 標識 : 形式	: ヌル行 : 標識 : 長	: 最大 : レコード : 長
=====				
*TYPE3	: 固定	: 固定	: 1-8000	: 32766

*TYPE3	: 固定	: 可変	: 1-8000	: 32740

*TYPE3	: 可変	: 固定	: 1-8000	: 32740

*TYPE3	: 可変	: 可変	: 1-8000	: 32738

*TYPE4	: 固定	: 固定	: 1-8000	: 32766

*TYPE4	: 固定	: 可変	: 1-8000	: 32740

*TYPE4	: 可変	: 固定	: 1-8000	: 32740

*TYPE4	: 可変	: 可変	: 1-8000	: 32738

*TYPE5	: 固定	: 固定	: 1-8000	: 32766

*TYPE5	: 固定	: 可変	: 1-8000	: 32740

*TYPE5	: 可変	: 固定	: 1-8000	: 32740

*TYPE5	: 可変	: 可変	: 1-8000	: 32738
=====				
注:				
ファイルに可変長フィールドが含まれている場合には、 最大レコード長には可変長フィールド当たり 2 バイト が含まれません。				

トップ

項目の組み込み (INCENT)

確認済みのジャーナル項目だけを出力用に変換するか、あるいは確認済みと未確認の両方のジャーナル項目を出力用に変換するかを指定します。このパラメーターが適用されるのは、リモート・ジャーナルからのジャーナル項目を出力用に変換する場合だけです。

確認済みの項目とは、このリモート・ジャーナルに送られていて、ローカル・ジャーナル上の同一のジャーナル項目について補助記憶域への入出力(I/O)の状態がわかっているジャーナル項目のことです。

未確認の項目とは、このリモート・ジャーナルに送られているが、ローカル・ジャーナル上の同一のジャーナル項目について補助記憶域への入出力(I/O)の状態がわかっていないジャーナル項目、あるいはこれらのジャーナル項目のオブジェクト名情報がまだリモート・ジャーナルにわかっていない項目のことです。未確認のジャーナル項目が存在できるのは、リモート・ジャーナルの接続されたレシーバー内だけです。これが適用されるのは、特定のリモート・ジャーナルに対して同期転送モードが使用されている場合だけです。

*CONFIRMED

確認済みのジャーナル項目だけが出力用に変換されます。

***ALL** 確認済みおよび未確認のジャーナル項目がすべて出力用に変換されます。

トップ

開始順序番号 (FROMENT)

外部表示用の変換対象とみなされる最初のジャーナル項目を指定します。

注: 開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*FIRST

指定したジャーナル・レシーバーの範囲の最初のジャーナル項目は、外部表示用の変換対象とみなされる最初の項目です。

開始順序番号

外部表示用の変換対象とみなされる最初のジャーナル項目の割り当て順序番号を指定します。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

[トップ](#)

終了順序番号 (TOENT)

外部表示用に変換される最後のジャーナル項目を指定します。

注: 終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*LAST 指定したジャーナル・レシーバーの範囲の最後のジャーナル項目が、外部表現用に変換される最終項目です。

終了順序番号

外部表示用に変換される最終ジャーナル項目の特定の順序番号を指定します。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

[トップ](#)

コミット・サイクル識別コード (CMTCYCID)

関連したコミット・サイクル識別コードに基づいて変換を考慮するジャーナル項目を指定します。コミット・サイクルは、同じコミット・サイクル識別コードを共用するすべてのジャーナル項目から構成されません。

注: コミット・サイクル識別コードフィールド(CMTCYCID)か大きいコミット・サイクルIDフィールド(CCIDLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

*ALL 変換されたジャーナル項目は、指定したコミット・サイクル識別コードに限定されません。

コミット・サイクル識別コード

変換を考慮するジャーナル項目のコミット・サイクル識別コードを指定してください。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

[トップ](#)

例

例 1 :表示用のジャーナル項目の変換

```
DSPJRN  JRN(MYLIB/JRNLA)
```

ワークステーションで出された場合に、このコマンドは、（ジャーナル項目の変換の開始）時点でライブラリーMYLIBのジャーナルJRNLAに接続されているジャーナル・レシーバーの最初のジャーナル項目を変換および表示します。後続の項目は、「次ページ」キーを押すことによって表示されます。バッチ・ジョブから入力された場合に、上記のコマンドは、すべての変換済みジャーナル項目をジョブのスパール印刷装置出力を使用して印刷します。ジャーナル項目の項目特定データ部分は文字形式で表示されます。

例 2 :出力ファイルのジャーナル項目の変換

```
DSPJRN  JRN(MYLIB/JRNLA)
        FILE((LIB1/A MBR3) (LIB1/C) (LIB2/*ALL *ALL))
        RCVRNG((RCVLIB/RCV27 RCVLIB/RCV30))
        FROMENT(4736)  ENTTYP(UP DL)
        JOB(000666/QPGMR/WORKST01)
        PGM(TSTPGMA)  ENTDTALEN(280)
        OUTPUT(*OUTFILE)  OUTFILE(MYLIB/JRNENTFIL1)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのJRNLAに接続されたジャーナル・レシーバー連鎖内の選択されたジャーナル項目を（ライブラリーRCVLIBのレシーバーRCV27からライブラリーRCVLIBのレシーバーRCV30に）変換し、それらをライブラリーMYLIBのデータベース・ファイルJRNENTFIL1に入れます。データベース・ファイルが存在していない場合には、QJORDJEの形式で作成されます。この形式の最後のフィールドは280バイトの長さです。順序番号4736のジャーナル項目が、出力ファイルに最初に書き出される項目です。ライブラリーLIB1のファイルAのメンバーMBR3、ライブラリーLIB1のファイルCの最初のメンバー、およびライブラリーLIB2のすべてのファイルのすべてのメンバーに対してジョブ000666/QPGMR/WORKST01のプログラムTSTPGMAによって行われたレコードの更新および削除に関する項目だけが、出力ファイルに書き出されます。

例 3 :特定のユーザー・プロファイル用のジャーナル項目の変換

```
DSPJRN  JRN(SS/J)  FILE(SS1/PF)  RCVRNG((SS/R1 *CURRENT))
        JRNCFE(F)  USRPRF(MAC7)
        OUTFILE(FMTLIB/ENTFILE)  OUTFILFMT(*TYPE2)
```

このコマンドは、ジャーナル・レシーバー範囲内の選択されたジャーナル項目を変換します。この範囲は、ライブラリーSSのジャーナル・レシーバーR1から始まり、（ジャーナル項目の変換の開始）時点でライブラリーSSのジャーナルJに接続されているジャーナル・レシーバーで終わります。項目は、ライブラリーFMTLIBのデータベース・ファイルENTFILEの最初のメンバーに入れられます。このファイルが存在していない場合には、QJORDJE2の形式で作成されます。この形式の最後のフィールドは100バイトの長さです。ライブラリーSS1のファイルPFの最初のメンバーに対してユーザーMAC7によって作成されたファイル・レベル情報を持つ項目だけが、出力ファイルに書き出されます。

例 4 :ヌル値フィールド長が指定されるジャーナル項目の変換

```
DSPJRN  JRN(LIBPROD/PRODJRN)  FILE(APPLIB/PFILE)
        OUTFILFMT(*TYPE3)  OUTFILE(JRNLIB/ENTFILE)
        ENTDTALEN(*VARLEN 500 100)  NULLINDLEN(25)
```

このコマンドは、（項目の変換の開始）時点で接続されているジャーナル・レシーバーからライブラリーLIBPRODのジャーナルPRODJRNまでの範囲内の、選択されたジャーナル項目を変換します。項目は、ライブラリーJRNLIBのデータベース・ファイルENTFILEの最初のメンバーに入れられます。このファイルが存在していない場合には、QJORDJE3の形式で作成されます。項目特定データ・フィールドは、最大フィールド長が500文字で、割り振り長さが100文字の可変長フィールドになります。ヌル値標識フィールドは、25文

字の固定長フィールドです。ライブラリーAPPLIBのファイルPFILEの最初のメンバーに関するファイル・レベル情報を持つ項目だけが、出力ファイルに書き出されます。

例 5：ヌル値フィールド長が計算されるジャーナル項目の変換

```
DSPJRN  JRN(JRNLIB/JRNA) FILE(FILLIB/FILEA)
        FROMENT(4736) ENTYP(UP DL)
        JOB(000666/QPGMR/WORKST01) PGM(TSTPGMA)
        ENDTALEN(280) OUTPUT(*OUTFILE)
        OUTFILFMT(*TYPE3) OUTFILE(ENTLIB/ENTFILE)
        ENDTALEN(*CALC) NULLINDLEN(*VARLEN *CALC *FLDLEN)
```

このコマンドは、（項目の変換の開始）時点で接続されているジャーナル・レシーバーからライブラリーJRNLIBのジャーナルJRNAまでの範囲内の、ライブラリーFILLIBのファイルのFILEAの最初のメンバーに関するファイル・レベル情報を持つジャーナル項目を変換します。項目は、ライブラリーENTLIBのデータベース・ファイルENTFILEの最初のメンバーに書き出されます。このファイルが存在していない場合には、QJORDJE3の形式で作成されます。システムが、固定長、項目特定データ・フィールドの長さを計算します。システムは、また、可変長ヌル値標識フィールドの長さも計算します。このフィールドの割り振り長さは、最大フィールド長と同じです。

例 6：*IGNFILSLTおよび*CURCHAINを使用したジャーナル項目の変換

```
DSPJRN  JRN(JRNLIB/JRNA) FILE(FILLIB/FILEA)
        RCVRNG(*CURCHAIN)
        JRNCDE((F *ALLSLT) (R *ALLSLT) (U *IGNFILSLT))
        OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、以下を持つジャーナル項目を変換します：

- ライブラリーFILLIBのファイルFILEAの最初のメンバーに関するファイル・レベル情報
- ライブラリーFILLIBのファイルFILEAの最初のメンバーに関するレコード・レベル情報
- 項目がジャーナル処理済みファイル・メンバーと関連付けられているかどうかとは無関係のユーザー生成ジャーナル項目

ジャーナル項目は、ライブラリーJRNLIBのジャーナルJRNAと関連し、最新の連鎖の中断から項目の変換の開始時点で接続されているジャーナル・レシーバーまでの範囲内のジャーナル・レシーバーである、ジャーナル・レシーバーの連鎖から変換されます。変換された項目は印刷ファイルに書き出されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7002

ライブラリー&2のファイル&1が物理ファイルではない。

CPF7006

メンバー&3が&2のファイル&1に見つからない。

CPF7007

&2のファイル&1のメンバー&3を割り振ることができない。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF705C

INCENT(*ALL)はローカル・ジャーナルに使用できない。

CPF7053

RCVRNGパラメーターの値が正しくない。理由コードは&1です。

CPF7054

FROMとTOの値が正しくない。

CPF7055

最大オブジェクト数を超えた。

CPF7057

*LIBLとFILE(*ALL)またはOBJ(*ALL)と一緒に指定することはできない。

CPF706B

JRN(*INTSYSJRN)の指定は認可されていない。

CPF706C

JRNIDパラメーターの値&1が正しくない。

CPF7060

ファイル&1メンバー&5はジャーナル&3にジャーナル処理されていない。

CPF7061

ジャーナル処理された項目の変換が正常に行なわれなかった。

CPF7062

ジャーナル&1から項目が変換されなかったか、または受け取られなかった。

CPF7065

ジャーナル・コード(JRNCDE)に項目タイプ(ENTTYP)は正しくない。

CPF707A

ENTDTALENに指定された値が正しくない。

CPF7074

指定したSEARCHに対してRCVRNGが正しくない。

CPF708D

ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。

CPF709C

JOB, PGM,およびUSRPRFはレシーバー範囲に正しくない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

[トップ](#)

ジャーナル・レシーバー属性表示 (DSPJRNRCA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル・レシーバー属性表示(DSPJRNRCA)コマンドは、レシーバーが現在接続されているジャーナルの名前または最後に接続されていたジャーナルの名前（レシーバーが現在接続されていない場合）を含む、ジャーナル・レシーバーの作成属性および現行操作属性を表示します。ジャーナル・レシーバーがローカル・ジャーナルと対応していて、最初からローカル・ジャーナルに接続されていた場合には、指定されたレシーバーの前後に接続されていたジャーナル・レシーバーの名前が表示されます。たとえば、ローカル・ジャーナルおよびソース・ジャーナルなどのリモート・ジャーナル関連情報の他に、ジャーナル・レシーバーに入っているジャーナル項目の数、最長項目特定データの長さ、ジャーナル項目中のヌル値標識の最大数、ジャーナル・レシーバーの最初と最後のジャーナル順序番号、およびレシーバーが接続されて切り離された日時などの情報も含まれます。

ジャーナル・レシーバーがローカル・ジャーナルと対応していて、最初からローカル・ジャーナルに接続されていた場合には、コマンドによって提供される画面から、前のレシーバー、次のレシーバー、または2重レシーバーを表示するオプションを選択することができます。さらに、ジャーナル・レシーバーが現在ジャーナルと対応している場合には、対応したジャーナルに関する明細を表示するオプションを選択することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRNRCA	ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

ジャーナル・レシーバー (JRNRCA)

表示するジャーナル・レシーバーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: ジャーナル・レシーバー

ジャーナル・レシーバー名

ジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示される(対話式ジョブによって要求された場合)か、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます(バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

QSYSのファイルQPDSPRCVが印刷出力に使用されます。

[トップ](#)

DSPJRNRCVAの例

```
DSPJRNRCVA JRNRCV(MYLIB/JRNRCVA) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ジョブのスパール印刷装置出力を使用して、ライブラリーMYLIBのジャーナル・レシーバーJRNRCVAの現行操作属性情報を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPJRNRCVA

*ESCAPEメッセージ

CPF701A

ジャーナル・レシーバーが操作に適格でない。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

JAVAプログラムの表示 (DSPJVAPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

JAVAプログラム表示(DSPJVAPGM)コマンドは、JAVAクラス・ファイルと関連したJAVAプログラムに関する情報を表示します。

JAVAプログラムが指定されたクラス・ファイルと関連していない場合には、エスケープ・メッセージJVAB540が送られます。

制約事項:クラス・ファイルは次のファイル・システムの1つに入っていないければなりません:
QOPENSYS,"ROOT",またはユーザー定義ファイル・システム。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLSF	クラス・ファイルまたはJARファイル	パス名	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

クラス・ファイルまたはJARファイル (CLSF)

JAVAプログラムを表示する元になるファイル名を指定します。ファイル名は1つまたは複数のディレクトリー名によって修飾することができます。

クラス・ファイル名

使用するクラス・ファイルを識別するためのクラス・ファイルの名前を指定してください。名前が修飾されている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾されたクラス・ファイル名の例は、'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYCLASSNAME.CLASS'です。

JARファイル名

使用するJARまたはZIPファイルを識別するJAVAアーカイブ(JAR)ファイルの名前を指定してください。ファイル名が'.JAR'または'.ZIP'で終わっていると、ファイルはJARファイルであると見なされます。名前が修飾されている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾されたJARファイル名の例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYAPPNAME.JAR'です。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、あるいはそのジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

```
DSPJVAPGM  CLSF('/PROJECTA/MYJAVACLASSNAME.CLASS')
           OUTPUT(*)
```

このコマンドは、クラス・ファイルMYJAVACLASSNAMEと関連付けたJAVAプログラムの情報を表示します。JAVAプログラム情報は画面に出力されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

JVAB521

ファイル"&1"はJAVAクラス・ファイルではありません。

JVAB540

JAVAプログラムがクラス・ファイルと関連していない

JVAB541

JAVAプログラムまたはクラス・ファイル&2でエラーが検出された。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

キーボード・マップ表示 (DSPKBDMAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

キーボード・マップ表示(DSPKBDMAP)コマンドは、コマンドを入力した3270ワークステーション装置の現在のF-PFマップを表示します。ユーザー割り当て可能キーボード・マッピングの詳細は、REMOTE WORK STATION SUPPORT (SC41-5402)ブックにあります。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

DSPKBDMAPの例

DSPKBDMAP

DSPKBDMAPコマンドは、3270ヘルプ画面を使用して、コマンドを入力している装置の活動PFキー・マッピングを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPKBDMAP

*ESCAPE メッセージ

CPF8701

指定された装置&1が3270装置タイプでない。

[トップ](#)

LAN アダプター・プロファイルの表示 (DSPLANADPP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・エリア・ネットワーク・アダプター・プロファイル表示(DSPLANADPP) コマンドは、活動状態のローカル・エリア・ネットワーク(LAN)アダプターのプロファイルを示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LINE	回線記述	名前	必須, 定位置 1
ADPTNAME	アダプター	名前, *ADPTADR	必須, 定位置 2
ADPTADR	アダプター・アドレス	X'000000000001'-X'7FFFFFFFFF', <u>00000000001</u>	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 4

[トップ](#)

回線記述 (LINE)

そのプロファイルを表示するアダプターに接続された回線の名前を指定します。

注: 指定された回線はオンに構成変更しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

アダプター (ADPTNAME)

そのプロファイルを表示するアダプターの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ADPTADR

アダプターを識別するために、アダプター・アドレスが使用されます。

アダプター名

そのプロファイルを表示するアダプターの名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

アダプター・アドレス (ADPTADR)

12文字の16進数アダプター・アドレスを指定します。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

DSPLANADPPの例

DSPLANADPP LINE(DETBANCH) ADPTNAME(PAYROLL)

このコマンドは、回線DETBANCHに接続されているアダプターPAYROLLのプロファイルを表示します。

エラー・メッセージ： DSPLANADPP

*ESCAPEメッセージ

CPF8B44

アダプター・アドレスが必要である。

CPF8B46

アダプター・プロファイルを表示できない。ネットワーク・アダプター・ファイルに&29が見つかりません。

CPF8B68

回線記述&23が見つからない。

CPF8B69

要求した処置には回線記述&23は正しくない。

CPF8B70

ネットワーク回線記述&23はオンに構成変更されなかった。

CPF8B74

活動アダプターの表示要求が正常に実行されなかった。

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

CPF8B76

アダプターの機能アドレスがない。

[トップ](#)

LAN媒体ライブラリーの表示 (DSPLANMLB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

媒体ライブラリーLAN情報表示(DSPPLANMLB)コマンドは、通信回線に接続された媒体ムーバーで媒体ライブラリー装置を構成するために必要なAPPCネットワーク情報を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

回線記述 (LIND)

媒体ライブラリー装置を接続するために使用される回線記述を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPLANMLBの例

例1:回線記述のLAN情報の表示

```
DSPLANMLB LIND(TRNLINE) OUTPUT(*)
```

このコマンドは、媒体ライブラリー装置に接続された回線記述TRNLINEのLAN情報を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPLANMLB

*ESCAPE メッセージ

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF672E

回線記述&2は間違ったタイプです。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

[トップ](#)

LAN状況の表示 (DSPLANSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・エリア・ネットワーク状況表示(DSPLANSTS)コマンドは、活動状態のトークンリングまたは分散データ・インターフェース(DDI)回線の状況を表示します。

注: DDI回線の状況は、ローカル・アダプターから見たネットワークの状況です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LINE	回線記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *_PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

回線記述 (LINE)

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)管理機能によって使用される活動状態の回線記述名を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPLANSTSの例

DSPLANSTS LINE(NYBRANCH)

このコマンドは、回線記述NYBRANCHの状況を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPLANSTS

*ESCAPEメッセージ

CPF8B68

回線記述&23が見つからない。

CPF8B69

要求した処置には回線記述&23は正しくない。

CPF8B70

ネットワーク回線記述&23はオンに構成変更されなかった。

CPF8B74

活動アダプターの表示要求が正常に実行されなかった。

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

[トップ](#)

ライブラリー表示 (DSPLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー表示(DSPLIB)コマンドは、指定された1つまたは複数のライブラリーの内容を表示します。すなわち各ライブラリー中のオブジェクトの名前および属性のリストを表示します。ユーザー・プロファイル(*USRPRF)を除くすべてのオブジェクト・タイプの場合、オブジェクトは、オブジェクトに対する権限に関係なくオブジェクトのリストに表示されます。ユーザー・プロファイル(*USRPRF)オブジェクトの場合、オブジェクトはオブジェクトに対する何らかの権限（除外(*EXCLUDE)権限を除く）がある場合にだけ、オブジェクトのリストに表示されます。

このコマンドは、ライブラリーのリストを表示するためにも使用することができます。このリストから個々のライブラリーを選択してそのオブジェクトを表示することができます。画面には、各ライブラリーについて名前、タイプ、補助記憶域プール装置名、および記述テキストがリストされます。複数のライブラリーを表示する場合には、一度に1つずつ表示されます。

ライブラリーのオブジェクトの画面から、ライブラリー中のオブジェクトに関するより特定の情報を表示する画面を要求するための全オプションまたはサービス・オプションを指定することができます。

制約事項:

1. ライブラリーの内容を表示するには、指定する各ライブラリーに対する読み取り(*READ)権限が必要です。
2. ユーザー・プロファイル(*USRPRF)を除くすべてのオブジェクト・タイプの場合、オブジェクトは、オブジェクトに対する権限に関係なくオブジェクトのリストに表示されます。オブジェクトの全属性またはサービス属性を表示するには、オブジェクトに対する何らかの権限（除外(*EXCLUDE)権限を除く）が必要です。ユーザー・プロファイル(*USRPRF)オブジェクトの場合、オブジェクトはオブジェクトに対する何らかの権限(*EXCLUDE権限を除く）がある場合にだけ、オブジェクトのリストに表示されません。

注:

1. 印刷出力の場合には、ライブラリーの合計サイズ・フィールドには、ライブラリー中のオブジェクトのサイズとライブラリー・オブジェクト自体のサイズの合計が入ります。この値の後にプラス(+)符号が続いている場合には、ライブラリー中のオブジェクトはロックされているか、損傷しているか、あるいは認可されておらず、そのサイズは合計サイズ・フィールドに示されません。プラス符号は、すべてのオブジェクトの実際の合計が表示された値より大きいことを示しています。ライブラリーがQSYSである場合には、認可されていないユーザー・プロファイルはリストに表示されません。
2. **ライブラリー(LIB)**パラメーターに*ALL, *ALLUSR, *LIBL,または*USRLIBLが指定されていて、出力が印刷される場合には、ライブラリーの内容が印刷されます。これらの値の1つが指定され、出力が表示される場合には、ライブラリーのリストが表示され、このリストから個々のライブラリーを選択して、その詳しい画面を表示することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	単一値: *LIBL , *USRLIBL, *CURLIB, *ALLUSR, *ALL その他の値 (最大 15 回の繰り返し): 名前	オプションル, 定位置 1
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *ALLAVL, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプションル
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプションル, 定位置 2

トップ

ライブラリー (LIB)

表示または印刷される1つまたは複数のライブラリーを指定します。指定したライブラリーの読み取り (*READ)権限をもっていない場合には、そのライブラリーは表示されません。このパラメーターは単一値または1つまたは複数の名前のリストとして指定することができます。

単一値

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが表示されます。この値を使用する時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターを指定した場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*USRLIBL

現行スレッドのライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在する場合には、現行ライブラリーとライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが表示されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分のライブラリーだけが表示されます。この値を使用する時にASPDEVパラメーターを指定した場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*CURLIB

現行スレッドの現行ライブラリーが表示されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが表示されます。この値を使用する時にASPDEVパラメーターを指定した場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

***ALL** ASPDEVパラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)の中のすべてのユーザー・ライブラリーが表示されます。

*ALLUSR

ASPDEVパラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)の中のすべてのユーザー・ライブラリーとユーザー・データを含み、文字Qで始まっているライブラリーが表示されます。ユーザー・ライブラリーは、Q以外の文字で始まる名前を持つライブラリーのうち、次のものを除くすべてのライブラリーです。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、これらには一般的によく変更されるユーザー・データが収められます。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、これらも検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXXMX
```

QGPL	QSRVAGT	QUSRINFSKR
QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA
QMQRDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR
QMQRPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

その他の値

名前 表示されるオブジェクトが入っている1つまたは複数のライブラリーの名前を指定してください。最大15の名前を指定することができます。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

表示されるライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、必ず正しいライブラリーが表示されるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。**ライブラリー(LIB)**パラメーターに*CURLIB, *LIBL,または*USRLIBLを指定した時にこのパラメーターを使用する場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*
- 現在、スレッドのライブラリー名スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1)、すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。

*ALLAVL

使用可能なすべてのASPが検索されます。これには、システムASP (ASP 1)、すべての定義済みユーザー基本ASP (ASP 2-32)、およびすべての1次および2次ASP (状況が「使用可能」となっているASP 33-255)が含まれます。

*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2-32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

名前

検索される1次または2次ASP装置の名前を指定します。1次および2次ASPは(ASP装置をオンに変更することによって) 活動化されていなければならず、状況が「使用可能」になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2-32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合) , あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPLIBの例

例1:ライブラリーの表示

```
DSPLIB LIB(QGPL)
```

QGPLライブラリー内にあるすべてのオブジェクトの名前、タイプ、および基本記述は、このコマンドが投入されたワークステーションに表示されるか、コマンドがバッチ・ジョブで実行された場合には、システム印刷装置で印刷されます。

例2:独立補助記憶域プール(ASP)中のライブラリーの表示

```
DSPLIB LIB(INVENTORY) ASPDEV(SALES)
```

このコマンドは、SALESという名前の独立補助記憶域プール(ASP)中のINVENTORY ライブラリーにあるすべてのオブジェクトの名前、タイプ、および基本記述を、ライブラリー内のオブジェクトにある権限に関わらず表示します。SALES ASPは活動化されて (ASP装置をオンに構成変更することによって) , 状況が「使用可能」になっていなければなりません。情報は、このコマンドが投入されたワークステーションに表示されるか、コマンドがバッチ・ジョブで実行された場合には、システム印刷装置で印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPLIB

*ESCAPEメッセージ

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF210E

ライブラリー&1が使用できません。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2148

*DELETEDのマークが付けられたライブラリーは見つからない。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2179

ライブラリーを表示することができない。

CPF218C

&1は1次または2次ASPではない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ライブラリー記述の表示 (DSPLIBD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドは、ライブラリーの記述を表示します。この記述には、ライブラリーのタイプ、補助記憶域プール(ASP)番号、ASP装置、権限の作成、オブジェクト監査値の作成、およびテキスト記述が含まれています。

制約事項:除外(*EXCLUDE)権限があるライブラリーのライブラリー記述は、表示することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT -	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

記述が表示されるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 記述が表示されるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPLIBDの例

DSPLIBD LIB(QGPL)

このコマンドは、QGPLライブラリーのタイプ、ASP番号、ASP装置、作成権限值、オブジェクト作成監査値、およびテキスト記述を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPLIBD

*ESCAPEメッセージ

CPF210E

ライブラリー&1が使用できません。

CPF2115

&2のタイプ*&3のオブジェクト&1に損傷がある。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

ライブラリー・リスト表示 (DSPLIBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー・リスト表示(DSPLIBL)コマンドは、システム部分を含む現行スレッドのライブラリー・リストを表示し、さらにプロダクト・ライブラリー、現行ライブラリー項目、およびユーザー部分が存在していれば、それらも表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのspool出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのspool出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのspool出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPLIBLの例

DSPLIBL

現行スレッドのライブラリー・リストにあるライブラリーの名前、タイプ、補助記憶域プール(ASP)装置名、およびテキストが表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPLIBL

*ESCAPEメッセージ

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2148

*DELETEDのマークが付けられたライブラリーは見つからない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2179

ライブラリーを表示することができない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ライセンス・キー情報の表示 (DSPLICKEY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス・キー情報表示(DSPLICKEY)コマンドは、キーによる承諾付きのプロダクトのライセンス・リポジトリからソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するために使用することができます。「キーによる承諾」付きのプロダクトでは、ユーザーはライセンス情報の使用限界または満了日を変更するために、ソフトウェア販売会社からのソフトウェア・ライセンス・キーを持っている必要があります。

ライセンス・リポジトリは、固有のそれぞれのプロダクト、ライセンス条件、機能、およびシステムに対してプロダクト・ライセンス情報を記憶します。リポジトリにはシステムのライセンスを入れることができ、プロダクトを導入する必要はありません。

表示される情報には、プロセッサ・グループ、製造番号、ソフトウェア・ライセンス・キー、使用限界、満了日、および仕入れ先データが含まれます。

ライセンス・キー情報表示(DSPLICKEY)コマンドは、ライセンス・キー情報追加(ADDLICKEY)コマンドまたはライセンス・キー情報除去(RMVLICKEY)コマンドへの入力として使用できる出力ファイルを作成するためにも使用することができます。

制約事項:このコマンドは*EXCLUDE権限を共通認可として出荷されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PRDID	プロダクト識別コード	文字値, <u>*ALL</u>	オプション, 位置 1
LICTRM	ライセンス条件	文字値, <u>*ALL</u>	オプション, 位置 2
FEATURE	機能	文字値, <u>*ALL</u>	オプション, 位置 3
SERIAL	システム製造番号	文字値, <u>*LOCAL</u> , *REMOTE, *ALL	オプション
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT, *LICKEYFILE	オプション
LICKEYFILE	ライセンス・キー・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ライセンス・キー・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
LICKEYMBR	ライセンス・キー・メンバー	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	

プロダクト識別コード (PRDID)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するプロダクトの7桁の識別コードを指定します。

***ALL** すべてのプロダクト識別コードのソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

総称プロダクト識別コード*

表示するプロダクトの総称識別コードを指定してください。総称プロダクト識別コードは、総称名と同じように指定されます。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

プロダクト識別コード

プロダクトの7桁の識別コードを指定してください。

ライセンス条件 (LICTRM)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するライセンス条件を指定します。

***ALL** システムに見つかったすべてのライセンス条件のソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

ライセンス条件

ライセンス条件をVX, VXY,またはVXYMZの形式で指定してください。この場合に、XまたはYは0-9の数字、Zは0-9の数字またはA-Zの文字とすることができます。

機能 (FEATURE)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するPRDIDパラメーターで指定したプロダクトの機能を指定します。

***ALL** PRDIDパラメーターで指定したプロダクトのすべての機能のソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

機能 ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示する機能の番号を指定してください。

システム製造番号 (SERIAL)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するシステムの製造番号を指定してください。

*LOCAL

ローカル・システムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

*REMOTE

ローカル・システム以外のすべてのシステムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

***ALL** すべてのシステムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

システム製造番号

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するシステムの製造番号を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

このコマンドからの出力を表示するか、印刷するか、またはデータベース・ファイルに送るかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブで要求された場合には画面上に表示され、またバッチ・ジョブによって要求された場合にはジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*LICKEYFILE

ソフトウェア・ライセンス・キー情報は、出力ファイルに書き出されます。

[トップ](#)

ライセンス・キー・ファイル (LICKEYFILE)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報が書き出されるファイルの修飾名を指定します。このファイルが存在しない場合には、テンプレートとしてファイルQSYS/QALZAKEY を使用して作成されます。このファイルが存在する場合には、QSYS/QALZAKEYの形式でなければなりません。

ライセンス・キー・ファイルの名前は、次のライブラリーの値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

ライセンス・キー・ファイル

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を書き出すファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ライセンス・キー・メンバー (LICKYEMBR)

出力を書き出すデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーは次の通りに使用または作成されます。

- メンバーが存在する場合には、システムはこのパラメーターの2番目の要素を使用して新しいレコードを追加する前にそのメンバーを消去するかどうかを決定します。
- メンバーが存在しないでメンバー名も指定されていない場合には、システムはLICKYFILEパラメーターで指定された出力ファイルの名前でメンバーを作成します。
- メンバーが存在しないでデータベース・ファイル・メンバー名が指定された場合には、システムはそのメンバーを作成します。

出力を受け取るメンバーに指定できる値は次の通りです。

***FIRST**

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。

出力を受け取るメンバー

出力を受け取るメンバーの名前を指定してください。

指定できるメンバーに対して実行する操作の値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

DSPLICKEYの例

```
DSPLICKEY  PRDID(*ALL)  LICTRM(*ALL)  FEATURE(*ALL)
           SERIAL(*REMOTE)  OUTPUT(*LICKYFILE)
           LICKYFILE(KEYS)  LICKYEMBR(REMOTE *REPLACE)
```

このコマンドは、このシステムを除くすべてのシステムのすべてのプロダクト、機能、およびライセンス条件のソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示します。出力はファイルKEYSのメンバーREMOTEに入れます。既存のレコードは置き換えられます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPLICKEY

***ESCAPE**メッセージ

CPF9E58

ライセンス・キー情報が見つからなかった。

[トップ](#)

回線記述の表示 (DSPLIND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の表示(DSPLIND)コマンドにより、回線記述が表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*ALL, *BASIC, *SWTNWILST, *CTL, *SWTCTLLST, *ACTSWTCTL, *SSAP, *GRPADR, *FCNADR, *EORTBL, *LGLCHLE, *APPN, *PHYCHAR, *THRESHOLD, *TMRRTY	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

回線記述 (LIND)

表示される回線記述名を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

このパラメーターによって、情報を選択して表示することができます。すべての情報(*ALL)または特定の情報の表示を選択することができます。

***ALL** この回線と関連したすべての情報が表示されます。

***BASIC**

この回線タイプの基本特性だけが表示されます。

***SWTNWILST**

IDLC回線の作成または変更(CRT/CHGLINIDLC)コマンドの交換NWIリスト (**SWTNWILST**)パラメーターで指定されたネットワーク・インターフェース記述に関する情報だけが表示されます。

***CTL** この回線の活動状態の制御装置だけが表示されます。

***SWTCTLLST**

この交換回線の制御装置リストだけが表示されます。

***ACTSWTCTL**

この交換回線の活動状態の制御装置だけが表示されます。

***SSAP**

この回線のソース・サービス・アクセス・ポイントに関する情報だけが表示されます。

***GRPADR**

ETHERNET回線のグループ化アドレスに関する情報だけが表示されます。

***FCNADR**

このトークンリングの機能アドレスに関する情報だけが表示されます。

***EORTBL**

非同期回線のレコードの終わりテーブルに関する情報だけが表示されます。

***LGLCHLE**

X.25回線の論理チャンネル項目だけが表示されます。

***APPN**

拡張分散ネットワーク機能に関する情報だけが表示されます。

***PHYCHAR**

非同期回線の物理特性に関する情報だけが表示されます。

***THRESHOLD**

IDLC回線の限界値に関する情報だけが表示されます。

***TMRRTY**

この回線のタイマーおよび再試行オプションに関する情報だけが表示されます。

トップ

DSPLINDの例

DSPLIND LIND(LINE21)

このコマンドは、LINE21という名前の回線記述についての情報を表示します。情報は、コマンドが投入されたワークステーションの画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

トップ

エラー・メッセージ： DSPLIND

*ESCAPEメッセージ

CPF2601

回線記述&1が見つからない。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2626

回線記述は前に削除されている。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF268A

回線&2には&1は正しくない。

CPF2779

回線記述&1に損傷がある。

[トップ](#)

オブジェクト・リンクの表示 (DSPLNK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト・リンクの表示 (DSPLNK) コマンドは、ディレクトリー内の指定されたオブジェクトの名前とオブジェクトに関する情報を表示するためのオプションのリストを表示します。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

注: このコマンドの権限要件は、ファイル・システム、オブジェクト・タイプ、要求される操作などを考えると複雑です。したがって、このコマンドに要求される権限については、ISERIES機密保護解説書 (SD88-5027)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名, _	オプションル, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプションル, 定位置 2
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL , *ALLDIR, *ALRTBL, *AUTL, *BLKSF, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CHRSF, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DDIR, *DEVD, *DIR, *DOC, *DSTMF, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FIFO, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MBR, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSD, *OOPOOL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDL0D, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SOCKET, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *STMF, *SVRSTG, *SYMLNK, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプションル
DETAIL	詳細	*PRV , *NAME, *BASIC, *EXTENDED	オプションル
DSPOPT	表示オプション	*PRV , *USER, *ALL	オプションル

オブジェクト (OBJ)

表示するオブジェクトを指定します。

* 現行ディレクトリーのすべてのオブジェクトが表示されます。

オブジェクト・パス名

オブジェクトのパス名または表示するオブジェクトの名前を突き合わせるパターンを指定してください。オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

表示するオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

***ALL** 名前が**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されているパターンと一致するすべてのオブジェクトが表示されます。

*ALLDIR

すべてのディレクトリー・タイプ(DIR, LIB, FLR,およびデータベースFILE)が表示されます。

オブジェクト・タイプ

表示するオブジェクト・タイプを指定します。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

オブジェクト・リンクの表示 (DSPLNK)リストに表示する情報を指定します。

PRV** 前にこのコマンドを実行したときに表示されたのと同じ情報が表示されます。前にこのコマンドまたはオブジェクト・リンクの処理 (WRKLNK)コマンドを使用していない場合には、値BASIC**が使用されます。

***NAME**

名前だけが表示されます。

***BASIC**

名前と一緒にタイプ、タイプの属性、およびテキストが表示されます。

***EXTENDED**

上記の基本情報に加えて、タイプ・フィールドが拡張され、シンボリック・リンクおよびハードまたはシンボリック・リンクを表示するために使用可能な追加オプションに関する情報の続きが表示されます。

[トップ](#)

表示オプション (DSPOPT)

PCシステムおよび隠しオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

PRV** このパラメーターには、前にこのユーザーによってこのコマンドが実行された時と同じ値が使用されます。このコマンドが前に使用されていない場合には、USER**が使用されます。

***USER**

PCシステムおよび隠しオブジェクトは表示されません。指定されたパターンがピリオド(.)で始まっていない限り、ピリオド(.)で始まるオブジェクトは表示されません。

***ALL** PCシステムおよび隠しオブジェクトを含めて、すべてのオブジェクトが表示されます。ピリオド(.)で始まるオブジェクトが表示されます (パターンにはアスタリスク(*)を指定)。これにはディレクトリー(.)および親ディレクトリー(..)項目が含まれます。

[トップ](#)

DSPLNKの例

例1: オブジェクト・リンクの表示

```
DSPLNK OBJ('X/PAY')
```

このコマンドは、現行ディレクトリー内のディレクトリーXにあるオブジェクトPAYを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPLNK

*ESCAPEメッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

ログ表示 (DSPLOG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ログ表示(DSPLOG)コマンドでは、システムの活動記録ログ(QHST)を示します。活動記録ログには、システムおよびシステム状況の通常の操作に関する情報が含まれます。

この画面には、ログに送られたメッセージ、メッセージが送られた日付と時刻、およびメッセージを送ったジョブの名前が表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LOG	ログ	<u>QHST</u>	オプション、位置 1
PERIOD	ログ出力の期間	要素リスト	オプション、位置 2
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *BEGIN	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *END	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *PRTWRAP, *PRTSECLVL	オプション
JOB	表示するジョブ	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 修飾ジョブ名	オプション、位置 3
	修飾子 1: 表示するジョブ	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
MSGID	メッセージ識別コード	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 100 回の繰り返し): 名前	オプション

[トップ](#)

ログ (LOG)

システム上の表示されるログを指定します。

QHST システムの活動記録ログQHSTが示されます。

[トップ](#)

ログ出力の期間 (PERIOD)

ログされたメッセージ・データが示される期間を指定します。このパラメーターには、それぞれが2つの要素を持つ2つの要素リストが含まれています。後続の要素値が指定される場合には、パラメーター値順序の中でその位置を保つために、最初の要素には値または*Nを指定する必要があります。PERIODが指定されない場合には、次の値とみなされます。

PERIOD((*AVAIL *CURRENT) (*AVAIL *CURRENT))

要素 1 :開始時刻および日付

要素 1 :開始時刻

次の1つを使用して、その時またはそれ以後データがログされていない開始時刻を指定します。指定された日時以前にログされている項目があっても示されません。

*AVAIL

指定された開始日付に使用可能な、ログされたすべてのデータが示されます。

開始時刻

ログされたデータの表示を示す指定された開始日付の開始時刻を指定します。この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(**HHMM**または**HHMMSS**)を指定してください。ここで、**HH** =時、**MM** =分、および**SS** =秒です。時、分、および秒はそれぞれ正確に2桁としなければなりません。必要な場合には、先行ゼロを使用してください。**HH**に有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**に有効な値の範囲は00から59です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素 2 :開始日付

次の1つを使用して、その日またはそれ以後データがログされていない開始日付を指定します。指定された日付以前にログされている項目があっても示されません。

*CURRENT

本日の指定された開始時刻と終了時刻（指定されている場合）の間にログされたデータが示されます。

*BEGIN

ログの始めからログされたデータが表示されます。

開始日付

開始日付を指定します。この日付は、システム値QDATFMT（区切り記号を使用する場合にはQDATSEP）で指定された形式で入力しなければなりません。

要素 2 :終了時刻および日付

注: 出力が表示装置で表示される場合には、終了日付および時刻に指定された値は無視されます。すなわち、指定された終了日付および時刻に関係なく、指定された開始日付および時刻以降にログ中にログされたすべてのデータが表示可能です。

要素 1 :終了時刻

次の1つを使用して、それ以前にデータがログされていなければならない終了時刻を指定します。

***AVAIL**

指定された終了日付に使用可能な、ログされたすべてのデータが示されます。

終了時刻

ログされたデータの印刷を判別する指定された終了日付の終了時刻を指定します。時刻を入力できる形式については、**開始時刻**を参照してください。

要素 2 :終了日付

次の1つを使用して、それ以前またはその日にデータがログされていなければならない終了日付を指定します。

***CURRENT**

現行日が、ログされたデータが示される最後の日です。

END** データがログされた最後の日付が、ログ・データを表示する最後の日付です。END**を指定した場合には、終了時刻の***AVAIL**以外の値は無視されます。

終了日付

ログされたデータが印刷される終了日付を指定してください。この日付は、システム値 QDATFMT (区切り記号を使用する場合にはQDATSEP)で指定された形式で入力しなければなりません。

注: ***PRINT**が指定されたコマンドDSPLOGが実行された後で出力が受け取られていない場合には、一部のメッセージ・データの日付の順序が違っていることがあります。この場合にデータを印刷するには、次を指定してください。

```
PERIOD((*AVAIL *BEGIN)(*AVAIL *END))
```

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元表示装置に表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

***** 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。各メッセージごとに1行のメッセージ・テキストだけが印刷されます。これは、第1レベル・メッセージ・テキストの最初の105文字となります。

***PRTWRAP**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。メッセージが1行に収まらない場合には、第1レベル・メッセージ・テキストの最大2000文字まで収容できるように追加の行が印刷されます。

***PRTSECLVL**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。メッセージの第1と第2レベルのテキストが両方とも印刷されます。第1レベル・テキストの2000文字、および第2レベル・テキストの6000文字までが印刷されます。

出力が印刷される時には、各メッセージごとに2行以上が印刷されます。最後の行には、次の情報が含まれます。

- メッセージを送ったジョブの修飾ジョブ名。これは次の3つのフィールドから構成されます。
 - ジョブ名
 - ユーザー名
 - ジョブ番号
- メッセージが送られた日付および時刻。
- メッセージが送られた時にスレッドが実行されていたユーザー・プロファイルの名前。

トップ

表示するジョブ (JOB)

ログの中のメッセージが表示されるジョブを指定します (ある場合)。指定されたジョブと関連したメッセージが示されるのは、このコマンドで指定された期間にログされている場合に限られます。

単一値

***NONE**

ジョブ名を使用してどのメッセージが示されるかの指示はしません。

その他の値

修飾ジョブ名

ログされたメッセージが示される5つまでのジョブの名前を指定してください。ジョブ名は、最大3つの要素によって修飾することができます。たとえば、次の通りです。

- ジョブ名
- ユーザー名/ジョブ名
- ジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名

ジョブ名が修飾されない場合は、ログの中の指定されたジョブのすべてのメッセージが表示されることとなります。

トップ

メッセージ識別コード (MSGID)

表示されるログされたメッセージのメッセージ識別コード（もしあれば）を最大100まで指定します。これらのメッセージが示されるのは、それが**ログ出力の期間 (PERIOD)**パラメーターに指定された期間内に、**表示するジョブ (JOB)**パラメーターに指定されたジョブの中でログされている場合だけです。

単一値

***ALL** ログされたメッセージは、前のジョブおよび時刻指定に適合している場合は、その識別コードに関係なく、すべて示されます。

その他の値

メッセージ識別コード

示されるメッセージの識別コードを指定します。

メッセージの特定の総称タイプを表示するには、メッセージ・ファイルを識別する3文字のコードと、それに続けてすべてゼロを指定します。たとえば、CPF0000は直前のパラメーターの指定を満たすすべてのCPFメッセージが示されることを指定します。識別コードをPPPNN0として指定した場合には、指定された5文字(PPPNN)で始まるすべてのメッセージを示すことができます。メッセージ識別コードの詳細については、メッセージ記述追加(ADDMSGD)コマンドのMSGIDパラメーターの説明を参照してください。

[トップ](#)

DSPLOGの例

例1: 現在日付でログされたメッセージの表示

```
DSPLOG LOG(QHST)
```

このコマンドは、現在日付で活動記録ログ内で使用可能な、ログされたすべてのメッセージ（およびその関連するデータ）を表示します。

例2: 1988年9月にログされたメッセージの表示

```
DSPLOG JOB(MYJOB) PERIOD>(*AVAIL 090199) (*AVAIL 093099)
      MSGID(CPF0000)
```

このコマンドは、1999年9月中にログされた、MYJOBの活動記録ログ内のすべてのCPFメッセージを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPLOG

*ESCAPEメッセージ

CPF2403

&2にメッセージ待ち行列&1が見つからない。

CPF2447

ログの現在のバージョンには項目が存在しない。

CPF2478

ログの要求したバージョンは認可されていない。

CPF2480

ログの要求されたバージョンに損傷がある。

CPF2519

メッセージIDリストの処理中に、エラーが起こった。

CPF2537

&3のファイル&2に書き込まれたレコード数が多すぎる。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

マウントFS情報の表示 (DSPMFSINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

マウント・ファイル・システム情報表示(DSPMFSINF)コマンドは、マウント・ファイル・システムについての情報を表示します。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- STATFS

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

マウント・ファイル・システム内にあり、統計を表示するオブジェクトのパス名を指定します。マウント・ファイル・システム中のすべてのオブジェクトを指定することができます。たとえば、ディレクトリー(*DIR)またはストリーム・ファイル(*STMF) などとすることができます。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPMFSINFの例

例1: マウント・ファイル・システムの統計の表示

```
DSPMFSINF OBJ('/JSMITH/FILE1')
```

このコマンドは、*/JSMITH/FILE1*が入っているマウントされたファイル・システムの統計を表示します。

例2: QSYS.LIBファイル・システムの統計の表示

```
DSPMFSINF OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE')
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBの*FILEオブジェクトMYFILEが入っているQSYS.LIBファイルの統計を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPMFSINF

*ESCAPEメッセージ

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

メニュー属性表示 (DSPMNUA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メニュー属性表示(DSPMNUA)コマンドは、指定されたメニューについて次の情報を表示します。

- メニュー・タイプ
- プログラム・メニューのプログラム名およびライブラリー
- 表示装置ファイル名および表示装置ファイル・メニューのライブラリー
- メッセージ・ファイル名および表示装置ファイル・メニューのライブラリー
- 表示装置ファイル・メニューに表示されるコマンド入力行のタイプ
 - *LONG
 - *SHORT
 - *NONE (オプション行が使用されます)
- 表示装置ファイル・メニューに、活動状態の機能キーの説明を表示するかどうか
- 現行ライブラリー
- プロダクト・ライブラリー
- 記述テキスト

制約事項:

- メニューに対する使用(*USE)権限、およびメニューが入っているライブラリーに対する*USE権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MENU	メニュー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メニュー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	* -, *PRINT	オプション

[トップ](#)

メニュー (MENU)

属性が表示されるメニューを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メニュー

名前 メニュー・オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メニューを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メニューが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

***** 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPMNUAの例

DSPMNUA MENU(PAYROLL)

このコマンドは、名前PAYROLLのメニューの属性を表示装置に（このコマンドを対話式に実行した場合）表示します。このメニューは、ライブラリー・リスト（省略時の値*LIBL）の検索によって見付けられます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPMNUA

*ESCAPE メッセージ

CPF6ACD

&2のメニュー&1がシステムのバージョンと違っている。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

モジュールの表示 (DSPMOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モジュールの表示(DSPMOD)コマンドは、モジュールに関する情報を表示します。この表示には、コンパイラに関する情報、モジュールを作成した元のソース、モジュールの処理属性、およびモジュールのサイズが含まれます。

制約事項:

- 表示しようとするモジュールに対する使用(*USE)権限およびそのモジュールの保管先のライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODULE	モジュール	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: モジュール	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DETAIL	詳細	単一値: *ALL その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *BASIC, *SIZE, *EXPORT, *IMPORT, *PROCLIST, *REFSYSOBJ, *COPYRIGHT	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 3
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

トップ

モジュール (MODULE)

情報を表示する対象のモジュールを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: モジュール

名前 情報が表示されるモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

モジュールのどの情報セットを表示するかを指定します。

単一値

***ALL** 指定されたモジュールに適用可能なすべての情報が表示または印刷されます。

注: DETAIL(*ALL)が有効となるのは、情報を表示または印刷する場合だけです。*OUTFILEが出力(OUTPUT)パラメーターに指定する場合は、無効です。

その他の値 (最大 7 回の反復)

*BASIC

モジュール基本情報、モジュール互換性セクション、およびSQL情報が表示されます。

***SIZE** このモジュールのサイズおよびサイズの限界が表示されます。

*EXPORT

他のモジュールにエクスポートされる、このモジュールに定義された記号が表示されます。

*IMPORT

このモジュールの外部的に定義された記号が表示されます。

*PROCLIST

そのタイプおよび優先順位をもつプロシージャ名のリストが表示されます。

*REFSYSOBJ

バインドされた1つのプログラムまたはサービス・プログラムにモジュールをバインドする時に、このモジュールによって参照されるシステム・オブジェクトのリストが表示されます。

*COPYRIGHT

このモジュールの著作権情報が表示されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

このコマンドからの出力を表示するか、印刷するか、またはデータベース・ファイルに送るかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: 256桁を超えるプロシージャ名が見つかって値*OUTFILEが指定されている場合には、プロシージャ名の最後の253文字が出力ファイルに入れられて、その前に3つの不等号(<<<)文字が付けられます。この不等号(<<<)文字は、この名前が部分名のみであることを示します。ジョブ・ログには、使用可能なすべての情報が戻されていないことを示す診断メッセージCPD5D12が送られます。同じメッセージが、モニター可能なコマンド処理プログラム(CPP)の呼び出し側プログラムに、状況メッセージとして送られます。ユーザーは、モジュール情報検索(QBNRMODI)またはモジュール情報リスト(QBNLMODI) APIを使用して、このプロシージャの完全な名前を見つけることができます。

注: DETAIL(*ALL)が有効なのは、OUTPUT(*OUTFILE)が指定された場合だけです。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

このコマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。出力ファイルが存在しない場合に、このコマンドは、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、このテキストは「DSPMODの出力ファイル」となります。このファイルの一般ユーザー権限は、ファイルを作成するライブラリーに指定した作成権限と同じです。出力ファイルのレコード様式は、弊社提供のデータベース・ファイルで使用されるものと同じです。

注: 256桁を超えるプロシージャ名が見つかって値*OUTFILEが指定されている場合には、プロシージャ名の最後の253文字が出力ファイルに入れられて、その前に3つの不等号(<<<)文字が付けられます。この不等号(<<<)文字は、この名前が部分名のみであることを示します。ジョブ・ログには、使用可能なすべての情報が戻されていないことを示す診断メッセージCPD5D12が送られます。同じメッセージが、モニター可能なコマンド処理プログラム(CPP)の呼び出し側プログラムに、状況メッセージとして送られます。ユーザーは、モジュール情報検索(QBNRMODI)またはモジュール情報リスト(QBNLMODI) APIを使用して、このプロシージャの完全な名前を見つけることができます。

弊社提供データベース・ファイルおよびレコード様式は次の通りです。

明細:	ファイル:	レコード様式:
*BASIC	QABNDMBA	QBNDMBAS
*SIZE	QABNDMSI	QBNDMSIZ
*EXPORT	QABNDMEX	QBNDMEXP
*IMPORT	QABNDMIM	QBNDMIMP
*PROCLIST	QABNDMPR	QBNDMPRO
*REFSYSOBJ	QABNDMRE	QBNDMREF
*COPYRIGHT	QABNDMCO	QBNDMCOP

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 このコマンドの出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力が送られる先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーがすでに存在している場合には、システムがこのパラメーターの2番目の要素を使用して、新しいレコードが追加される前にそのメンバーが消去されるかどうかを判別します。メンバーが存在していなくて、メンバー名を指定しない場合は、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定された出力ファイルの名前でメンバーを作成します。出力ファイル・メンバー名を指定しているが、メンバーが存在していない場合は、システムがそれを作成します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、ファイル・メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

DSPMODの例

DSPMOD MODULE(MYMOD)

このコマンドは、ライブラリー・リストからモジュール・オブジェクトMYMODを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPMOD

*ESCAPEメッセージ

CPF5CE7

*MODULEデータの検索中にエラーが起こった。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

*STATUS メッセージ

CPD5D12

1つまたは複数のレコードに不完全な値がある。

[トップ](#)

モード記述表示 (DSPMODD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード記述表示(DSPMODD)コマンドにより、モード記述が表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODD	モード記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	* -, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

モード記述 (MODD)

表示されるモード記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPMODDの例

```
DSPMODD  MODD(CICS2)
```

このコマンドは、モード記述CICS2についての情報を表示します。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

エラー・メッセージ： DSPMODD

*ESCAPEメッセージ

CPF260A

モード記述&1が見つからない。

CPF262B

モード記述&1は前に削除されている。

CPF262C

モード記述&1に損傷がある。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

モジュール・ソースの表示 (DSPMODSRC)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モジュール・ソース表示(DSPMODSRC)コマンドによって、バインド済みプログラムをデバッグするソース・デバッグ画面を表示することができます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

DSPMODSRCの例

DSPMODSRC

このコマンドは、デバッグされるプログラムのソース・デバッグ画面を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPMODSRC

なし

[トップ](#)

モード状況表示 (DSPMODSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード状況表示(DSPMODSTS)コマンドは、APPC/APPN装置記述に関連したすべてのモードの状況を表示します。画面には、APPC/APPN装置の状況、使用中のソース、ターゲット、および切り離された会話の現在の数、および操作セッションの最大値が表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1
MODE	モード	通信名, <u>*ALL</u>	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

装置 (DEV)

APPC装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

モード (MODE)

状況が表示されるモードの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 指定した装置で使用されるすべてのモードが表示されます。

モード名

指定した装置に対して状況が表示されるモードの名前（最大8文字）を指定します。

BLANK

8個の空白文字のモード名が表示されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

DSPMODSTSの例

```
DSPMODSTS  DEV(MINN2)  MODE(CICS2)
```

このコマンドは、装置MINN2によって使用されたモードCICS2の状況を表示します。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

エラー・メッセージ： DSPMODSTS

*ESCAPEメッセージ

CPF2625

オブジェクトを割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクトは認可されていない。

CPF2688

装置がモード情報を受け取るための適切な状況にない。

CPF2698

装置にモードが見つからなかった。

CPF2702

装置記述が見つからない。

CPF2706

装置は*APPCタイプの装置でない。

CPF9850

印刷装置ファイルの一時変更は許されない。

トップ

メッセージ表示 (DSPMSG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ表示(DSPMSG)コマンドは、指定されたメッセージ待ち行列で受け取ったメッセージを表示するために、表示装置ユーザーによって使用されます。メッセージ待ち行列がこのコマンドの入力されるジョブにも、また他のどのジョブにも割り振られていない場合には、このコマンドの処理中、このコマンドによってメッセージ待ち行列が暗黙に割り振られます。メッセージが表示される時には、ユーザーが待ち行列から1つまたは複数のメッセージを除去したり、各照会メッセージに対する応答を入力したりできるオプションも表示されます。

注: 1つまたは1グループのメッセージ記述を印刷する方法については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「システム操作の基本」情報にある「メッセージの処理」というタイトルを持つセクションを参照してください。

制約事項:

- *EXCLロック状態で作動するALCOBJコマンドを指定することによって別のジョブがすでにメッセージ待ち行列を割り振っている時には、DSPMSGを指定することはできません。
- メッセージ待ち行列が別のジョブに対して*BREAKまたは*NOTIFYモードになっている時には、ユーザーはDSPMSGコマンドを使ってジョブのメッセージを表示できますが、除去することはできません。
- メッセージ待ち行列が別のジョブに対して*BREAKモードになっている時には、ユーザーが照会メッセージに応答できるかどうかは、メッセージ待ち行列の中断処理プログラムによって決まります。PGM(*DSPMSG)が指定されている場合には、ユーザーは照会メッセージに応答できますが、PGM(ユーザー・プログラム)が指定されている場合には、照会メッセージに応答できません。
- 複数のジョブが同じ照会メッセージを表示し、すべてのジョブがそのメッセージに回答した場合には、そのメッセージに対する最初の回答のみが有効となります。他のジョブから後続の回答があると、エラー・メッセージが出されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *WRKUSR , *SYSOPR, *USRPRF, *WRKSTN その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTPUT	出力	* , *PRINT, *PRTWRAP	オプション
MSGTYPE	メッセージ・タイプ	*ALL , *INFO, *INQ, *COPY	オプション
START	最初に表示するメッセージ	*LAST , *FIRST	オプション
SEV	重大度コード・フィルター	0-99, 0 , *MSGQ	オプション
ASTLVL	援助レベル	*PRV , *USRPRF, *BASIC, *INTERMED	オプション

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

表示されるメッセージが入っているメッセージ待ち行列を指定します。

注:このパラメーターに特殊値*WRKSTN, *WRKUSR,および*SYSOPRを指定する必要があるのは、対話式ジョブを行っている時だけです。

単一値

***WRKUSR**

ワークステーションのメッセージ待ち行列にメッセージがある場合は、メッセージはそこから示されます。ユーザーがその画面を終了した後に、現行ユーザーのユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からメッセージが示されます。ワークステーションのメッセージ待ち行列にメッセージがない場合は、ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からのメッセージだけが示されません。

***SYSOPR**

システム操作員メッセージ待ち行列(QSYSOPR)からのメッセージが表示されます。

***WRKSTN**

メッセージは、ワークステーション自体のメッセージ待ち行列から示されます。

***USRPRF**

現行のユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からのメッセージが表示されます。

修飾子 1: メッセージ待ち行列

メッセージ待ち行列名

表示されるメッセージが入っているメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

- * 出力は表示される(対話式ジョブによって要求された場合)か、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます(バッチ・ジョブによって要求された場合)。即時メッセージは長さを512バイトとすることができます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRTWRAP**

出力はジョブのスパール出力を使用して印刷され、メッセージ・テキストをスパール出力の1行に切り捨てる*PRINT値と比較して、切り捨ては行われません。

出力が印刷される時には、各メッセージごとに2行以上が印刷されます。最後の行には、次の情報が含まれます。

- メッセージを送ったジョブの修飾ジョブ名。これは次の3つのフィールドから構成されます。
 - ジョブ名
 - ユーザー名
 - ジョブ番号
- メッセージを送ったプログラムの名前。
- メッセージを送ったプログラム内の命令番号。非プログラム・メッセージ待ち行列の場合には、これは常にゼロです。
- メッセージが送られた日付および時刻。
- メッセージが送られた時にスレッドが実行されていたユーザー・プロファイルの名前。

トップ

メッセージ・タイプ (MSGTYPE)

表示されるメッセージ待ち行列中のメッセージのタイプを指定します。

***ALL** メッセージ待ち行列中のすべてのメッセージが表示されます。

***INFO** 通知メッセージ（応答を必要としないもの）だけが示されます。

***INQ** 照会メッセージ（応答を必要とするもの）だけが示されます。

***COPY**

他のメッセージ待ち行列に送られ、なお応答を必要とした照会メッセージのコピーが示されます。

トップ

最初に表示するメッセージ (START)

最初に示されるのは、メッセージ待ち行列の中の最も新しいメッセージか最も古いメッセージかを指定します。メッセージ・リストが複数の画面を占める場合には、表示装置のユーザーは画面を上方または下方に送って他のメッセージを見ることができます。

***LAST** 中間ビュー（メッセージの表示）が表示される場合には、メッセージ待ち行列上の最後の（最も新しい）メッセージが画面の最下行に表示されます。

基本ビュー（メッセージの処理）が表示される場合には、MSGQ上の最後の（最も新しい）メッセージが画面の最上行に表示されます。表示装置のユーザーはPAGE UP（前ページ）キーを押してより古いメッセージを表示することができます。

***FIRST**

中間ビュー（メッセージの表示）が表示される場合には、メッセージ待ち行列上の最初の（最も古い）メッセージが画面の最上行に表示されます。

基本ビュー（メッセージの処理）が表示される場合には、メッセージ待ち行列上の最初の（最も古い）メッセージが画面の最下部に表示されます。表示装置のユーザーはPAGE DOWN（次ページ）キーを押してより新しいメッセージを表示することができます。

トップ

重大度コード・フィルター (SEV)

メッセージがもっている、中断または通知モードでユーザーに配布される最低の重大度レベルを指定します。ここで指定された重大度レベルより低い重大度レベルをもつメッセージがメッセージ待ち行列に到着した場合には、ジョブは中断されず、メッセージ待機中ライトはオンになりません。このようなメッセージはメッセージ表示(DSPMSG)コマンドによって表示されるまで、待ち行列に保留されます。

00 指定されたメッセージ待ち行列中のすべてのメッセージが表示されます。

***MSGQ**

メッセージ待ち行列に指定された重大度コードより大きいか等しい重大度コードを持つすべてのメッセージが表示されます。

重大度コード

メッセージが持つことができ、しかも示され得る最低の重大度コードを指定する00~99の範囲の値を指定します。

トップ

援助レベル (ASTLVL)

表示するユーザー・インターフェースを指定します。

***PRV** 使用された前のユーザー・インターフェースが表示されます。

***USRPRF**

現行ユーザー・プロファイルに記憶されているユーザー・インターフェースが使用されます。

***BASIC**

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

注: このユーザー・インターフェースはメッセージを次の2つのカテゴリーに分類します。(1) 応答が必要なメッセージ、および(2) 応答が必要でないメッセージ。新しいメッセージは各リストの最上部に表示されます。

***INTERMED**

システム・ユーザー・インターフェースが使用されます。

注: DSPMSGコマンドのオンライン・ヘルプ情報は、*INTERMEDユーザー・インターフェースが表示されているとみなします。*BASICユーザー・インターフェースが表示された場合には、メッセージ処理(WRKMSG)コマンドのオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

[トップ](#)

DSPMSGの例

例1:ワークステーション・メッセージ待ち行列およびユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からのメッセージの表示

DSPMSG

このコマンドは、要求元のワークステーション・メッセージ待ち行列のメッセージに続いて、ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列のメッセージを表示します。ワークステーション待ち行列にメッセージがない場合には、ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列がただちに表示されます。

例2:通知メッセージの表示

DSPMSG MSGQ(SMITH) MSGTYPE(*INFO)

このコマンドは、要求元のワークステーションで、SMITHという名前のメッセージ待ち行列のすべての通知メッセージを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPMSG

***ESCAPEメッセージ**

CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF2401

ライブラリー&1の使用を許可されていません。

CPF2403

&2にメッセージ待ち行列&1が見つからない。

CPF2408

メッセージ待ち行列&1は認可されていない。

CPF2433

システム・ログ・メッセージ待ち行列&1にこの機能を使用することはできない。

CPF2450

ワークステーション・メッセージ待ち行列&1がジョブに割り振られていない。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF2477

メッセージ待ち行列&1は現在使用中である。

CPF2513

メッセージ待ち行列&1を表示することができない。

CPF2537

&3のファイル&2に書き込まれたレコード数が多すぎる。

CPF8127

&9のメッセージ待ち行列&4に&8の損傷がある。VLICログは&7です。

CPF8176

装置記述&4のメッセージ待ち行列に損傷がある。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

メッセージ記述表示 (DSPMSGD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ記述表示(DSPMSGD)コマンドによって、メッセージ・ファイル中のメッセージに関する詳細な情報が表示されます。1つのメッセージ・ファイルの特定のメッセージまたはある範囲のメッセージの記述をその識別コードによって指定するか、あるいは1つのメッセージ・ファイルのすべてのメッセージを指定することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RANGE	メッセージ識別コードの範囲	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: 下限値	名前, *FIRST	
	要素 2: 上限値	名前, *ONLY, *LAST	
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション、位置 2
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前, <u>QCPFMSG</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
DETAIL	詳細	*BASIC, *FULL	オプション
FMTTXT	メッセージ・テキストの形式	*YES, *NO	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

メッセージ識別コードの範囲 (RANGE)

そのメッセージ記述を表示または印刷するために指定されたメッセージ・ファイル中のメッセージ識別コードの範囲を指定します。このパラメーターに*ALLを指定することによって、**メッセージ・ファイル (MSGF)**パラメーターに指定されたメッセージ・ファイル内のすべてのメッセージ記述を表示または印刷することができます。

開始メッセージ識別コードが指定されていない場合には、メッセージ記述は指定されたメッセージ・ファイル内の最初のメッセージで始まります。

注: DETAIL(*BASIC)がOUTPUT(*)と一緒に指定され、メッセージ識別コードのリストが対話式で表示される場合には、終了メッセージ識別コードは無視されます。

単一値

***ALL** 指定されたメッセージ・ファイルの中のすべてのメッセージ記述が表示または印刷されます。この値はこのパラメーターの最初の要素にだけ指定することができます。

要素 1：下限値

このパラメーターの、開始メッセージ識別コードと呼ばれる最初の要素は、表示または印刷する最初のメッセージ記述のメッセージ識別コードを指定します。

*FIRST

メッセージ・ファイル (MSGF)パラメーターに指定されたファイル内の最初のメッセージが、その記述が表示または印刷される最初のメッセージとなります。

下限値 表示または印刷する最初のメッセージ記述の 7 文字の識別コードを指定してください。

要素 2：上限値

このパラメーターの、終了メッセージ識別コードと呼ばれる 2 番目の要素は、印刷する最後のメッセージ記述のメッセージ識別コードを指定します。OUTPUT(*)が指定されている場合には、この値は無視されます。

*ONLY

開始メッセージ識別コードとして指定されたメッセージ識別コードの記述だけが印刷されます。

***LAST** ファイルの最後のメッセージの記述が、最後に印刷されるメッセージです。

上限値 印刷する最後のメッセージ記述の 7 文字の識別コードを指定してください。

[トップ](#)

メッセージ・ファイル (MSGF)

表示されるメッセージ記述が入っているメッセージ・ファイルを指定します。

修飾子 1：メッセージ・ファイル

QCPFMSG

メッセージ記述はメッセージ・ファイルQCPFMSGから表示されます。

名前 表示されるメッセージ記述が入っているメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子 2：ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

表示または印刷するメッセージに関する詳細の量を指定します。

***FULL** 詳細なメッセージ記述が表示または印刷されます。出力 (OUTPUT)パラメーターに*PRINTが指定された場合には、詳細な記述が印刷されます。出力 (OUTPUT)パラメーターにアスタリスク(*)が指定された場合には、ユーザーが表示する詳細を選択できるメニューが示されます。

***BASIC**

指定されたメッセージ識別コードのリスト、それらの重大度、および第1レベルのメッセージを表示または印刷することを指定します。

トップ

メッセージ・テキストの形式 (FMTEXT)

メッセージおよびヘルプ情報を定様式で表示または印刷するかどうかを指定します。

***YES** メッセージおよびヘルプ情報は定様式で表示または印刷されます。

***NO** メッセージおよびヘルプ情報は不定様式で表示または印刷されます。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

DSPMSGDの例

例1:記述の表示または印刷

```
DSPMSGD RANGE(CPF1100 CPF3600) MSGF(QSYS/QCPFMSG)
```

このコマンドが表示装置から入力された場合には、指定されたメッセージの記述が表示装置で表示されます。このコマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、メッセージの記述はジョブのスパール出力待ち行列に送られます。

例2:メッセージ記述の印刷

```
DSPMSGD RANGE(*FIRST IDU0571) MSGF(QIDU/QIDUMSG)
          FMTEXT(*NO) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、次の範囲にあるファイルのメッセージ識別コードについてメッセージ記述を印刷します。QIDUMSGメッセージ・ファイルの最初のメッセージから識別コードがIDU0571のメッセージまで。メッセージ記述は不定様式です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPMSGD

*ESCAPEメッセージ

CPF2401

ライブラリー&1の使用を許可されていません。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF2483

メッセージ・ファイルは現在使用中である。

CPF2510

&2のメッセージ・ファイル&1に論理的な損傷がある。

CPF2515

メッセージIDの範囲が正しくない。

CPF2516

&2の表示装置または印刷装置ファイル&1をオープンすることができない。

CPF2519

メッセージIDリストの処理中に、エラーが起こった。

CPF2537

&3のファイル&2に書き込まれたレコード数が多すぎる。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

通称の表示 (DSPNCK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ニックネーム表示(DSPNCK)コマンドは、システム配布ディレクトリー中のニックネームについてデータベース出力ファイルを表示、印刷、または作成するために使用されます。

ニックネームは、ディレクトリー項目または配布リスト名を短く縮めたものです。ニックネームの詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

このコマンドの出力は次のように送られます。

- 表示出力の場合には、省略時の値はすべてのニックネームのリストの表示です。ニックネームが指定されると、そのニックネームだけの明細情報が表示されます。
- 印刷出力またはデータベース・ファイル出力の場合には、省略時の値はユーザーがアクセスできるすべてのニックネームの書き込みです。ニックネームが指定されると、そのニックネームだけの明細情報が出力ファイルに書き込まれます。

制約事項: 所有者でなければ私用ニックネームを表示することはできません。自分が所有している私用ニックネームまたは共用ニックネームを表示するには特殊権限は不要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NCK	通称	要素リスト	オプションル、位置 1
	要素 1: 通称	文字値, <u>*ALL</u>	
	要素 2: アクセス	<u>*PRV</u> , *ALL, *PRIVATE, *PUBLIC	
TYPE	通称のタイプ	<u>*ALL</u> , *USER, *LIST	オプションル
OWNER	所有者	名前, <u>*ALL</u> , *CURRENT	オプションル、位置 2
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプションル、位置 3
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプションル、位置 4
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプションル
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	

[トップ](#)

通称 (NCK)

表示, 印刷, またはデータベース・ファイルに書き込むニックネームを指定します。

指定できるニックネームの値は次の通りです。

***ALL** システム配布ディレクトリー中のすべてのニックネームが出力用に送られます。

ニックネーム

明細情報を出力用に送るニックネームを指定してください。

指定できるニックネーム・アクセスの値は次の通りです。

***PRV** ニックネームを表示, 選択, または処理するために現行ユーザーによって指定された最後のアクセスが使用されます。

***ALL** ユーザーがアクセスできるすべてのニックネームが出力用に送られます。これには, ユーザーが所有する私用ニックネームおよびシステム配布ディレクトリー中のすべての共用ニックネームが含まれます。

*PRIVATE

ユーザーが所有する私用ニックネームが出力用に送られます。

*PUBLIC

システム配布ディレクトリー中のすべての共用ニックネームが出力用に送られます。

[トップ](#)

通称のタイプ (TYPE)

表示, 印刷, またはデータベース・ファイルに書き込むニックネームのタイプ (ユーザーまたはリスト) を指定します。

***ALL** ユーザーとリスト・タイプの両方のすべてのニックネームが出力用に送られます。

*USER

ユーザー・ニックネームが出力用に送られます。

***LIST** リスト・ニックネームが出力用に送られます。

[トップ](#)

所有者 (OWNER)

表示, 印刷, またはデータベース・ファイルに書き込むニックネームの所有者を指定します。

***ALL** すべてのユーザー・プロファイルが所有するニックネームが出力用に送られます。これには, ユーザーがアクセスできない私用ニックネームは含まれません。

*CURRENT

現行ユーザーが所有するニックネームが出力用に送られます。

ユーザー・プロファイル名

出力用に送るニックネームを所有する所有者のユーザー・プロファイルを指定してください。

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力が要求元のワークステーションに表示するか、ジョブのプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに書き込むかを指定します。

*
- 対話式ジョブで要求された出力は画面上に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、OUTFILEパラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力が送られるデータベース・ファイルの名前を指定します。このファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリーにこのデータベース・ファイルを作成します。作成されたファイルのテキストは「DSPNCKの出力ファイル」で、共通認可は*EXCLUDEです。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定された時には、このパラメーターは必須です。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

データベース・ファイル名

出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、このファイルは指定されたライブラリーに作成されます。このファイルが存在せず、ライブラリーが指定されていない場合、またはこのファイルが*LIBLで修飾されていて、システムがこのファイルを見つけることができない場合には、このデータベース・ファイルはユーザーの省略時のライブラリーに作成されます。ユーザーの省略時のライブラリーは現行ユーザーのユーザー・プロファイルに指定されます。省略時のライブラリーがユーザー・プロファイルに指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力が送られる先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーがすでに存在している場合には、システムがこのパラメーターの2番目の要素を使用して、新しいレコードが追加される前にそのメンバーが消去されるかどうかを判別します。メンバーが存在せず、メンバー名が指定されていない場合には、システムはOUTFILEパラメーターで指定された出力ファイルの名前でメンバーを作成します。出力ファイル・メンバー名が指定されていて、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

出力を受け取るメンバーに指定できる値は次の通りです。

***FIRST**

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーを指定します。OUTMBR (メンバー名) を指定し、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

メンバーに対するアクションに指定できる値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

DSPNCKの例

例1:ニックネームのリストの表示

```
DSPNCK NCK(*ALL *PRIVATE)
```

このコマンドは、専用ニックネームのリストをニックネームの所有者に表示します。所有者は、表示されたニックネームの追加情報を表示または印刷するように要求することができます。

例2:ニックネームのリストの印刷

```
DSPNCK NCK(MANAGER *PRIVATE) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ユーザーの専用ニックネームMANAGERについての詳細情報を印刷します。

例3:ニックネームのデータベース・ファイルへの送信

```
DSPNCK NCK(*ALL *PUBLIC) OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(ALLNICKS)
      OUTMBR(*FIRST *REPLACE)
```

このコマンドは、ディレクトリー内の共通ニックネームごとに1レコードをデータベース・ファイルALLNICKSに送ります。このソース・ファイルがライブラリー・リスト (省略時のライブラリー修飾子) に見つからない場合には、ユーザーの省略時ライブラリー・リストに、またはユーザーの省略時ライブラリーが指定されていない場合はQGPLライブラリーに作成されます。

例4:所有者のニックネームのデータベース・ファイルへの送信

```
DSPNCK  NCK(*ALL *PUBLIC)  OWNER(CDJONES)  OUTPUT(*OUTFILE)
        OUTFILE(NICKNAME/CDJONES)
        OUTMBR(*FIRST *REPLACE)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルがCDJONESであるユーザーが所有している共通ニックネームごとに1レコードをライブラリーNICKNAME内のデータベース・ファイルCDJONESに書き込みます。このソース・ファイルがライブラリーNICKNAME内に見つからない場合には、作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPNCK

*ESCAPEメッセージ

CPF9A89

ニックネーム機能が正常に実行されなかった。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

NDSコンテキストの表示 (DSPNDSCTX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWAREディレクトリー・サービス・コンテキスト表示(DSPNDSCTX)コマンドは、現行のNDSコンテキストを表示します。

出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された通りに、表示装置かまたはスプール印刷装置ファイルに向けられます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT -	オプション

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

出力が要求ワークステーションの画面に表示されるか、あるいはジョブのスプール出力で印刷されるかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は、画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPNDSCTX

*ESCAPE メッセージ

FPE010A

NETWAREディレクトリー・サービスのコンテキストが表示されません。

[トップ](#)

ネットワーク属性表示 (DSPNETA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク属性表示 (DSPNETA)コマンドは、システムのネットワーク属性を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *_PRINT	オプション、定位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPNETAの例

DSPNETA OUTPUT(*)

ジョブが対話式である場合に、このコマンドは、ワークステーションのシステムのネットワーク属性を表示します。ジョブがバッチである場合には、ネットワーク属性はジョブのスパール出力を使用して印刷されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPNETA

*ESCAPE メッセージ

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ノード・グループの表示 (DSPNODGRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・グループ表示(DSPNODGRP)コマンドは、ノード・グループ内のシステムまたはノードを、そのノード・グループの区画スキームとともに表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NODGRP	ノード・グループ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

ノード・グループ(NODGRP)

表示したいノード・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ノード・グループ

名前 表示されるノード・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

DSPNODGRPの例

例1:ノード・グループの表示

```
DSPNODGRP NODGRP(LIB1/GROUP1)
```

このコマンドは、GROUP1という名前のノード・グループにあるシステムおよびそのノード・グループに関連した区画スキームを表示します。情報はワークステーションに表示されます。

例2:ノード・グループの印刷

```
DSPNODGRP NODGRP(LIB1/GROUP2) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、GROUP1という名前のノード・グループおよび関連した区画スキーム中のシステムのリストが入っているスパール・ファイルを作成します。

エラー・メッセージ： DSPNODGRP

*ESCAPEメッセージ

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF3166

ノード・グループ&1がライブラリー&2に見つからなかった。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

NETBIOS記述の表示 (DSPNTBD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NetBIOS記述表示(DSPNTBD)コマンドは、NetBIOS記述オブジェクトを表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NTBD	NETBIOS記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	* -, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

NETBIOS記述 (NTBD)

表示されるNetBIOS記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPNTBDの例

DSPNTBD NTBD(MYNETBIOS)

このコマンドは、MYNETBIOSという名前のNETBIOS記述についての情報を表示します。情報は、コマンドが入力されたワークステーションに表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから投入された場合には、コマンドからの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPNTBD

*ESCAPEメッセージ

CPF26B2

NETBIOS記述&1は前に削除された。

[トップ](#)

NETWARE認証項目の表示 (DSPNTWAUTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWARE認証項目表示(DSPNTWAUTE)コマンドは、サーバーに関する認証項目を表示します。出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された通りに、表示装置かまたはスプール印刷装置ファイルに向けられます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SVRTYPE	サーバー・タイプ	*NETWARE3, *NDS	必須, 定位置 1
NDSTREE	NDSツリー	文字値	オプション
SERVER	サーバー	文字値	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, *CURRENT	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

サーバー・タイプ (SVRTYPE)

表示されている認証項目のタイプを指定します。

*NETWARE3

項目はNETWARE 3.Xサーバーに関するものです。

*NDS 項目はNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーに関するものです。

[トップ](#)

NDSツリー (NDSTREE)

*NDS項目の場合には、表示する認証項目のNDSツリー名を指定します。

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

*NETWARE3項目の場合には、表示する認証項目のサーバー名を指定します。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

認証項目が入っているユーザー・プロファイルを指定します。

***CURRENT**

現行ユーザー・プロファイルを使用します。

名前 ユーザー・プロファイルの名前を指定します。このユーザー・プロファイルは現行のユーザー・プロファイルであるか、あるいはユーザーはこのユーザー・プロファイルに対する*USEと*OBJMGT権限および*SECADM特殊権限を持っていないければなりません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は、画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPNTWAUTEの例

```
DSPNTWAUTE SVRTYPE(*NETWARE3) SERVER(SERVER03)
```

このコマンドは、現行ユーザー・プロファイルから、NETWARE 3.XサーバーSERVER03のサーバー認証項目を検査します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPNTWAUTE

***ESCAPE** メッセージ

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

FPE0215

&2の認証項目を見つけることができなかった。

[トップ](#)

NETWARE接続の表示 (DSPNTWCNN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWARE接続表示(DSPNTWCNN)コマンドによってユーザーは、活動状態にある特定のNETWAREサーバー接続について詳細な状況データを検索することができます。接続に関する詳細説明は、このコマンドが出された時に表示されます。

出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された通りに、表示装置かまたはスプール印刷装置ファイルに向けられます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー	文字値	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*ALL, *LOCAL, *SERVER, *OPNFILE	オプション
CNNNBR	接続番号	1-65534, *CURRENT	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

ネットワークに対して定義された活動サーバーを指定します。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

このパラメーターによって、情報を選択して表示することができます。すべての情報(*ALL)または特定の情報の表示を選択することができます。

***ALL** 接続に関するすべての情報が表示されます。

***SERVER**

特定のサーバーに対して**接続番号 (CNNNBR)**パラメーターによって識別される接続に関する情報だけが表示されます。表示される情報は、この接続と関連してサーバーに保存された統計です。

***OPNFILE**

特定の接続についてオープンされているNETWAREサーバーに関する情報だけが表示されます。

*LOCAL

ローカル・システムから開始された接続に関する情報だけが表示されます。表示される情報は、この接続についてのローカルISERIESの情報です。

[トップ](#)

接続番号 (C>NNBR)

表示する活動状態のNETWARE接続の接続番号を指定します。

*CURRENT

現行ユーザー・プロファイルによってローカル・システムから開始された、**サーバー (SERVER)**パラメーターに指定されたサーバーへの接続が表示されます。

1-65534

表示する接続番号を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

出力が要求ワークステーションの画面に表示されるか、あるいはジョブのプール出力で印刷されるかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は、画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPNTWCNN

*ESCAPE メッセージ

FPE0105

NETWARE接続&1が表示されなかった。

[トップ](#)

NETWAREボリュームの表示 (DSPNTWVOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWAREボリューム表示(DSPNTWVOL)コマンドは、NETWAREサーバーにあるボリュームに関する情報を表示するために使用されます。出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された通りに、表示装置かまたはスプール印刷装置ファイルに向けられます。

制約事項:このコマンドを使用するためには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム	文字値	必須, 定位置 1
SERVER	サーバー	文字値	必須, 定位置 2
OUTPUT	出力	* -, *PRINT	オプション

[トップ](#)

ボリューム (VOL)

表示するボリュームを指定します。

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

ボリュームが置かれているサーバーを指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

出力が要求ワークステーションの画面に表示されるか、あるいはジョブのスプール出力で印刷されるかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は、画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPNTWVOLの例

DSPNTWVOL VOL(APPS) SERVER(MKTING)

このコマンドは、サーバーMKTING上にある名前APPSのボリュームを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPNTWVOL

*ESCAPE メッセージ

FPE0132

NETWAREボリューム&1が表示されなかった。

[トップ](#)

ネットワーク・インターフェース記述の表示 (DSPNWID)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・インターフェース記述表示(DSPNWID)コマンドはネットワーク・インターフェース記述を表示します。出力は、出力 (OUTPUT)パラメーターおよびジョブ・タイプによって決定される表示装置またはスプール印刷装置ファイルに転送されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWID	ネットワーク・インターフェース記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*ALL, *BASIC, *CHLENTY, *DLCIENTY, *LINELIST, *NETDIF, *PCLNTY, *TMRRTY	オプション

[トップ](#)

ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)

これは必須パラメーターです。

表示するネットワーク・インターフェース記述の名前を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

- * 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

このパラメーターにより、このネットワーク・インターフェース記述に関する情報を選択して表示することができます。すべての情報(*ALL)または特定の情報の表示を選択することができます。指定できる値は1つだけです。

***ALL** ネットワーク・インターフェース記述のすべての情報が表示されます。

***BASIC**

ネットワーク・インターフェース記述の基本となるパラメーターの値が表示されます。

***CHLENTRY**

ネットワーク・インターフェース記述と関連するチャンネル項目が表示されます。この値は、デジタル総合サービス網(ISDN)が使用された時だけ有効です。

***DLCI** データ・リンク接続識別コード情報(DLCI番号、状況など) および活動または接続回線が表示されます。この値は、フレーム・リレー・ネットワーク(FR)が使用されている場合にだけ有効です。

***NETDIF**

ネットワーク・インターフェース記述中のネットワーク差異パラメーターの値が表示されます。この値はISDNが使用された時だけ有効です。

***PCLENTRY**

ネットワーク・インターフェース記述のプロトコル項目を含むプロトコル固有の情報が表示されます。この値はISDNが使用された時だけ有効です。

***TMRRTY**

ネットワーク・インターフェース記述中のタイマーおよび再試行パラメーターの値が表示されます。

[トップ](#)

DSPNWIDの例

DSPNWID NWID(THISONE)

このコマンドは、THISONEという名前のネットワーク・インターフェース記述についての情報を表示します。情報は、コマンドが投入されたワークステーションの画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPNWID

***ESCAPEメッセージ**

CPD2637

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF27AA

ネットワーク・インターフェース&1にはこのオプションは使用できない。

CPF27A4

ネットワーク・インターフェース記述&1が見つからない。

CPF27A5

ネットワーク・インターフェース記述&1に損傷がある。

CPF27A8

ネットワーク・インターフェース&1の&2が正しくない。

[トップ](#)

NWS属性の表示 (DSPNWSA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー属性表示(DSPNWSA)コマンドは、システムのネットワーク・サーバー属性を表示します。

出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された表示装置またはスプール印刷装置ファイルに転送されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	<u>*ALL</u> , *NETWARE, *WINDOWSNT	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

[トップ](#)

オプション (OPTION)

表示される画面を指定します。

***ALL** すべてのサーバー・タイプに適用されるすべての画面が表示されます。

***NETWARE**

*NETWAREサーバー・タイプに適用される画面が表示されますが、追加情報画面は表示されません。

***WINDOWSNT**

*WINDOWSNTサーバー・タイプに適用される画面が表示されますが、詳細説明画面は表示されません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのスプール出力で印刷されるかを指定します。

*** -** 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPNWSAの例

DSPNWSA OUTPUT(*)

ジョブが対話式の場合は、このコマンドはワークステーションにシステムのネットワーク・サーバー属性を表示します。ジョブがバッチの場合は、ネットワーク・サーバー属性がジョブのスプール出力と共に印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPNWSA

***ESCAPEメッセージ**

CPFA452

ネットワーク・サーバー属性が表示されない。

[トップ](#)

ネットワーク・サーバー記述の表示 (DSPNWSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記述表示(DSPNWSD)コマンドは、ネットワーク・サーバー記述オブジェクトを表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSD	ネットワーク・サーバー記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *_PRINT	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*ALL, *BASIC, *PORTS, *STGLNK, *TCPIP, *RSTDEV, *CLUINFO	オプション

[トップ](#)

ネットワーク・サーバー記述 (NWSD)

表示されるネットワーク・サーバー記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

表示したい情報を指定します。すべての情報(*ALL)または特定の情報の表示を選択することができます。

***ALL** ネットワーク・サーバーに関するすべての情報が表示されます。

***BASIC**

ネットワーク・サーバーの基本特性だけが表示されます。

***PORTS**

接続された通信記述に関する情報だけが表示されます。

***STGLNK**

リンクされたクライアント記憶スペースに関する情報だけが表示されます。

***TCPIP**

TCP/IP構成に関係する情報だけが表示されます。

***RSTDEV**

ネットワーク・サーバー記述と関連した制限付き装置資源だけが表示されます。

***CLUINFO**

クラスター構成に関係する情報だけが表示されます。

[トップ](#)

DSPNWSDの例

DSPNWSD NWS(D(SERVER1))

このコマンドは、SERVER1という名前のネットワーク・サーバー記述についての情報を表示します。オプションが指定されていないので、すべての情報が表示されます。情報は、コマンドが入力されたワークステーション画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから投入された場合には、コマンドからの出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPNWSD

なし

[トップ](#)

NWS記憶スペースの表示 (DSPNWSSTG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記憶スペース表示(DSPNWSSTG)コマンドは、ネットワーク・サーバー記憶スペースを表示します。出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された表示装置またはスプール印刷装置ファイルに送られます。表示される情報には、記憶スペースの形式、そのサイズ、使用可能なフリー・スペースの容量、それが存在している補助記憶域プール、およびNWSD（ネットワーク・サーバー記述）にリンクされる際のドライブが含まれます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSSTG	ネットワーク・サーバー記憶スペース	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)

表示する記憶スペースの名前を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

出力が要求したワークステーションの画面上に表示されるか、あるいはジョブのスプール出力で印刷されるかを指定します。

*
対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPNWSSTGの例

DSPNWSSTG NWSSTG(STGSPACE1)

このコマンドは、STGSPACE1という名前のネットワーク・サーバー記憶スペースを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPNWSSTG

なし

[トップ](#)

NWSユーザーの表示 (DSPNWSUSR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー・ユーザー表示(DSPNWSUSR)コマンドによって、特定のサーバーのログオン済みのすべてのユーザーのリストを検索することができます。このコマンドは、個々のNETWAREサーバーのログオン済みユーザーを表示するのに使用することができます。

出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された表示装置またはスプール印刷装置ファイルに転送されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー	文字値	必須, 定位置 1
SVRTYPE	サーバー・タイプ	*NWSUSRA, *NWSA, *NETWARE	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

ネットワーク・サーバーの名前を指定します。

サーバー名

ネットワークに対して定義されている特定の活動状態のサーバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

サーバー・タイプ (SVRTYPE)

ユーザーを表示する時に使用するサーバー・タイプを指定します。

*NWSUSRA

DSPNWSUSRコマンドを実行するユーザー・プロファイルのネットワーク・サーバー・ユーザー属性 (CHGNWSUSRAコマンド) に指定されているサーバー・タイプを使用して、ネットワーク・ユーザーを表示します。

*NWSA

ネットワーク・サーバー属性 (CHGNWSAコマンド) に指定されているネットワーク・サーバー・タイプを使用して、ネットワーク・ユーザーを表示します。

*NETWARE

指定されたネットワーク・サーバーに関連したNETWAREユーザーだけが表示されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのスプール出力で印刷されるかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPNWSUSRの例

```
DSPNWSUSR SERVER(NWS1) SVRTYPE(*NETWARE)
```

上記のコマンドにより、NWS1という名前のサーバーに現在活動状態になっているすべてのNETWAREユーザーを表示できます。NWS1が存在しない場合、または活動状態でない場合は、エラー・メッセージ（「サーバーNWS1が見つかりません」または「サーバーNWS1が活動状態ではありません」）が戻されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPNWSUSR

*ESCAPEメッセージ

CPFA43C

ネットワーク・サーバー・ユーザーが表示されない。

[トップ](#)

NWSユーザー属性の表示 (DSPNWSUSRA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー・ユーザー属性表示(DSPNWSUSRA)コマンドは、ユーザー・プロファイルのネットワーク・サーバー・ユーザー属性を表示します。

出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された表示装置またはスプール印刷装置ファイルに転送されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名, <u>*CURRENT</u>	オプション, 位置 1
PRFTYPE	プロファイル・タイプ	<u>*USER</u> , *GROUP	オプション, 位置 2
OPTION	オプション	<u>*ALL</u> , *NETWARE, *WINDOWSNT	オプション, 位置 3
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

ユーザーまたはグループ・プロファイルの名前を指定します。

*CURRENT

現行ユーザー・プロファイルのユーザー・プロファイル属性が表示されます。

ユーザー名

表示するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

プロファイル・タイプ (PRFTYPE)

表示される情報がユーザー・プロファイル用のものか、あるいはグループ・プロファイル用のものかを指定します。

*USER

表示される情報はユーザー・プロファイル用のものです。

*GROUP

表示される情報はグループ・プロファイル用のものです。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

表示される画面を指定します。

***ALL** すべてのサーバー・タイプに適用されるすべての画面が表示されます。

*NETWARE

*NETWAREサーバー・タイプに適用される画面が表示されますが、追加情報画面は表示されません。

*WINDOWSNT

*WINDOWSNTサーバー・タイプに適用される画面が表示されますが、詳細説明画面は表示されません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのスパール出力で印刷されるかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPNWSUSRAの例

DSPNWSUSRA USRPRF(NWSUSR1)

ジョブが対話式の場合は、このコマンドはワークステーションでユーザーNWSUSR1に定義されたネットワーク・サーバー・ユーザー属性を表示します。ジョブがバッチの場合は、ユーザーNWSUSR1のネットワーク・サーバー・ユーザー属性がジョブのスパール出力と共に印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPNWSUSRA

*ESCAPEメッセージ

CPFA453

ネットワーク・サーバー・ユーザー属性が表示されない。

[トップ](#)

オブジェクト権限表示 (DSPOBJAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト権表示(DSPOBJAUT)コマンドは、そのオブジェクトの認可ユーザーとその割り当てられた権限のリストを表示します。オブジェクトが権限リストによって保護されている場合には、権限リストの名前も併せて表示されます。共通認可と1次グループ権限も表示されます。

このコマンドを入力中のユーザーには、オブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限がない場合は、表示されるのはそのユーザーの名前および権限だけです。他のユーザーの名前およびオブジェクトに対するそのユーザーの権限は表示されません。オブジェクトに対応した所有者名がない場合には、そのオブジェクトに対する権限は表示されません。

指定されたオブジェクトについて、次が表示されます。

- オブジェクト名
- オブジェクトが入っているライブラリーの名前
- オブジェクト所有者の名前
- オブジェクト・タイプ
- オブジェクトの使用を認可されたすべてのユーザーのリスト
- 各ユーザーがオブジェクトに対して持っている権限
- 権限リスト名 (オブジェクトが権限リストによって保護されている場合)

制約事項: 補助記憶域プール装置を指定する場合は、それに対する使用(*USE)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOB, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *S36, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 3
OUTFILE	出力を受け取るファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
AUTTYPE	権限タイプ	*OBJECT, *FIELD, *ALL	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

認可ユーザーおよびその権限を表示するオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

プログラム(*PGM),ファイル(*FILE),またはライブラリー(*LIB)など、権限を表示するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。このコマンドのプロンプトが出されたときに、オブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付けて、F 4 (プロンプト) を押してください。

これは必須パラメーターです。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクト(OBJパラメーター) を含むライブラリーが入っている、その補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。オブジェクトのライブラリーがジョブに関連したライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、このパラメーターを指定して、このコマンドの操作のターゲットとして正しいオブジェクトが使用されるようにしなければなりません。

- * 現在、ジョブのライブラリー名スペースの一部となっているASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP番号1),定義されているすべての基本ユーザーASP (ASP番号2-32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが含まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。ジョブにASPグループがあっても独立ASPは検索されません。

名前 オブジェクトを見つけるために検索する独立ASPの装置名を指定してください。独立ASPは活動化されていて (ASP装置をオンに構成変更することによって)、AVAILABLEの状況になっていなければなりません。システムASPおよび基本ユーザーASPは検索されません。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

- * 出力は表示されるか (対話式ジョブで要求された場合) , あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブで要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリー内にデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新しいファイルが作成される場合には、システムはQSYSAUTの様式名をもつQSYSのQAOBJAUTをモデルとして使用します。

*FILEオブジェクトにAUTTYPE(*FIELD)が指定されていて、新しい出力ファイルが作成された場合には、システムはモデルとしてQSYSFLDの形式名でQSYSのQAFLDAUTを使用します。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

権限タイプ (AUTTYPE)

オブジェクト・レベルの権限を表示するか、フィールド・レベルの権限を表示するか、あるいはオブジェクト・レベルとフィールド・レベルの両方の権限を表示するかを指定します。フィールド・レベルの権限情報のみが*FILEオブジェクトに適用されます。

*OBJECT

オブジェクト・レベルの権限情報が表示され、スプール・ファイルに入れられ、あるいは出力ファイルに入れられます。

OUTPUT(*)が要求されて、オブジェクトがフィールド・レベルの権限を持つファイルの場合には、F16キー（フィールド権限の表示）が画面上で使用可能になります。

*FIELD

フィールド・レベルの権限情報が表示され、スプール・ファイルに入れられ、あるいは出力ファイルに入れられます。

この値が有効となるのは、*FILEがオブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターに指定されている場合だけです。

***ALL** OUTPUT(*)が要求されている場合には、オブジェクト・レベルの権限情報が表示されます。ファイルに関連付けられたフィールド・レベルの権限がある場合には、F16キー（フィールド権限の表示）が画面上で使用可能になります。OUTPUT(*PRINT)が要求されている場合には、スプール・ファイルにオブジェクト・レベルとフィールド・レベルの権限データが含まれます。AUTTYPE(*ALL)はOUTPUT(*OUTFILE)では無効です。

この値が有効となるのは、*FILEがオブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターに指定されている場合だけです。

DSPOBJAUTの例

例1:ユーザーおよび権限の表示

```
DSPOBJAUT OBJ(ARLIB/PROG1) OBJTYPE(*PGM)
```

このコマンドは、このコマンドを入力したユーザーに対してPROG1という名前のオブジェクトに対する許可ユーザーおよびその権限を表示します（そのユーザーにそのユーザーに対するオブジェクト管理権がある場合）。ユーザーにオブジェクト管理権がない場合は、表示されるのは個人用権限だけです。PROG1は、ARLIBという名前のライブラリー内にあるプログラム(*PGM)です。システムは、出力リストを表示する装置には*を想定します。コマンドがバッチ・サブシステムに入力された場合は、出力はジョブの省略時出力待ち行列に入れられます。コマンドが対話式サブシステムに入力された場合は、出力はこのコマンドが入力された装置に表示されます。

例2:ユーザーのリストの印刷

```
DSPOBJAUT OBJ(ARLIB/PROG2) OBJTYPE(*PGM) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドにより、ARLIBライブラリー内のPROG2という名前のプログラムの許可ユーザーのリストが印刷されることとなります。このコマンドを入力するユーザーに、プログラムに対してオブジェクト管理権がない場合は、印刷されるのはそのユーザーの名前および権限だけです。

エラー・メッセージ： DSPOBJAUT

*ESCAPE メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2208

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

CPF2209

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2211

&3のオブジェクト&1タイプ*&2を割り振ることができない。

CPF2216

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF224E

ライブラリー&2のファイル&1にはAUTTYPE値*FIELDは正しくない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF9843

ライブラリー&3のオブジェクト&1タイプ&2をアクセスすることができない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

オブジェクト記述表示 (DSPOBJD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドは、指定されたライブラリーの中または現行スレッドのライブラリー・リストのライブラリーの中にある指定されたオブジェクトの名前および属性を表示します。このコマンドは、ライブラリー自体の名前および属性も表示します。

各オブジェクトのオブジェクト属性のみが表示され、オブジェクト内のデータのデータ属性とオブジェクト内の実際のデータは表示されません。また、表示されているオブジェクトが損傷している（おそらくはシステム障害が原因）かどうか、あるいはロックされているためにアクセスできないのかも示されます。

何らかの権限（除外(*EXCLUDE)権限を除く）をもっているどのOS/400システム・オブジェクトでも、このコマンドで表示することができます。実行(*EXECUTE)権限実行権限をもっていないライブラリーは、このコマンドに指定しても表示できません。オブジェクトを1つだけ表示する場合には、オブジェクト名、オブジェクト・タイプ、そのオブジェクトが入っているライブラリーの名前、およびそのライブラリーが入っている補助記憶域プール(ASP)装置を入力することによって、そのオブジェクトを指定することができます。指定されたライブラリー修飾子により、指定されたライブラリーで最初に見つかったオブジェクトが表示されるか、または指定されたライブラリー内において何らかの権限をもっているすべてのオブジェクトが表示されます。

注:

- 損傷しているかまたはロックされているオブジェクトの場合には、表示されるか、印刷されるか、または出力ファイルに書き込まれる情報は不完全なものです。オブジェクトの記述が表示または印刷される場合には、損傷しているかまたはロックされているオブジェクトのテキストに、損傷またはロック状況が示されます。オブジェクトの記述が出力ファイルに書き込まれる場合には、オブジェクトがロックされているか、損傷しているという指示が出力ファイルに書き込まれます。
- 表示されるライブラリー・オブジェクトのサイズには、ライブラリー内のオブジェクトのサイズは含まれません。ライブラリー内のオブジェクトのサイズを含むライブラリーの合計サイズは、OUTPUT(*PRINT)を指定したライブラリー表示(DSPLIB)コマンドまたはライブラリー記述検索(QLIRLIBD) APIを使用して判断することができます。

制約事項:

1. 指定したライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。ライブラリーに対する*EXECUTE権限がない場合には、そのオブジェクトはどれも表示されません。
2. 表示される各オブジェクトに対する何らかの権限（除外(*EXCLUDE)権限を除く）が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALLUSR, *IBM その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *USRLIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 91 回の繰り返し): *ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOB, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBS, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
DETAIL	詳細	*BASIC, *FULL, *SERVICE	オプション, 定位置 3
ASPDEV	ASP装置	単一値: *, *ALLAVL, *CURASPGRP, *SYSBAS その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 装置	名前	
	要素 2: 検索タイプ	*ASP, *ASPGRP	
OUTPUT	出力	_, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

トップ

オブジェクト (OBJ)

ライブラリー（複数の場合もある）の中のどのオブジェクトのオブジェクト属性を表示させるかを指定します。ライブラリー（修飾子 2）を指定しない場合には、*LIBLと見なされ、オブジェクトを見つけるために現行スレッドのライブラリー・リストにあるすべてのライブラリーが検索されます。ライブラリー内にあって何らかの権限がないオブジェクトは、表示されません。このパラメーターは、単一値として指定することも、1 つまたは 2 つの修飾子リストとして指定できます。

これは必須パラメーターです。

単一値

*ALLUSR

オブジェクト名の値が*ALLUSR の時には、オブジェクト・タイプは*LIBでなければなりません。**ASP装置(ASPDEV)**パラメーターに指定された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのユーザー・ライブラリーが表示されます。ユーザー・ライブラリーの定義については、ライブラリー（修飾子2）の説明にある*ALLUSRを参照してください。

*IBM

オブジェクト名の値が*IBMの場合には、オブジェクト・タイプは*LIBでなければなりません。**ASP装置(ASPDEV)**パラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)にあるライブラリーのうち、**ライブラリー (LIB)**パラメーターに*IBMが指定されたSAVLIBおよびRSTLIB CLコマンドを使用して保管および復元されたライブラリーのすべてが表示されます。

修飾子1: オブジェクト

***ALL** ライブラリー（修飾子2）で識別されるライブラリーにあり、**オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)**パラメーターに指定されたタイプで、何らかの権限（除外(*EXCLUDE)権限を除く）のあるすべてのオブジェクトが表示されます。

1. ライブラリー（修飾子2）が*ALL、*ALLUSR,またはライブラリー名の場合には、指定されたタイプのオブジェクトのうち、指定されたライブラリーにあるすべてのオブジェクトが表示されます。
2. ライブラリー（修飾子2）が*USRLIBLまたは*LIBLで、オブジェクト名が特定名である(*ALLでも、総称名でもない) 場合には、OBJTYPEパラメーターにはオブジェクト・タイプを1つしか(*ALL以外) 指定できず、最初に見つかったオブジェクトだけが表示されます。

総称名 表示されるオブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名は、総称オブジェクト名と同じ接頭部の名前をもち、何らかの権限（除外(*EXCLUDE)権限を除く）のあるすべてのオブジェクトを指定します。

名前 表示されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

***ALL** **ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターに指定された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

ASP装置 (ASPDEV)パラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。

ユーザー・ライブラリーは、Q以外の文字で始まる名前を持つライブラリーのうち、次のものを除くすべてのライブラリーです。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

英字Qで始まる名前をもつ次のライブラリーはIBMによって提供されますが、一般的に、これらには頻繁に変更されるユーザー・データが入っています。したがって、これらのライブラリーもユーザー・ライブラリーと見なされます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSCR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

表示されるオブジェクトのタイプを指定します。このパラメーターは、単一値として指定することも、1つまたは複数のオブジェクト・タイプのリストとして指定することもできます。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** 指定されたオブジェクト名のすべてのタイプのオブジェクトが表示されます。

その他の値

オブジェクト・タイプ

表示されるオブジェクトのタイプに対する1つまたは複数の値を指定してください。指定されたライブラリーの中にあり、指定されたオブジェクト・タイプを持っているすべてのオブジェクト、およびライブラリー自体が、そのオブジェクト属性を表示されます。**オブジェクト(OBJ)**パラメーターのライブラリー修飾子が*USRLIBLまたは*LIBLで、オブジェクト名修飾子が特定名である(*ALLでも、総称名でもない) 場合には、1つのオブジェクト・タイプしか(*ALLではなく) ここに指定できません。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

各オブジェクトごとにどのセットの属性を表示するかを指定します。

注: 出力がデータベース・ファイルに送られる時には、このパラメーターは無視され、すべてのオブジェクト属性情報がファイルに書き込まれます。

*BASIC

画面またはリストには、各オブジェクトに関するオブジェクト属性の名前および基本セットが入っています。

***FULL** 画面またはリストには、各オブジェクトに関するオブジェクト属性の名前および全セット（属性の基本セットを含む）が入っています。

*SERVICE

画面またはリストには、各オブジェクトに関するサービス関連の属性が入っています。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクトが入っているライブラリーに記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、必ず正しいライブラリーが検索されるように、このパラメーターを指定しなければなりません。**オブジェクト(OBJ)**パラメーターに指定されたライブラリー修飾子が*CURLIB, *LIBL, または*USRLIBLの時にこのパラメーターを使用する場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。このパラメーターは、単一値、あるいは1個または2個の要素のリストとして指定することができます。

単一値

*
- 現在、スレッドのライブラリー名スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1), すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。

*ALLAVL

使用可能なすべてのASPが検索されます。これには、システムASP (ASP 1), すべての定義済みユーザー基本ASP (ASP 2-32), およびすべての1次および2次ASP (状況が「使用可能」となっているASP 33-255)が含まれます。

*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2-32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

要素1: 装置

名前

検索される1次または2次ASP装置の名前を指定します。1次および2次ASPは(ASP装置をオンに変更することによって) 活動化されていなければならず、状況が「使用可能」になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2-32)は検索されません。

注: 要素2に指定された検索タイプが*ASPの時に、特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、その特定のASP装置に対する実行(*EXECUTE)権限がなければなりません。

要素2に指定された検索タイプが*ASPGRPの時に特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、そのASPグループ中の各ASP装置に対する実行(*EXECUTE)権限がなければなりません。

要素2: 検索タイプ

要素1で名付けられた単一ASP装置またはASPグループ全体が検索されるかどうかを指定します。

***ASP** 要素1で名付けられた単一の補助記憶域プール(ASP)装置だけが検索されます。

*ASPGRP

要素1で名付けられた1次補助記憶域プール(ASP)装置のグループ全体が検索されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

*
- 出力は表示されるか (対話式ジョブで要求された場合) , あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブで要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。このファイルが存在しない場合には、このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。

注: 新しいファイルが作成される場合には、そのファイルを説明するテキストは"DSPOBJDの出力ファイル"であり、共通権限はそのファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じです。ライブラリーの作成権限を表示するためには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。出力ファイルのデータベースの形式(QLIDOBJD)は、弊社提供データベース・ファイルQADSPOBJDで使用されるものと同じです。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドの出力が送られるファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ファイルを見つけるために検索されるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

DSPOBJDの例

例1:オブジェクトの基本記述の表示

```
DSPOBJD OBJ(X/PAY) OBJTYPE(*ALL)
```

ライブラリーX中の何らかの権限（除外(*EXCLUDE)権限を除く）があるPAYという名前のすべてのオブジェクトの基本記述が表示されます。ライブラリー中の権限のないオブジェクトは表示されません。

例2:プログラムの全記述の表示

```
DSPOBJD OBJ(X/PAY) OBJTYPE(*PGM) DETAIL(*FULL)
```

ライブラリーX内のPAY という名前のプログラムの全記述が表示されます。表示されるものにはプログラムのすべての属性が含まれます。

例3:プログラム情報の表示

```
DSPOBJD OBJ(*USRLIBL/PAY) OBJTYPE(*PGM)
```

このコマンドは、現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分に見つかるPAYという名前の最初のプログラムについての情報を表示します。

例4:ファイルの基本記述の表示

```
DSPOBJD OBJ(Z/ABC*) OBJTYPE(*FILE)
```

ライブラリーZにあって何らかの権限（除外(*EXCLUDE)権限を除く）をもつもののうち名前がABC（総称名）で始まるすべてのファイルの基本記述が表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPOBJD

*ESCAPEメッセージ

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2115

&2のタイプ*&3のオブジェクト&1に損傷がある。

CPF2121

1つまたは複数のライブラリーをアクセスすることができない。

CPF2123

指定した名前またはタイプのオブジェクトはライブラリー&2に存在していない。

CPF2124

ライブラリー&2から、指定したオブジェクトを表示することはできない。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2177

OBJTYPEの値がOBJの値と矛盾している。

CPF218C

&1は1次または2次ASPではない。

CPF218D

*ASPGRPが指定されている時に、&1が1次ASPになっていない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF326B

ライブラリー&2のファイル&1に損傷がある。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9827

オブジェクト&1を作成したり&2に移動することはできない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

OPTICONNECTリンク状況の表示 (DSPOPCLNK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

OPTICONNECTリンク状況の表示(DSPOPCLNK)コマンドによって、複数システム間の光ファイバー・リンクまたは高速リンク(HSL)接続のいずれかの状態を表示することができます。高速リンクが存在するかどうかをシステムが判別してそれを表示しますが、存在しない場合は、光ファイバー・リンクが表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、定位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

光ファイバー・リンクの印刷だけが可能です。リンク状況の印刷出力が必要である場合には、この機能はハードウェア保守管理画面を介して使用できます。

*
_ 出力は表示されるか（対話式ジョブで要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブで要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPOPCLNKの例

DSPOPCLNK OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、OPTICONNECTによって使用できるすべての接続の状況が表示されているリストを生成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPOPCLNK

なし

[トップ](#)

光ディスク表示 (DSPOPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク表示(DSPOPT)コマンドは、DATAパラメーターに指定されている値に応じて、ボリューム、ディレクトリー、またはファイル属性を表示します。情報は出力ファイルに印刷、表示、または書き出すことができます。出力が出力ファイルに向けられた場合には、出力のレコード様式は次のいずれかになります。

- DATA(*VOLATR)が指定されると、データベース・ファイルはQAMODVAという名前のレコード様式を持つこととなります。データベース内のフィールドは、ライブラリーQSYS に入っているファイル QAMODVAF内の弊社提供様式QAMODVAのフィールドと同じです。
- DATA(*DIRATR)が指定されると、データベース・ファイルはQAMODPAという名前のレコード様式を持つこととなります。データベース内のフィールドは、ライブラリーQSYS に入っているファイル QAMODPAF内の弊社提供様式QAMODPAのフィールドと同じです。
- DATA(*FILATR)が指定されると、データベース・ファイルはQAMODFAという名前のレコード様式を持つこととなります。データベース内のフィールドは、ライブラリーQSYS に入っているファイル QAMODFAF内の弊社提供様式QAMODFAのフィールドと同じです。

制約事項: このコマンドを使用するためには、表示されるボリュームを保護するために権限リストに対する *USE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *ALL, *MOUNTED	必須, 定位置 1
DEV	光ディスク装置	名前, <u>*ALL</u>	オプション, 定位置 2
DATA	データ・タイプ	<u>*VOLATR</u> , *SAVRST, *FILATR, *DIRATR	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE, *USRSPC	オプション
PATH	経路	文字値, *ALL	オプション
USRSPC	ユーザー・スペース	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・スペース	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
REPLACE	ユーザー空間置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

表示される情報が入っている光ディスク・ボリュームの識別コードを指定します。

***ALL** 指定された直接接続の光ディスク装置上のすべての光ディスク・ボリュームの情報(DEVパラメーター)が表示されます。

*MOUNTED

指定された装置 (DEVパラメーター) に装着されているボリュームの情報が表示されます。

注: この値は、直接接続の光ディスク装置だけに有効であり、ライブラリー装置には有効ではありません。

ボリューム識別コード

光ディスク・ボリュームの識別コードを指定してください。

総称*ボリューム識別コード

ボリューム識別コードの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名によって、直接接続された光ディスク装置の、ユーザーに権限がある総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトが表示されることになります。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

トップ

光ディスク装置 (DEV)

その情報が表示される光ディスク・ボリュームが入っている、直接接続の光ディスク装置を指定します。

注: このパラメーターは、VOLパラメーターに特定のボリューム名が指定されている時には無視されます。

***ALL** 直接接続されたすべての光ディスク装置上の光ディスク・ボリュームのボリューム属性が表示されます。

注: この値はVOL(*ALL)またはVOL (総称*) が指定されている時にだけ有効です。

光ディスク装置

直接接続の光ディスク装置の名前を指定してください。

トップ

データ・タイプ (DATA)

PATHパラメーターに指定されている時に表示される情報のタイプを指定します。DATA(*SAVRST)が指定されている場合には、この情報に、光ディスク・ファイルに保管される各オブジェクトの記述および保管されたオブジェクトに関する要約情報が含まれます。表示されるボリュームに基本ストリーム・ファイル形式のデータが入るか、あるいは保管および復元形式のデータが入るかを判別するためには、DATA(*FILATR)を指定して、リストされるデータ・ファイル識別コードを検査することができます。

*VOLATR

指定したボリューム（1つまたは複数）のボリューム属性が表示されます。

*DIRATR

指定したディレクトリー（1つまたは複数）のディレクトリー属性が表示されます。

*FILATR

指定したファイル（1つまたは複数）のファイル属性が表示されます。

*SAVRST

指定したファイルに保管および復元データが入ります。コマンドおよび保管された各オブジェクトの要約情報が表示されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力を要求元のワークステーションに表示するか、ジョブのスプール出力で印刷するか、データベース・ファイルに追加するか、あるいはユーザー空間に送るかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、OUTFILEパラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

*USRSPC

出力はUSRSPCパラメーターに指定されたユーザー空間に追加されます。

[トップ](#)

経路 (PATH)

表示されるボリューム上のディレクトリーまたはファイルのパス名を指定します。DATAパラメーターは、ディレクトリーまたはファイル属性が表示されるかどうかを指示します。オブジェクト・パス名は、単一の名前か、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前にすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の文字数に対応します。パス名が修飾されているか、あるいはパターンが入っている場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

注: このパラメーターはDATA(*VOLATR)が指定されている場合には無視されます。

***ALL** パラメーターDATAの指定方法によっては、*ALLが別の意味をもつことがあります。その組合わせと意味のリストは、次の通りです。

- DATA(*VOLATR)およびPATH(*ALL)。PATHパラメーターは無視されます。
- DATA(*SAVRST)およびPATH(*ALL)。ボリューム上のすべてのディレクトリーのすべての保管／復元ファイルがリストされます。
- DATA(*SAVRST)およびPATH(/ディレクトリー 1/*ALL)。パス/ディレクトリー 1 中のすべての保管／復元ファイルがリストされます。
- DATA(*DIRATR)およびPATH(*ALL)。ボリューム上のすべてのディレクトリーのすべてのディレクトリー属性がリストされます。
- DATA(*DIRATR)およびPATH(/DIRECTORY1/*ALL)。パス/DIRECTORY1中のディレクトリーのすべてのディレクトリー属性がリストされます。
- DATA(*FILATR)およびPATH(*ALL)。ボリュームのルート・ディレクトリー(/)中のファイルのすべてのファイル属性がリストされます。
- DATA(*FILATR)およびPATH(/DIRECTORY1/*ALL)。ボリュームの/DIRECTORY1中のファイルのすべてのファイル属性がリストされます。

パス名 属性をリストするディレクトリーまたはファイルの完全修飾名を指定してください。

総称*パス名

パスIDの総称名を指定してください。総称名は1文字または複数文字の文字ストリングにアスタリスク(*)を続けたものです。たとえば、/DIRECTORY1/FILE*など。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名によって、総称接頭部で始まり、ユーザーが権限をもっている、すべてのディレクトリー属性またはファイル属性が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

トップ

ユーザー・スペース (USRSPC)

画面出力の追加先のユーザー・スペースを指定します。

注: このパラメーターはOUTPUT(*USRSPC)が指定されている場合にのみ有効です。

修飾子1: ユーザー・スペース

ユーザー空間名

出力を受け取るユーザー空間の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ユーザー空間置き換え (REPLACE)

既存のユーザー空間を置き換えるかどうかを指示します。

注: このパラメーターはOUTPUT(*USRSPC)が指定されている場合にのみ有効で、指定されたライブラリーの中にユーザー空間が見つからない場合には無視されます。

- *YES** ユーザー空間が見つかった場合には置き換えられます。元のユーザー空間の既存の権限は保持されますが、内容は置き換えられます。
- *NO** ユーザー空間は見つかっても置き換えられません。要求は終了し、ライブラリーにはすでにユーザー空間が存在していて、作成することはできないことを告げるメッセージがジョブ・ログに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリー内にデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

DSPOPTの例

例1:すべての光ディスク・ボリュームの属性の表示

```
DSPOPT VOL(*ALL) DEV(*ALL)
```

このコマンドは、ローカル光ディスク装置およびライブラリー内のすべてのボリューム属性を表示します。

例2:総称検索を使用した属性の表示

```
DSPOPT VOL(PAY*) DATA(*DIRATR) PATH('//*')
```

このコマンドは、文字PAYで始まっている光ディスク・ボリュームすべてのルート・ディレクトリー内のすべてのディレクトリーの属性を表示します。

例3:特定ディレクトリーの属性の表示

```
DSPOPT VOL(VOL01) DEV(OPT01) DATA(*FILATR)
      PATH('/DIR1/DIR2/*')
```

このコマンドは、光ディスク・ボリュームVOL01のディレクトリー/DIR1/DIR2内のすべてのファイルのファイル属性を表示します。

例4:保管および復元データの表示

```
DSPOPT VOL(*MOUNTED) DEV(OPT01) DATA(*SAVRST)
      PATH('*ALL')
```

このコマンドは、装置OPT01にマウントされた光ディスク・ボリューム上に見つかったすべてのファイルの保管および復元データを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPOPT

***ESCAPEメッセージ**

CPF1247

サブシステム&1は事前開始ジョブ&2を開始することができない。

CPF384C

CCSIDの変換中にエラーが起こった。

CPF3864

&3の&2 &1は復元されなかった。

CPF386A

ファイルが見つからない。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

OPT1115

ファイルが見つからない。

OPT1125

ファイルが使用中。

OPT1135

オープン・ファイル数が限界に達したので要求は失敗しました。

OPT1140

ファイル処理中に予期しないエラーが起こった。

OPT1185

保留中の光ディスク・ファイルをアクセスすることができない。

OPT1205

ディレクトリーが見つからない。

OPT1212

ディレクトリーが使用中です。

OPT1224

パスの長さが最大値の256バイトを超えている。

OPT1247

ライブラリー&2でユーザー空間&1は作成されなかった。

OPT1255

ファイルが壊れている。

OPT1317

ディレクトリー名が長すぎる。

OPT1320

光ディスク・ボリューム&1は使用中である。

OPT1325

光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。

OPT1330

光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。

OPT1331

光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

OPT1340

光ディスク・ボリューム&1が初期設定されていない。

OPT1346

リモート光ディスク装置にあるボリュームには操作を行なうことができない。

OPT1360

光ディスク・ボリューム&1の媒体ディレクトリーが壊れています。

OPT1427

DATA値では総称または*ALLボリューム要求は使用できません。

OPT1460

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

OPT1463

操作が完了していない。光ディスク・ボリュームが基本ボリュームではありません。

OPT1489

装置&1ではボリューム・パラメーターは使用できない。

OPT1530

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

OPT1555

光ディスク装置&1は使用中です。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

OPT1640

ファイルまたはディレクトリーの読み取り中にエラーが起こった。

OPT1790

操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1810

光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1813

予期しないエラーが起こった。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起きました。

OPT1820

光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。

OPT1821

光ディスク装置&1でエラーが起こった。

OPT1825

光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。

OPT1860

光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。

OPT1861

装置&1に構成された装置記述がない。

OPT1862

資源&1に活動状態の装置記述がない。

OPT1863

光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。

OPT1872

光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。

OPT2040

バックアップ制御ファイルのアクセス中にエラー。

OPT2301

内部システム・オブジェクトが使用中である。

OPT2420

光ディスク・ボリューム&2は認可されていない。

OPT2422

ファイルまたはディレクトリーに対して許可されていません。

OPT6713

ボリューム明細の表示が正常に実行されなかった。

OPT7740

ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

[トップ](#)

光ディスク・ロック表示 (DSPOPTLCK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・ロックの表示(DSPOPTLCK)コマンドは、光ディスク・ボリューム、ディレクトリー、またはファイル上に保留されているロックのリストを表示します。TYPE(*JOB)が指定されている場合には、このコマンドは現在光ディスク要求を実行しているすべてのジョブのリストを表示します。情報は印刷または表示することができます。

このコマンドは、リモート光ディスク・サーバーにあるボリューム、ディレクトリー、またはファイルに対するロックは識別しません。また、現在リモート光ディスク・サーバーを使用しているジョブも識別しません。遠隔光ディスク・サーバーを現在使用しているジョブがあるかどうかを判別するためには、TYPE(*CONV)を指定した光ディスク・サーバー表示(DSPOPTSVR)コマンドを使用してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*VOL, *DIR, *FILE, *JOB	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	文字値	オプション, 定位置 2
PATH	経路	文字値	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

トップ

タイプ (TYPE)

表示または印刷されるロックのタイプを指定します。

- *VOL** 指定された光ディスク・ボリューム上のジョブ情報およびロックが表示または印刷されます。
- *DIR** 指定された光ディスク・ディレクトリーのジョブ情報およびロックが表示または印刷されます。
- *FILE** 指定された光ディスク・ファイルのジョブ情報およびロックが表示または印刷されます。
- *JOB** 現在光ディスク要求を実行しているすべてのジョブのジョブ情報およびロックが表示または印刷されます。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

ロックがリストされている光ディスク・ボリュームのボリューム識別コードを指定します。

経路 (PATH)

ロックがリストされているボリューム上のディレクトリーまたはファイルのパス名を指定します。

注: このパラメーターはTYPE(*DIR)またはTYPE(*FILE)が指定されている場合にのみ有効です。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのスパール出力で印刷されるかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

DSPOPTLCKの例

例1:ファイルに対するロックの表示

```
DSPOPTLCK  TYPE(*FILE)  VOLUME(VOL001)
           PATH('/PAYROLL/JAN1995')
```

このコマンドは、VOL001ボリューム上のディレクトリー/PAYROLL内のファイルJAN1995に対して保留されたロックを表示します。

例2:アクティブ・ジョブのロックの表示

```
DSPOPTLCK  TYPE(*JOB)
```

このコマンドは、光ディスク要求を実行中のアクティブ・ジョブのリストを表示します。

トップ

エラー・メッセージ: DSPOPTLCK

*ESCAPEメッセージ

OPT1318

ファイル名が長すぎる。

トップ

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries

LPDA

OfficeVision

OS/400
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan